

やまと市民討議会

報告書



平成 25 年 3 月

大 和 市

目次

1.開催趣旨.....	1
2.参加者選定の方法.....	1
3.プログラム.....	2
4.当日の市長あいさつ.....	3
5.検討の進め方.....	4
6.検討結果.....	6
(1) 人の健康	
①心身の健康について.....	7
②高齢者、障がい者などへの支援について.....	15
③子育て支援について.....	23
④学校教育について.....	31
[講師講評].....	39
(2) まちの健康	
⑤安心安全を感じる生活について.....	41
⑥快適で利便性の高い街づくりについて.....	49
⑦環境への配慮やまちの緑化について.....	57
[講師講評].....	69
(3) 社会の健康	
⑧豊かな心を育む生涯学習、文化活動について.....	71
⑨まちの活力や賑わいについて.....	79
⑩大和の魅力のPRについて.....	87
[講師講評].....	99
7.講演	
(1) 講師プロフィール.....	101
(2) 講演(抜粋).....	102
8.市民討議会参加者数等.....	118
9.市民討議会アンケート.....	119

1.開催趣旨

大和市では「健康創造都市 やまと」を将来都市像とした「第8次総合計画」に基づいて様々な施策を展開しています。総合計画は、市政運営の最も基本となる計画で、大和市のすべての行政施策に関わる基本方針を示すものです。

前期の基本計画が平成25年度に終了するため、現在、平成26年度から30年度までの5カ年に係る後期基本計画の策定に向け準備を進めています。

計画の策定に際し、これからの大和市の課題、解決策などについて、市民の皆さんのご意見をいただくために、平成24年10月13日（土）および平成24年10月20日（土）の2日間にわたって『やまと市民討議会』を開催しました。

2.参加者選定の方法

無作為に抽出した18歳以上の市民3,000人に参加案内を送付し、その中より応募のあった市民の方、27人に参加していただきました。

また、無作為抽出による市民の方とは別に、市内の高等学校4校（大和西、大和東、聖セシリア女子、柏木学園）から13人の生徒に参加していただきました。

さらには、市民の方と接し、行政のプロとしての能力アップのため、本市の若手職員16人が参加しました。

☆会場の様子☆



3.プログラム

1日目

日時：10月13日（土）午前10時00分から午後4時30分まで

場所：市地域医療センター2階講習室

時間	内容
9:30～10:00	受付
10:00～10:05	・開会、主催者あいさつ
10:05～10:10	・「やまと市民討議会」開催の趣旨説明
10:10～11:00	・討議の進め方、市の概要、総合計画について
11:00～12:00	・講演：市民社会を確立するための制度設計の考え方 ・講師：国土館大学 平石正美 教授
12:00～13:00	(昼食)
13:00～13:05	・市長あいさつ
13:05～13:40	■討議の準備（人の健康） ・テーマに関する情報提供 ・役割分担の決定
13:40～15:30	■討議
15:30～15:35	(休憩)
15:35～16:15	■討議内容の発表（各班5分）
16:15～16:25	・平石教授による講評
16:25～16:30	・事務連絡、解散

2日目

日時：10月20日（土）午前9時00分から午後4時45分まで

場所：勤労福祉会館3階ホール

時間	内容
8:30～9:00	受付
9:00～9:05	・あいさつ、日程の確認
9:05～9:40	■討議の準備（まちの健康） ・テーマに関する情報提供 ・役割分担の決定
9:40～11:20	■討議
11:20～11:25	(休憩)
11:25～12:10	■討議内容の発表（各班5分）
12:10～12:20	・平石教授による講評
12:20～13:20	(昼食)
13:20～13:55	■討議の準備（社会の健康） ・テーマに関する情報提供 ・役割分担の決定
13:55～15:35	■討議
15:35～15:40	(休憩)
15:40～16:25	■討議内容の発表（各班5分）
16:25～16:35	・平石教授による講評
16:35～16:40	・主催者あいさつ
16:40～16:45	・事務連絡、閉会

4. 当日の市長あいさつ

..... 大和市長 大木 哲（おおき さとる）

本日はお忙しい中、「やまと市民討議会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

現在、本市では「健康都市」の概念を中心に様々な施策を体系的に位置づけ、進めています。健康は、幸せに直結し、誰もが望む最も基本的な願いです。すべての市民に共通するこの願いを将来都市像として明確に位置づけ、平成 21 年度からスタートした総合計画による市政運営も今年で 4 年目となります。来年度の平成 25 年度には、前期の基本計画が終了します。これまでの取り組みによって着実に出来た部分もあるとは思いますが、急激な高齢化など様々な問題があるのが現実であり、まだまだ成果としては不十分です。

今後は今までの基本計画を引き継ぎつつ、新たに取り組む施策など、これからの市政の方向を後期基本計画に位置づけ、更なる成果を求めていきたいと考えています。

これまで、市政について意見を述べる方々は、一部の限られた市民でした。そこで、率直な意見、生の声を少しでも多く伺いたいと考え、市民討議会を行う運びとなりました。

今回の参加者選定の方法は、いわゆるサイレント・マジョリティ(英: silent majority: 「物言わぬ多数派」、「静かな多数派」)と言われる方々の声を多く聴取するという、一つの大きな目的を果たすための有効な手段です。

無作為に抽出した約 3,000 人の市民にご案内を送付し、その中から参加をしようと手を挙げてくださった方々に本日、お集まりいただきました。つまり、皆様がサイレント・マジョリティであるとも言えます。地域や日常生活で改善点を思いついても、通常はそれを発信する機会や場所がないと感じている方が多いのではないのでしょうか。

今回は、市政の基本となる計画の見直しであり、家で言えば土台作りの作業と言えます。市としては、皆様方の意見を大切に、活かしていきたいと考えています。

本市において初めての試みとなる市民討議会は、市民参加の新たなスタイルであり、今後の市政推進の原動力になると考えております。また、参加いただいた皆様にとっても市政について主体的に考えていただく良い機会になると、大いに期待しています。

市民討議会の開催は、初めてのことであり、最初から完璧には行かないこともあります。今後、自治体の中で様々なことを決めていく上で、重要な取り組みになっていくと考えています。皆様のご意見をいただき、試行錯誤しながら継続的に行っていきたくと思っています。

そうした意味では、ここにお集まりの皆様方が始めの一歩となります。皆様の後ろに道ができ、皆様方が築いていく。どうか、この体験を楽しんでいただき、自由な発想でご意見を交わっていただきたいと思います。これからもよろしく願いいたします。



5. 検討の進め方

市民討議会は、**これからの大和市における課題や解決策**などについて、**参加者が主体**となって話し合う場です。

誰もが自由な発想で意見を出し合えるように、少人数の班を編成し、その中で議論しながら、班ごとに意見をまとめていただきます。

参加にあたっては、最低限のルールがあります。

■ルール

- ✓自由に発想し、他人の意見を否定しない
- ✓お互いの自主性を尊重する
- ✓全員が発言する
- ✓考えが変わった場合、意見を変えてもよい
- ✓必ず結論をだす

討議の前に、次のような準備をします。

■討議の準備（約30分）

- ◇テーマに関する情報提供（市の職員から）
- ◇役割分担を決める（進行、書記、発表者など）

討議は、※KJ法という手法を使い、次のように進めていきます。

■討議の流れ（約110分）



※KJ法（Step 1～4、Step 5～7）は、各自の頭の中にあるぼんやりとした意見・アイデアをグループ化し、論理的に整理する手法です。

討議のあと、班ごとに発表をします。

■討議内容の発表（各5分）

- ◇班ごとに、出された意見やまとめた課題、解決策などを発表します。

<作業シート（イメージ図）>

検討テーマ：	
●グループ	メンバー名
【強み】	【弱み】
【課題整理用作業スペース】	
大和市が抱える課題	課題への対応方針・解決策
①	
②	
③	



6. 検討結果

1日目には8グループ、2日目には7グループに分かれて話し合いを行い、テーマごとに各グループの意見をまとめて、発表してもらいました。

なお、テーマごとにグループメンバーを入れ替え、討議を行いました。

■検討テーマと担当グループ

※（高）=高校生

	テーマ	担当グループ
1日目 午後	(1) 人の健康 ①心身の健康について ②高齢者、障がい者などへの支援について ③子育て支援について ④学校教育について	①第1G、第2G（高） ②第3G、第4G ③第5G、第6G ④第7G、第8G（高）
2日目 午前	(2) まちの健康 ⑤安心安全を感じる生活について ⑥快適で利便性の高い街づくりについて ⑦環境への配慮やまちの緑化について	⑤第1G、第2G ⑥第3G、第4G ⑦第5G、第6G、第7G（高）
2日目 午後	(3) 社会の健康 ⑧豊かな心を育む生涯学習、文化活動について ⑨まちの活力や賑わいについて ⑩大和の魅力のPRについて	⑧第1G、第2G ⑨第3G、第4G ⑩第5G、第6G、第7G（高）

☆話し合いの様子☆



☆発表の様子☆



～討議の様子～

高校生については、高校生のみで討議グループを編成し、若者ならではの発想で意見を述べてもらうことにより、一般の方々のグループも良い刺激を受け、討議会全体が活性化されました。

(1)人の健康 : テーマ①心身の健康について

1グループ

【強み】

- (地域・自治会)
 - ・ お祭りが好き (なんか多い)
 - ・ 自治会で地域の人を守る活動をしている
 - ・ 自治会での踊りが活力になっている
 - ・ 若手が多い
 - ・ 自治会、運動会がさかん
 - ・ 特に中央林間周辺
 - ・ 年輩のサポートがあるから
- (環境施設)
 - ・ 南部は緑・公園が多い
 - ・ 緑が多いので、空気が良い
 - ・ 県央なので、都市部の大病院へのアクセスがよい
 - ・ 公園が多いので、ラジオ体操がしやすい
 - ・ 地域のコミュニティセンター等で体操クラブに参加者が多い
- (検診)
 - ・ 検診により早期発見につながる
 - ・ 年1回の健康診断があること。早期発見に繋がる
 - ・ 個人個人が健康に対しての取り組みや努力をしている
 - ・ 無料クーポンなど、市の健康診断を勧めてくれて、検診に行く人も増えている
- (緊急医療体制)
 - ・ 徳州会病院に入院したとき、退院後に電話があり、様子を心配していただきました
 - ・ 救急車が早く来た
 - ・ 市民討議会のこの機会を企画したことが、大和市の強みになる大きな活力になると思う

【弱み】

- (地域 自治会)
 - ・ ころころサポーターの権限がない
 - ・ 民生委員・児童委員の負担が大きい
 - ・ 高齢者の一人住まいの把握は？
 - ・ 高齢者の自治会離れが多くなってきている
 - ・ 大和市は高齢者に対して、長寿への恩恵が少ない？
- (環境施設)
 - ・ 林の中にゴミが多く汚い
 - ・ 不法投棄が多い
 - ・ 北部にはスポーツをするところが、少ない
 - ・ 文化施設が少ない
 - ・ 電柱が多く、交通に不便で危険
- (検診)
 - ・ のろっとバスの停留所を増やしてほしい
 - ・ 高齢者が病院へ受診する足がない
 - ・ 高齢者の健康診断を受けるのが減少している
 - ・ 検診通知は来るが、受診率が低い
- (緊急医療体制)
 - ・ 市立病院の救急医療の対応が不明確
 - ・ 夜間救急が心配
 - ・ 狭い道が多いので、救急車が入りづらい場所が多い
 - ・ 病院についてからが、長くて不安
 - ・ 道路が渋滞しやすく、救急車がスムーズに走れない
 - ・ 病院間の連携はどうなっているのか
 - ・ 夜間対応 外科、小児科、内科、産科
 - ・ 救急医療情報キットの存在を知らなかった



【課題】

(救急医療体制)

- ・ 救急体制の不備を感じる
- ・ 市民病院の医者を増やす
- ・ 市立病院が、全科ではないが、多くの課が救急対応出来るようになる
- ・ 高齢者用に、病院受診時、送迎車を出してほしい

(活動に対する楽しみを作る)

- ・ 行きたくなる検診をめざす
- ・ 検診の結果が怖いと思うと受けにくい
- ・ 広報の拡充。こころサポーター、救急医療情報キットなど
- ・ 健康診断受診者には、5年、10年証明書を渡す

(自治会・地域)

- ・ 民生委員・児童相談員の増員
- ・ 耳が不自由な人たちも安心して参加できる場所
- ・ 話し合いの仕方の工夫が必要
- ・ 子育ての悩み、介護のつらさと弱者に対してのコミュニティの絆を具体的に
- ・ 多くの住民が自治会へ入会できるよう、市からサポート（援助）が必要
- ・ 自治会活動に対する行政（市）のサポート
- ・ 市の単位での、それぞれの世代へのつながるサークル的なことや、老若男女が集い合うイベントなどを企画によって増やしていく
- ・ 自治会での高齢者の（独居）見守り
- ・ 大人同士も、大人が子どもたちに知られていなくても、声をかけ合える町づくりを！

(環境・まちづくり)

- ・ 粗大ごみも週で回収してほしい
- ・ 電柱を地下に埋める
- ・ 緑がもっと増える。子どもたちが外で遊べるスペース。公園の遊具をもっと増やして
- ・ サイクリングロードや、スケートボードなどが出来るようなスペース



大和市の主要課題

1. 緊急医療体制の向上
2. 検診への参加
3. 地域の活性化や環境の美化

主要課題への対応方針・解決

1. 医師の増員、夜間対応の拡充
2. ・楽しみをもって参加できるように！
・送迎支援
3. ・緑の増加とごみの減量化
・皆が参加しやすい自治会に！

6. 検討結果-(1)人の健康-①心身の健康について-1グループ

作業シート (写真)

討議テーマ
心身の健康について

グループ
1

【強み】

- お祭りが多い
- 自給自足の運動会
- 自給自足の運動会
- 年配者の絆が強い

【弱み】

- 民生委員児童委員負担が大きい
- 高齢者の孤立
- 認知症の増加
- 夜間対応の不足

環境

- 緑地が少ない
- 高齢者の孤立
- 認知症の増加
- 夜間対応の不足

検査

- 検査の早期発見
- 検査の結果がわかる
- 検査の結果がわかる

緊急医療体制

- 救急車の早来
- 救急車の早来

自給自足地域

- 自給自足の運動会
- 自給自足の運動会

環境

- 緑地が少ない
- 高齢者の孤立
- 認知症の増加
- 夜間対応の不足

大和市の地域重要課題
① 緊急医療体制の向上
② 検査への参加
③ 地域・環境の活性化

課題への対応方針・解決策
医師・職員 夜間対応の充実
絆を維持して参加の増加へ 送迎支援
絆の増加と認知症の減速化
絆の参加(ヤミ自治会に)

討議内容の発表

【強み】

- ・ 強みとして、地域・自治会ではお祭りがすき、自治会の地区を守る活動が良くされている、若手が増えている、運動会を良くやっている、盆踊りなど活力のある活動がされている。
- ・ 環境施設では、南部は緑・公園が多い。緑が多いので、空気が良い。県央なので、都市部の大病院へのアクセスがいい。公園が多いので、ラジオ体操がしやすい。地域のコミュニティセンター等で体操クラブに参加者が多い。
- ・ 検診により早期発見につながる。年1回の健康診断があること。個人個人が健康に対しての取り組みや努力をしている。
- ・ 無料クーポンなど、市の健康診断を勧めてくれて、検診に行く人も増えている。
- ・ 緊急医療体制では、徳州会病院に入院したとき、退院後に電話があり、様子を心配して下さった。救急車が早く来た。市民討議会という、この企画をしたことが大和市の強みになる、大きな活力になると思う。などが挙げられた。

【弱み】

- ・ 弱みとして、地域、自治会では、こころサポーターの権限がないので、サポーターと名前はあっても機能していない。民生委員・児童委員の負担が大きい。高齢者の一人住まいの把握ができていない。高齢者の自治会離れが多くなってきている。
- ・ 林の中にゴミが多く汚い。
- ・ 緊急医療体制では、医療体制の不備が挙げられた。

【課題・解決策】

- ・ 課題としては、活動において楽しみをつくることで、検診の受診者を増やす工夫、地域の自治会では、いろんな年代の人達が話し合うことが出来るよう考えることが必要。また環境では、まちづくりや粗大ゴミの対応、電柱などが多いため、美観を損ねるということが挙げられた。
- ・ こういった対応を考えていくことで、心身の健康にも繋がっていくのではないかと考える。



(1)人の健康 : テーマ①心身の健康について

2グループ★高校生

【強み】	【弱み】
<p>(メンタルサービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休日、夜間診療などの取り組みによって、市民に安心感を与えることができる ・ SC (スクールカウンセラー) さんが頼りになる! ・ 相談所がある (気軽に相談できる) <p>(健康意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら健康づくりに取り組んでいる市民が増えている ・ 川沿いを走っている人をよく見かける ・ 老人でも健康に良く取り組んでいる (取り組みやすい環境が出来ている) <p>(施設の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院がたくさんある ・ 市民の健康のための、サービスが整っている ・ 福祉施設が充実している <p>(交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人との交流ができています ・ 知らない人でも、関わりが多い (交流が多い)、助け合いができる <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自殺者が減っている 	<p>(情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大和市を良く知らない人が、病院の位置が分からない ・ 救急医療情報キットを配布していることを知られていない ・ ころころサポーターがあまり知られていない ・ 様々なサービスに取り組んでいるわりに、市民への認知度が低い ・ 各種サポートの詳細が分からなく、サポートを望んでいる人たちが申し込みにくいのではないかと <p>(病気に関する意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 22年度から23年度にかけて、急激にストレスやメンタルヘルスに関する相談が多くなっている ・ 高齢者のインフルエンザ予防接種受診率が減っている ・ 乳ガンや子宮ガンの検診を受ける人が少ない (減ってきている) ・ ガンに対する意識が高まってきているのに、医師が不足している ・ 若い世代の健康づくりに取り組んでいる人が少ない ・ 20代、30代の健康づくりの取り組みが、あまりできていない <p>(環境について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故が多い ・ 市立病院利用者が2006年以降、少なくなっている ・ 学校にクーラーがなく、学べる環境が整っていない (授業に集中できない)



【課題】

(きもち)

- ・ 他人を思いやる

(学校の環境)

- ・ 学校にクーラーをつけて下さい

(人との交流)

- ・ 福祉施設との交流
- ・ 交流の場を増やす（お互いの健康を確認し合う）
- ・ 市民が参加しやすいような、イベントなどを増やす
- ・ 気軽にできる健康づくりを広める

(環境)

- ・ SCさんだけでなく、先生にも気軽に相談できるような環境に！
- ・ 病気の相談について、相談しやすい環境を作る
- ・ 健康づくりのしやすい環境をつくる

(宣伝)

- ・ サービスについて、もっと宣伝する
- ・ 病院でのサービスをもっと大々的に
- ・ 様々なサポートをより認知されるよう、宣伝する
- ・ 各医療サービスを知ってもらうために、チラシ等を投函する
- ・ いろんな病気の恐ろしさを知る



大和市の主要課題

1. 医療サービスの宣伝
2. 病気について相談しやすい環境づくり
3. 人との交流（声かけ）

主要課題への対応方針・解決

1. 掲示板、回覧板、チラシの配布
2. ・ 他人との壁をなくし、親近感の醸成
3. ・ 参加しやすいイベントづくり
・ 交流の場を増やす

作業シート (写真)

討論テーマ **心身の健康について**

グループ **2**

健康意識

メンタル(サービス)

施設の充実

【弱み】

情報提供

病気に附する寛容

環境に学ぶ

交流

【課題】

きもち

人との交流

環境

学校環境

宣伝

大和市が抱える主要課題	主要課題への対応方針・解決策
① 医療サービスの宣伝	掲示板、回覧板、チラシの配布
② 病気に付いて相談しやすい環境作り	他人との不寛容をなくし、親近感の醸成
③ 人との交流	参加しやすいイベント作り 交流の場を増やす

討議内容の発表

【強み】

- ・ 強みとして、メンタルサービスとしては、休日、夜間診療などの取り組みによって、市民に安心感を与えることができるなど、メンタルサービスが充実している。また、自ら健康づくりに取り組んでいる市民が増えており、市民の健康意識が高まっていることも良いことだと思った。
- ・ 病院がたくさんあり、市民の健康のための、サービスが整っている。さらに福祉施設が充実していること、地域の人との交流も盛んであることも良いことだと思った。

【弱み】

- ・ 弱みとしては、大和市を良く知らない人が、病院の位置が分からない、様々なサービスに取り組んでいるわりに、市民への認知度が低いなど、情報提供があまり出来ていないところである。また、乳ガンや子宮ガンの検診を受ける人が少ない、病気に関する意識が低いことが問題だと思った。

【課題・解決策】

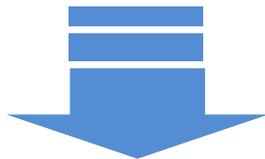
- ・ 課題としては、人との交流、環境、宣伝と3つが挙げられた。
- ・ 人との交流としては、お互いの健康を確認し合うために、交流できる場所をつくる、市民が参加しやすいイベントを増やすといったことである。
- ・ 環境は、病気の相談をしやすい、健康づくりをしやすい環境をつくるといったことが挙げられた。
- ・ 宣伝は、大和市は様々なサポートをしているわりに、認知度が低いので、それらを知ってもらう、また、病気の恐ろしさを知ってもらうことが必要であると考えた。
- ・ 行政に期待することが多いが、自分ができることをまずは考えた場合、他人を思いやることを考えた。一番簡単に出来ることから始めることが大事だと考えた。
- ・ 大和市が抱える主要課題として、医療サービスの宣伝がある。医療サービスがあまり知られていないため、宣伝を増やした方がよい。そのために、掲示板や回覧板で知らせる、チラシの配布等が考えられる。
- ・ 病気について相談しやすい環境づくりとしては、他人との壁をなくし親近感を醸成するということを考えた。
- ・ 人との交流を行うことで、お互いの健康を確認し合うことが出来ると考えた。そのために、参加しやすいイベントづくりや交流の場を増やすということ考えた。



(1)人の健康 : テーマ②高齢者、障がい者などへの支援について

3グループ

【強み】	【弱み】
<p>(施設：多)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者の施設が充実している ・ 若い人が多い ・ 介護施設の数が多い ・ 市の各地域に施設有り ・ (知っている範囲の) 高齢者の職員が、まじめに取り組んでおられる ・ 医療等の施設の立地 <p>(シルバー人材センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シルバー人材の豊富さ ・ シルバー人材センターの仕事がある <p>(快適性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して散歩できる緑地 ・ 緑・自然が多くある ・ 坂道が少なく、移動しやすい ・ 市民参加のイベントの数 ・ 市民活動への支援制度 	<p>(施設：少)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護施設が少ない ・ 介護施設の老朽化 ・ 各種施設のPR 不足 ・ 航空機の音、うるさい ・ 大きな病院への交通の便が悪い ・ 市立病院の待ち時間が長い ・ 市の窓口の利用のしにくさ ・ 消防署の数が少ない ・ 耐震制度を充実させる ・ 交通事故が多い <p>(ネットワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若い人が高齢福祉を知らない(私も!) ・ 若い人、外国の方々とどのように絆を結んでいく場があるのか、よくわからない ・ 地域支援のつながりをどう見つけるか ・ 未来の生活設計が立てられない <p>(高齢者福祉サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢人口の割合高 ・ 高齢者優遇サービス ・ 家族介護をしている人の、経済状態および生きがい



【課題】

- ・ 緑の保全
- ・ 環境保全
- ・ 自然豊かな暮らしやすい街づくり
- ・ 助け合いの地域ネットワークづくり
- ・ 若い人も参加しやすい、高齢者・障がい者への支え合い
- ・ 高齢者のひとり暮らし問題
- ・ 災害への対応
- ・ 公共（市営）の施設を高齢者視線で見直す（75歳前後の意見を聞く）
- ・ 利用しやすい施設づくり（公共）
- ・ 公共サービスの充実
- ・ 皆にやさしい街づくり
- ・ 高齢化を想定したサービスづくり
- ・ 高齢者向けサービスの充実
- ・ イベントPRの充実
- ・ まちの中にイスが少ない



独自の検討視点：誰もが安心して暮らし続けられる街・大和市

大和市の主要課題

1. 誰もが暮らしやすい環境づくり（高齢者・障がい者・おなかの大きなお母さんなど）
2. 助けあいの地域づくり
3. 弱い立場の方の視点に立ったサービスづくり

主要課題への対応方針・解決

1. ・緑の保全・活用
・施設の利便性の向上
2. ・ネットワークづくり
・ネットワークの周知
・自治会活動の活発化
3. 弱い立場の方に配慮できるように職員等の質を向上する

討議内容の発表

【強み・弱み】

- ・ 強み・弱みとして意見をランダムに出した結果、老人の施設が多いという意見もあれば、少ないという意見もあった。その理由を考えたところ、大和市のPRが少ない、どこに何がある、ということを知らないのではないかと、といったことが考えられた。
- ・ また弱みの一つとして、ネットワークについて様々な意見が出てきた。このネットワークについては、若い人や外国人も含めて、絆となる場所がないのではないかと結論に至った。ネットワークがないのではなく、ネットワークとなる場所がないという意見が出ていた。これについても、なんらかの手を打つべきだと考えた。
- ・ 高齢者に対する福祉サービスが他市に比べて少ないのではないかと、といった意見が出た。これは知らないだけかも知れない。
- ・ 大和市独特なものとして、飛行機の騒音が挙げられた。騒音問題は高齢者にとって問題と考えた。
- ・ 強みとしては、あまり出てこなかった。まちに坂が少ない。また、安心して暮らせるまちでもある。

【課題・解決策】

- ・ 課題としては、緑の保全とネットワークが挙げられた。この結果、誰もが暮らしやすいまちが挙げられた。これは、障がい者や妊婦も含めてオモテに出て出来ないことはないか、そういった施設をつくることは出来ないか、といったことが挙げられた。
- ・ また、助け合いの地域づくりとして、助け合いのネットワークが広報活動で出来ないかということが挙げられた。
- ・ 弱い方の視点に立ったサービス。弱い方もこの場に参加しても良いのではないかと考える。
- ・ また緑の保全や施設の便利性の向上を図ってほしい。町の中に椅子があっても良いと思う。
- ・ ネットワークづくり、ネットワークの周知、自ら自治会活動を行う、といったことも挙げられた。
- ・ また弱い立場の方に配慮できるよう、職員の質の向上も図っていただきたい。先導を取るのは市役所になると思われるので、検討をしていただきたい。



(1)人の健康 : テーマ②高齢者、障がい者などへの支援について

4グループ

【強み】

- ・ 市の福祉活動の「広報活動」は積極的と思う
- ・ 高齢者が地域の活動に参加している
- ・ 自治会活動が私の地区では、活発と思う（生きがい）
- ・ 近隣住民の付き合いがある
- ・ 町おこしへの取組も積極的（幕末住宅の再建）と思う
- ・ 高齢者が元気
- ・ 平均よりは高齢化が進んでいない
- ・ 運動施設やコミュニティバスなど、施設やインフラがどんどん良くなっている
- ・ 公共交通機関が整備されている（電車など）
- ・ パトロール巡回、救急車がすぐ来てくれる
- ・ 自然が多い。災害が少ない

【弱み】

- ・ 高齢者の活動が、高齢者のみになっている（世代間交流が少ない）
- ・ 地域への参加に年代差がある
- ・ 施設が少ない
- ・ 古い公共施設が多く、バリアフリーが進んでいない
- ・ 地域によって、狭い道路があり、介護用の車が通りにくい
- ・ 職場が市外だと、市や地域の活動に参加しなくなる
- ・ 市外に働きに出る若者が多い（家族の介護しにくい）
- ・ 高齢者の介護、民生委員の不足
- ・ 人口増加に比べて高齢者の予算が低いように感じる
- ・ 能動的に情報収集をしないと、サービスを受けられない
- ・ 自治体の活動に参加しきれない高齢者もいる（組長できない）
- ・ 高齢者の介護、情報不足（行政）
- ・ 制度が分かりにくい（ひとり暮らしの老人は、自分で申請できるのか）
- ・ 施設で受けられるサービスが分からない
- ・ 老人クラブへの参加者が少ない理由は、魅力が少ないから
- ・ 老人というくくりでの扱いに拒否感がある（年齢を超えたコミュニティがない）
- ・ 看護など、問題に直面しないと知らないことが多い（行政活動の認知度が低い）



【課題】

- ・ 市は広報活動を行っているが、市民に伝わっていない
　　<上記原因> 受け手側にやさしい情報提供をしていない
- ・ 情報は自治会に入っていないと入手できない
- ・ 具体的に何か起こったときに、どの窓口に行けばいいかわからない



大和市の主要課題

1. 福祉情報の具体的な入手
2. 高齢者の生きがい活動の活発化
3. 民生委員、介護施設の不足

主要課題への対応方針・解決

1. ・相談窓口の一本化
　　・(自治会に頼らない) 情報提供の多様化
2. ・若い世代の自治会入会を促進
　　・生きがい施設の増設(図書館)
　　・老人クラブの名称変更
3. 不足補充のための予算化

討議内容の発表

【課題・解決策】

- ・ 結論として挙げられた一つ目として、福祉情報の具体的入手方法が見えないということである。両親や身内が認知症や障がい者になった場合、誰に相談して良いのか分からない。事業計画や広報についても、情報としてあるが、どこで相談して良いのか分からない、といったことが挙げられた。
- ・ そのため、相談窓口の一本化といった意見が挙げられた。
- ・ 市の方は代表にかければ、と思うかも知れないが、総合窓口は細かい相談はしにくい。専門家に相談できる窓口ができないか、といった意見が挙げられた。また、毎月の広報が自治会経由で配布されているが、自治会の加入率は74%となっている。中央林間地区は58%に減っている。それ以外の方は情報過疎になる。コンビニにも設置しているが、情報提供の多様化を検討する必要があるのではないかと。
- ・ 二つ目は、高齢者の生きがい活動の活発化が挙げられた。具体的には、若い世代の自治会活動の参加への促進、生きがい施設の増設が挙げられる。大和市は図書館や音楽ホールなどが無い。図書館等の施設が不備であると考えている。また老人クラブという言い方は、差別的であると感じる。
- ・ 三つ目は民生委員や介護施設が不足していると感じる。ある地域では、民生委員の23名に対し、要介護者は650名ほどいる。何かの時に対応しきれない人数ではない、と考える。これらの予算化をしてもらい、対応をしてもらいたい。



(1)人の健康 : テーマ③子育て支援について

5グループ

【強み】

(活躍の場、施設)

- ・ コミュニティセンターはいい場所
- ・ 色々な施設が近い、診療時間外でも診てくれる医療機関がある
- ・ 整備された子どもの遊び場が増えた
- ・ 24時間育児、健康相談等、相談できるルートがある

(市民活動交流)

- ・ 市民活動がさかん
- ・ 地域の交流が多い
- ・ お祭り等で人が集まる日が多い。交流
- ・ 昔と変わらない(全部ひっくるめて)

(コミュニティ)

- ・ 近所の顔が見える
- ・ 廻りの方が子育てを見守ってくれる(おせっかいすぎない)
- ・ 地域の方が子どもを見てくれる(しつけ etc)、シルバー世代の方が元気である

(緑、環境)

- ・ 緑が多い
- ・ まだまだ自然が多い

(人口維持、活性)

- ・ 子どもたちが子どもらしい
- ・ 比較的若い世帯が多い
- ・ 開発地区期待!!
- ・ ずっと住んでいる人からの評判は良い(住みやすい etc)

【弱み】

(保育の質と量)

- ・ 保育園が少ない
- ・ 待機児童数が減らない
- ・ 預けて働く理由が理解されていない
- ・ 子どもを遊ばせる施設が少ない(交通手段がない)
- ・ 一時的に預かってもらえる施設がない(知らない)

(情報共有)

- ・ 支援策のアピール力が足りない
- ・ 知られていないことが多い(事業や活動)
- ・ 知らない市民も悪い
- ・ 細長い市なので、知らない地域が多い
- ・ 他市の良いところを取り入れない
- ・ 色々な活動があるのに、情報が届いてない
- ・ 放置地帯がある(汚い)
- ・ 他市から移ってきた人からの、評判が悪い
- ・ ボランティアが少ない!!
- ・ ボランティア活動のやり方を推奨されているか、わかりづらい

(治安)

- ・ 治安が悪い

(コミュニティ)

- ・ 良い意味でのお節介者がいない

(その他)

- ・ 縦割りすぎる、コミセン利用
- ・ 学校は少人数指導が本当にできているのか
- ・ 予防接種の負担が大きい。医療費が高い
- ・ 大和への愛着がやすい
- ・ 職員が少ない(一人に割り当てられる仕事が多い)
- ・ 迷子の(探し人)放送が聞き取りづらい



【課題】

- ・ 保育園とボランティアの連携
- ・ 待機シルバーの活用
 - ↓
- ・ 子どもを預けたい親のニーズに対応できない保育施設
 - ↓
- ・ 必要な施設やサービスは整っているが、市民が利用できない（市→サービス提供の仕方、市民→自ら知る方法）
 - ↓
- ・ 自然は多いが、ただ残っているだけ。きちんと整備して残すべき！！
 - ↓
- ・ 開発されている地区なので、人が集まる。人口維持！！



大和市の主要課題

1. 子どもを預けたい親のニーズに対応できない保育施設及び家庭の事情を把握できていない行政とのギャップ
2. 必要な施設やサービスは整っているが市民が利用できていない
3. 自然は多く、公園もたくさんあるが、ただあるだけで整備されてない場所が多い。安心して子どもを遊ばせられない

主要課題への対応方針・解決

1. ・ 保育施設及び行政とボランティアとの連携をとる
 ・ 待機シルバーを活用して、育児をお手伝いしてもらえる環境づくりをする
2. サービス提供の方法を工夫する。見やすい、読みたいと思う広報誌づくりや、若い世代向けにサイトやツイッターなどを利用。※市民側も情報を得ようとする意識を持つ。
3. 新しい場所を開発するだけでなく、昔から残る公園や広場を見直し、整備する

作業シート (写真)

討議テーマ **子育て支援について**

グループ **5**

活動の場

- コミセン 12ヶ所
- 地域の活性化
- 子育て世代の交流の場
- 子育て世代の交流の場
- 子育て世代の交流の場

市民活動

- 市民活動 市民活動
- 市民活動 市民活動
- 市民活動 市民活動
- 市民活動 市民活動

子育て支援

- 子育て支援 子育て支援
- 子育て支援 子育て支援
- 子育て支援 子育て支援
- 子育て支援 子育て支援

保育の質

- 保育の質 保育の質
- 保育の質 保育の質
- 保育の質 保育の質
- 保育の質 保育の質

情報共有

- 情報共有 情報共有
- 情報共有 情報共有
- 情報共有 情報共有
- 情報共有 情報共有

その他

- 子育て支援 子育て支援
- 子育て支援 子育て支援
- 子育て支援 子育て支援
- 子育て支援 子育て支援

大和市が抱える主要課題	主要課題への対応方針・解決策
<p>① 子育てを預けた親のニーズに対応できない保育施設及び家庭の事情を把握できない行政との連携</p> <p>② 必要な施設やサービスは整っているが市民が利用できていない</p> <p>③ 自然は別公園もたくさんあるがただ整備されてない場所が9割に達していることを述べてほしい</p>	<p>・保育施設及び行政とボランティアとの連携をとる</p> <p>・「機シバ」を活用して育児をお手伝いしてもらう環境を作る</p> <p>・サービス提供の方法を工夫する。見やみ、言やみなど、声かけや作りかき世代向けにサイトやインターネットなどを利用。※市役所も情報発信を向上させる意識を持つ</p> <p>・車止り場所を開発するだけでなく、昔ながらの公園が広場を見直し、整備する。</p>

討議内容の発表

【強み】

- ・ 強みとしては、ハード面として活動の場の施設が多い。コミュニティセンターや公園が多く、他の市よりも多いと感じている。都心にもアクセスが良く、それに対して緑が多い地域であると感じる。ソフト面では、地域の活動や祭りなど市民同士が集まる場が多い。

【弱み】

- ・ 弱みとしては、保育の質と量で、保育所はあるが少ないと感じる。行政からは、ニーズが多く追いついていないといった説明があった。また情報共有についても、広報や冊子などでPRはしていると説明があったが、実際に市民に伝わりきっていない現状がある。一時保育や預かり保育もあるが、それが知られていないことが問題であるという意見があがった。また、治安の悪さなどが挙げられた。

【課題・解決策】

- ・ 最重要課題としては、預けたい親のニーズに対応する、といったことが挙げられる。子どもも高校生くらいに成長すれば、大和市は住みやすくなるが、生まれてから小学生までは育てにくい環境があるという意見があった。
- ・ 解決方法として、行政とボランティアが提携するといったことがある。ボランティアは現役を退いた方々が多く、経験が豊富である。また時間もたくさんある。この状況を利用しない手はないと思う。このメリットを弱みの部分に補完するといった対策が挙げられた。
- ・ またアピールの仕方として、子育てをする人達は20～30代であり、ネットに詳しい世代でもある。広報誌を配布しても見ることは難しい。使い慣れているインターフェイスを用意し、ネットを媒介とした宣伝活動を行うと良いのではないかと考える。
- ・ 最後に自然が多く公園もあるが、整備されていない場所が多い。遊ぶ場所があまり無いので、そういったところを整備する。遊ぶ環境や保育の基盤を整備すれば、両親は働きやすくなり、働けるということは、市の財政も増えることになるので、相乗効果として有効であると考えます。



(1)人の健康 : テーマ③子育て支援について

6グループ

【強み】	【弱み】
<p>(遊び場は多い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然が残っている ・ 公園が多い ・ 公園がある(地域の中に) ・ 公園施設(大規模)が多い ・ 遊ばせる場所が多い ・ 子育て支援、交流の場がけっこう多い <p>(幼稚園)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園の数が多い ・ 幼稚園が多い <p>(親切な高齢者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同世代が多い ・ 高齢者が多い ・ 地域の人やさしくて、声かけしてくれた 	<p>(でも足りない公園・幼稚園・保育園)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公園に遊具が少ない ・ 遊具の管理ができていない ・ 事故の度に遊具が減る(ツリーガーデンなど)。ケガも大事 ・ 人口密度が高い <p>(ヘルプ・困ったときに)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一時預かりをしてくれる市の保育園が少ない。あっても高い ・ 緊急時に預けられる場所がない ・ 夜間の相談窓口がない <p>(子育て環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パチンコ屋が多い ・ ゲームセンターが多い ・ 騒音(飛行機) ・ 交通量が多い ・ 住宅街にはいると、夜は真っ暗すぎてこわい(街灯が少ない) ・ 交通量が多い ・ 歩道が少ない ・ 幼稚園近隣の道路状況(大型車の通行など) ・ 予防接種の種類が増えているのに、補助金がないのが多い



【課題】

<p>(自然・公園を活かす)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼い子どもが遊べる ・ 自然教室を増やす ・ 公園などでの出前子育て相談、遊びのイベント等 <p>(子育てを助けてくれる仕組み(自分たちで))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てに協力してくれる地域の人を増やす ・ 年寄りとの交流をする ・ 高齢者の有効活用をする ・ 共助組織を進める ・ 子育て支援員(訪問してくれる) ・ 親世代の人との交流、機会を増やす ・ 子どもの見守りを地域でする体制がほしい <p>(子育てを助けてくれる仕組み(公助))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育ママ制度を作る ・ 総合窓口(ワンストップ)が必要 ・ 子育て支援センター設置。窓口、ネットワーク、ハード、ソフトの充実 ・ 子どもの一時預かり、緊急時の預かりの場を増やす。案内を分かりやすくする ・ 緊急保育の対応施設を増やす 	<p>(情報が届いていない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援メール(未就学世帯にも) ・ 情報不足→あっても知られていない ・ 子育て関連の情報を得やすくする。市HPの改善等 ・ 学区内はあるが、子育て向け危険箇所マップ等の作成 <p>(まちづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅地の交通規制を厳しくする ・ ミラーの数を増やす ・ 街灯の電球を明るくするか、LED化する ・ 都市整備を進める <p>(お金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てにかかるお金(世帯)と手当や助成の仕組みがマッチしていない ・ 子ども手当を個人に配らず、市が一括管理して予防接種の無料化をすすめる ・ 予防接種の補助を増やす <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児救急を増やす ・ 保育園を増やす ・ 地域の実態が分からない ・ 地域の協力を得るには？
---	--



独自の検討視点：若い親が安心して子育てできる街

大和市の主要課題

1. 地域で子育てを助ける仕組み
2. 世代を超えたコミュニケーションの機会づくり
3. 子育てにはお金が必要!!

主要課題への対応方針・解決

1. ・子どもあずかり隊をつくる(親世代・高齢者)
・メールでの情報提供(検診時に登録をすすめる)
2. 自然教室での多世代間コミュニケーション(きっかけづくり)
3. 予防接種の助成金を増やす

討議内容の発表

【強み】

- ・ 若い親が安心して子育てできる街について、話し合った。将来を担う子ども達をどう育ていくかということで、強みとしては自然・緑地がある、保育園がある、交流の場があるといったことが挙げられた。

【弱み】

- ・ 弱みについては、公園の遊具が少ない、危険性がある取り外しされた公園を含めて、飛行機の騒音やパチンコ店、交通量の多さなどが挙げられる。また、困ったこととして、緊急に熱が出たりした場合、相談する窓口がないといったことが挙げられた。

【課題・解決策】

- ・ 課題としては、公園が活かされていない。協力し合う地域の人を育てていく。子どもはお金をかけるのではなく、地域の知恵と力で見守り、育てていき、未来を担う子どもたちを大和市全体で育てていくというスタンスが必要であり、その声を様々な媒体を使って発信していくことが必要である。大和市は子育てに力を入れていると市民が誇れる環境を育てていくことが、必要である。地域で子育てを助ける仕組みをつくるのが大切である。
- ・ 世代を越えたコミュニケーションづくりが必要。高齢者は経験が豊富で知恵があるため、新米ママにアドバイスをする、またそれを活かすことが財産であるとする。
- ・ 小学校に入るまではお金が必要になるため、そういったものも考えていかないといけない。
- ・ 子どもを地域で見守っていくということで、預かることにし組織化し地域で運営していくことが必要であり、そういったことを行ってはどうか。また、メールで情報提供をしていくことも必要と考える。検診等の案内を市からメールを通して発信する。また自然教育のコミュニケーションについては、これから高齢化社会となるので、子どもたちを見守って、子どもたちとコミュニケーションをもって、勉強を行う、といった場所をどのようにつくっていくかということが、市としてもポイントになるのではないかと。次に予防接種の助成金を増やすということで、3歳児までは無料とすることを、まち全体で考えていかないといけない。子どもたちにこれだけお金をかけている＝希望としている、ということで市民と市とがお互いに意欲も沸き、相乗効果をあげることが大事である。
- ・ 未来の宝＝子どもをどう考えていくかは、大和市民全体が考えていかないといけないことである。



(1)人の健康 : テーマ④学校教育について

7グループ

【強み】	【弱み】
<p>(挨拶)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ、声かけ運動 ・ 声かけ、あいさつ運動 ・ 元気なあいさつ ・ ごみ捨てをしている人とも、あいさつをしている ・ ふれあい広場 <p>(スポーツ教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ ・ 有名スポーツ選手等が多く、子どもたちのスポーツに対する感覚が良くなるものと思われる <p>(輪ができる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一日が元気に始まる ・ 孤独になりにくいのでは？ ・ コミュニケーションにつながる。多くなる ・ 知らない人だけ「ホッ」とする ・ いじめ：思いとどまる。くい止める 	<p>(スポーツ教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちのスポーツの場所が少ない。特に、サッカーをやろうとする子どもが多いが、公園や広場等は芝生になっていないところが多く、市でもう少し考えてほしい ・ 使用して良いグラウンドが少ない ・ スポーツセンターの使い方 <p>(輪ができる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 差がある ・ コミュニケーション不足 ・ 声かけ運動（働きかけ）うすい。どうカバー？ <p>(教育現場における体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生の責任感のなさ ・ 人生、友達のことを相談できないのでは ・ いじめに対応できる先生はいる？



【課題】

(地域活動による教育)

- ・ 学校と若い大人との接点が薄い
- ・ なぜ公立×私立？
- ・ 大人・子ども関わり方
- ・ 社会人が進路相談。仕事を教える
- ・ 一緒に考える場づくり
- ・ 塾に行かなくても、教えられる人が地域にいるのでは？
- ・ モンスターペアレンツ
- ・ 全国的に同様であるが、子どもの教育はすべて学校に負荷、責任を先生に押し付けている親が多い。基本的な子どもの教育は家庭であることを忘れないでほしい

↓↑

親の教育

親の考え方

(いじめ問題)

- ・ いじめる、とりまき、いじめられる。大人も気持ちをみんなで考える
- ・ あらゆる関わりを通して、家庭での話し合いをできるようにする

(自然と教育)

- ・ 泉の森、教育の場となっていた
- ・ 自然多い(身近)→ふれる、遊ぶ、あらゆる「良さ」に
- ・ 緑が多く子どもたちの精神的な面で、良い面が多い
- ・ 自然環境を活かした教育
- ・ 野外活動
- ・ ナイフ、ナタの使い方
- ・ よもぎ団子、たんぼぼ
- ・ 竹とんぼ、ゴルフクラブ振り→算数の教育へ
- ・ 泉の森。イモを植えて、芋掘り。焼き芋

(遊びが苦手な子)

- ・ どのように教えるのか？
- ・ ボランティア
- ・ 自治会を通じて、ボランティアを出す
- ・ しらかしの家。職員の方とのタイアップ
- ・ 放課後こども教室に参加する
- ・ 子どもの利用率向上！！
- ・ メニューを考えていく



大和市の主要課題

- ・ 人づくり
- ・ いじめ問題

主要課題への対応方針・解決

- ・ 挨拶、声かけ運動（独居老人への声かけ）
- ・ スポーツ教育
- ・ 教育現場の体制
- ・ 地域活動による教育

討議内容の発表

【課題・解決策】

- ・ 結論としては、人づくりに問題があると考え。いじめの問題も個々に該当すると考えられる。
- ・ 解決策としては、挨拶・声かけ運動、スポーツ教育、教育現場における体制、地域活動による教育を挙げた。
- ・ いじめの問題は今、非常に大きな問題とされている。共通することとして、いじめをする人そのものを何とかしないといけないのではないかと、と共通の意見があがった。その人づくりのために、どのようにすればいいのか考えた場合、挨拶と声かけ運動について、通勤時間等、登校班や瓶の回収業者が四つ角に立っていて、そういった方々が挨拶をしているのが良いと感じた。ここでの挨拶や声かけ運動は大人からの一方的なものではなく、子どもたちからも挨拶をするということである。そういったことを行うと、どのようなことが起きるかということ、声をかけあうことで、みんなの輪ができる。そうすると、知らない人でも声をかけられると、ホッと大いにされているという気持ちになる。
- ・ スポーツ教育では、ボールを使って広場で遊ぶことが出来なくなっている。スポーツセンターを使用できないかということが、挙げられた。
- ・ 教育現場における体制として、いじめの問題が生じたときに先生の責任感がなく、人生や友人について相談が出来ないのではないかと感じた。いじめに対応できる先生もいるのか、そういった体制そのものが出来ているのか、ということで、教育現場の体制を整えることが大事であると感じた。
- ・ 地域活動による教育では、自然を用いてうまく教育に取り入れられないかと考えた。子どもだけでは難しいので、大人や「泉の森」など施設と連携をとりながら、自然を通じて万人が声をかけあうことで、親子の間でも家に帰って楽しかったと感想を言い合え、続くことによって悩みの相談が出来ていくようになればいいと考える。特にいじめの問題として、家庭での話し合いは必要と考える。学校に頼るだけではなく、全体を通じて万人が共通し解決していくべき事だと考える。



(1)人の健康 : テーマ④学校教育について

8グループ★高校生

【強み】

(学校)

- ・ 英語の先生がきてくれたり、でてくれる (外国の方)
- ・ いじめ解消率が大きく変わり、高くなった
- ・ 学童保育が各学校にある

(図書)

- ・ 本を読む人が増えた
- ・ 図書館の利用が多い
- ・ 幼稚園、小学生に向けて、絵本や小説を読んであげる

(地域)

- ・ 寄り道ができるところがいっぱいあって、次の日も頑張ろうって気持ちになれる
- ・ 泉の森や引地台のプールなど、子どもの遊べる大きな施設が多い
- ・ 子どもが遊べる公園がたくさんある
- ・ 小学校などのふれあい広場での、地域の皆さんとの交流が盛ん
- ・ 3:55/4:55 に、この時間ですよーという知らせの音が鳴る
- ・ 市内をよく警察が見回っていて、子どもが安心して遊んでいられる状態がつくられている

(通学)

- ・ 青いパトカーが市内を回っている
- ・ 父兄の皆さんが、防犯パトロールの自転車で回ったりする
- ・ 登校班があり、比較的 안전한道が選ばれている
- ・ 市内全域に放送がかけられる

【弱み】

(通学)

- ・ 交通量が多いので、小中学生の通学中の時、危ない
- ・ 歩道を通る自転車が、非常に危ない
- ・ 大通りが通学路に設定されていて、危ない
- ・ 細い道を朝は通行止めにすべき
- ・ 歩道が狭い

(いじめ)

- ・ いじめ問題について表面的な解消しかしていない
- ・ 資料のいじめ解消率が大人からの視点であって、子どもからの視点での解消率なのか不明
- ・ 全国と比べて、不登校生徒が多い

(治安)

- ・ 不良が多い
- ・ 夕方になると、駅前に怪しい人がいっぱい出てきて、帰り道が怖い



【課題】

<p>(通学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通のルールが守られていない ・ ちゃんとした交通ルールを学べるような機会がない ・ 路駐が多いので、道幅が狭くなっている危険 ・ 自転車と歩行者が接触しそうな道が多い ・ あやしいお店の客引きや、酔っぱらいと子どもの行動範囲がかぶっている <p>(図書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の見た目がカッコイすぎで、勉強が嫌いな人は入りにくい ・ もっと本をたくさんの人に読んでもらう ・ 本の宣伝ができていない 	<p>(スクールライフ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しい学校が作れていない ・ 先生と生徒のコミュニケーション ・ いじめの全体的な実態を把握できていない ・ 学校は多数派の人だけが楽しめるような環境を作ってしまったので、少数派の人たち(変わった人?)は楽しめない <p>(治安)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 治安が悪い ・ 警察の方がもっと見回った方が・・・
---	--



大和市の主要課題

1. 先生と生徒とのコミュニケーションがとれておらず、いじめの全体的な実態を把握できていない

2. ちゃんとした交通ルールを学べるような機会がないため、ルールが守られていない

3. 普段、本になじみのない人にも本を読んでもらいたいけど、図書館の見た目が入りづらい

主要課題への対応方針・解決策

- ・ いじめが本当に終わっているのか、教師が見るべき
 - ・ 不登校の人やいじめられている人が、気軽に相談できるような場所を増やす。いじめに関するアンケートを増やして行う。
 - ・ 学校での生活を楽しくする
 - ・ いじめた子といじめられた子と双方の親と担任との話し合い等
 - ・ みんなが楽しく学べる学校をつくる
- ・ 定期的に交通安全教室を実施する
 - ・ 登校班に親を付き添いとして、一緒に登校する
 - ・ 広くて車のおりが少ない道を、通学路に設定する方が良い
 - ・ 自転車専用レーンをつくる
 - ・ 自転車が歩道を走らないようにする
 - ・ 駐輪場を増やす
- ・ 小さい頃から児童教育で読書をすれば、成長していく中で、非行に走らず徐々に治安等の問題も解消していくのでは？
 - ・ 図書館に行きやすく。(数を増やす)(駅の近くに等)
 - ・ 図書館や図書室に新しく来た図書を、もっと広告すべき
 - ・ 図書館をもっとオシャレにする！！(例：スタバなど)

作業シート (写真)

討議テーマ **学校教育について**

グループ **8**

【強み】

- 図書**
 - 本をたくさん読む人が少ない。
 - 本をたくさん読む人が少ない。
- 通学**
 - 公共交通機関が不便。
 - 公共交通機関が不便。
- いじめ**
 - いじめが多い。
 - いじめが多い。
- 治安**
 - 治安が悪い。
 - 治安が悪い。

【課題】

- 通学**
 - 交通ルールを守られていない。
 - 交通ルールを守られていない。
- 図書**
 - 図書館の良さが伝わっていない。
 - 図書館の良さが伝わっていない。
- スクリーンタイム**
 - スクリーンタイムが多い。
 - スクリーンタイムが多い。
- 治安**
 - 治安が悪い。
 - 治安が悪い。

大和市が抱える主要課題

1. 生徒と生徒とのコミュニケーションがとれておらず、いじめの全体的な実態を把握できていない。
2. 交通ルールを学ぶような機会がないため、ルールが守られていない。
3. 普段本になじみのない人にも本を読んでもらい、図書館の良さが入り込んでいる。

主要課題への対応方針・解決策

- 1. 生徒と生徒とのコミュニケーションを促進する。
- 2. 交通ルールを学ぶ機会を提供する。
- 3. 図書館の良さを伝える。

討議内容の発表

【強み】

- ・ 大和市の強みとして、海外の人が多く住んでいるので、学校に外国人が教えに来てくれるといった意見があがった。また、いじめの解消率が高く、学童保育が各学区に設置されている。図書館の数が増え、本を読む人が増えた。泉の森など子どもが遊べる施設が多くあると感じる。
- ・ 大和市の各設置場所からスピーカーでお知らせが鳴ることも良いことだと感じる。また帰宅時には青パトカーが市内を回っているなど、そういったことが強みと考える。

【弱み】

- ・ 弱みは、小学生が歩く道なのに、交通量が多い。歩道を自転車が走っており、歩道が狭まる。またいじめの問題も本当には解消が出来ていない。全国と比べて不登校が多く、不良も多い。夕方になると不審者が出る。

【課題・解決策】

- ・ 課題については、交通のルールが守られていない、ちゃんとした交通ルールを学べるような機会がない。路駐が多く道幅が狭くなっていて危ない。自転車と歩行者が接触しそうな道が多い。あやしい店の客引きや、酔っぱらいと子どもの行動範囲がかぶっている。図書館の見た目がカッコワシすぎて、勉強が嫌いな人は入りにくい。もっと本をたくさんの人に読んでもらう。本の宣伝ができていない。楽しい学校が作れていない。先生と生徒のコミュニケーション。いじめの全体的な実態を把握できていない。学校は多数派の人だけが楽しめるような環境を作ってしまったので、少数派の人たちは楽しめない。治安が悪い。警察がもっと見回った方がいいといった意見が出た。
- ・ 大和市が抱える主要課題として、先生と生徒とのコミュニケーションが取れておらず、いじめの全体的な実態を把握できていない。いじめが本当に終わっているのか、教師が見るべき。
- ・ 不登校の人やいじめられている人が、気軽に相談できるような場所を増やす。いじめに関してのアンケートを増やす。学校での生活を楽しくする。いじめた子といじめられた子と、双方の親と担任との話し合い等。みんなが楽しく学べる学校をつくる。といったことが挙げられた。
- ・ ちゃんとした交通ルールを学べるような機会がないため、ルールが守られていない。定期的な交通安全教室を実施する。といったことが挙げられた。
- ・ 普段、本になじみのない人にも本を読んでもらいたいけど、図書館の見た目が入りづらい。小さい頃から児童教育で読書をすれば、成長していく中で、非行に走らず徐々に治安等の問題も解消していくのでは？といった考えから、図書館に行きやすくする。図書館や図書室に新しく来た図書を、もっと広告すべき。
- ・ 図書館をもっとおしゃれにする！！（例：スタバなど）といった意見が挙げられた。



[講師講評]

..... 国士舘大学政経学部教授 平石 正美 氏

- ・ 本日、集まった方は無作為で選ばれ、今朝までは知らなかった人同士がこれだけの話をした。これはすごいことだし、発表者の話を真剣に聞いて、様々な感想を持つこの空間が非常に重要である。
- ・ 高校生の皆さん、今回は、よそいきの言葉で語っていたようだが、今後は自分たちの言葉で語った方が良い。また分からないことは、はっきりと言った方が良い。若さというエネルギーの素晴らしさはそういったところにある。分からないことは恥じず、思っていることを口に出すということが、重要である。
- ・ 大きく寄せられた意見として、行政のサービスが分からない、といったことがあった。福祉のサービスが行われているが、どうやっているのかわからない。情報を伝えていくツール、世代別、分野別、ニーズ別に合わせてきちんと伝えられる仕組みが、まだ不十分である。これは多くのところがそうである。日本の役所は、やっているというポーズはつくるが、現実は何をやって、どこまで出来るのか、自分たちでニーズを掘り起こすことはなかなかうまくできない。
- ・ 福祉は、介護や病気などさまざまな問題が出てくるので、自治体ごとに福祉の総合相談窓口を設置し、ケアマネージャーなど含め、手続きなどをスムーズに行っている。これは、福祉と行政をうまくつなぎ合わせる、インターフェイスとして非常に重要である。
- ・ オーストラリアは非常に広報活動がうまい。パンフレットのつくりかたが芸術的であるが、サービスはほとんどやっていない。日本は他の国の自治体に比べれば、サービスは充実しているが、どこで何が出来るのかという PR の工夫が非常に少ない。ここが非常に大きな問題である。自分たちで出来ないのであれば、出来る仕組みをつくってはどうか。



- ・ アメリカではコミュニティネットワークという考え方がある。市の全体の問題は情報であり、なにか問題が発生した場合、検索するとすべて出てくる。ペットがいなくなったとき、病気の時などどうするか。これをつくっているのは、地域のNPOである。役所の情報は地域の情報網の一つでしかない。仕事を探したり、隙間時間に仕事をしたいといったことも、情報化することで様々な問題解決に繋がる。こういった仕組みをNPOがつくる。役所の仕事を全体で行っていく。
- ・ 例えば学校教育のなかで出来ることは、子どもたちと接していく中で、非常に少ない。親と接する時間の方が基本的長い。親、祖父母、友人、近隣の人々、そういった人達と繋がっているから、全体で育てていくという仕組みづくりをどうしていくのかが課題である。
- ・ 皆さんが知っていることと、役所が行っていることの差がありすぎる。この認知を埋めていくことも皆さん方のアイデアである。皆さん方が持っている情報を役所で持っている制度であったり、解釈、予算等と接合し、内容が変わってくる。つまり、プロセスを変えて、クオリティを変えていく仕事がこの話となる。これが出発点で、これからそういう問題をどう解決していくのか、ということにつながっていく。まさにこれはお互いが協力しあって、次の仕組み、問題を解決していく仕組みをつくっていただければと考える。

(2)まちの健康 : テーマ⑤安心安全を感じる生活について

1グループ

【強み】	【弱み】
<p>(防犯面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近所の人が温かい（声かけ等） ・ 危ない感じの外国人が減った ・ 夜間見回りなど、防犯努力している ・ 夕方の放送で時間が分かる ・ 青パトが走っている <p>(救急面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防車が良くまわってきて、点検をしている ・ 救急車がすぐ来る <p>(防災面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害が少ない ・ 引地川他、川幅が広がってきた（災害）対策 ・ 面積が小さい ・ 厚木基地を物資の拠点に使用できる <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑が多い ・ 大きなスーパーが多くなってきた 	<p>(交通事故)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区内に交通信号が少ない ・ 信号が多いので、渋滞する ・ 五差路が多くて危ない ・ 丸子線の道が狭い（事故の不安と渋滞） <p>(バリアフリー・自転車での移動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 細い道が多い ・ 道路の舗装。つぎはぎだらけ ・ 歩道と車道との段差が高い ・ 自転車で車を避けられない ・ ベビーカーでスーパーに行けない ・ 車椅子で移動できない ・ 自転車専用のレーンがない <p>(防犯灯など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅街の街灯が少ない、防犯灯が暗い ・ 暗い道がある ・ （見回り以外）大和市の防犯の取り組みが良く分からない <p>(騒音)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 航空機の騒音が大きい ・ 飛行機の騒音が増加している ・ 飛行機の音がうるさい ・ 航空機の音が前よりも夜遅くまで・・・ ・ 騒音（バイク他）（事故の不安） <p>(消防署)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 救急車がある消防署が少ない <p>(病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 救急に対応する病院不足（現場到着に対する、病院到着時間が長い） <p>(自治会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会の参加が少ない。60%前後 ・ 広報やまるとが周知されない ・ 老人の方が離れていく <p>(盗難・空き巣)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車、自転車の盗難



【課題】

(交通事故)

- ・ 車と人との共存

(治安)

- ・ 弱者をいかに助けるか？
- ・ 退職世代の協力
- ・ 地域の方と知り合いになりたい
- ・ 防犯カメラをつける
- ・ 近所付き合い←行政のサポートで
- ・ 防犯を PR する表示
- ・ 犬の散歩時に見守り
- ・ シルバー人材センターは名称良くない。ネーミングの工夫
- ・ なでしこ
- ・ ボランティア有償で



大和市の主要課題

1. 防犯対策の強化・充実、朝方の防犯対策

2. 道路事情

3. 自治会活動の弱体化

主要課題への対応方針・解決

- ・ みんなで守る
 - ・ 警察 OB の方の協力。小遣い程度は払う。
 - ・ 青パト活用
 - ・ 民間業者の協力。宅配、ヤクルト、新聞販売等
 - ・ 防犯灯、カメラの設置補助
 - ・ 子どもの頃から教育「あいさつから」
- ・ 車と人との共存
 - ・ 弱者にとって使いやすい道路整備
 - ・ 押しボタン式の信号
 - ・ スクランブル式の交差点
- ・ 主婦、退職世代の参加
 - ・ メリットを PR する
 - ・ 子どもが参加

討議内容の発表

【強み】

- ・ 強みに関しては防犯面で見回りをしてくれる、近所の人が温かい、といった意見が挙げられた。救急面は、消防車や救急車がすぐに来てくれる、防災面は、大和市は緑が多く、災害が少ないといったことが挙げられた。

【弱み】

- ・ 弱みとしては、強みよりもたくさん挙げられ、交通事故、バリアフリー、防犯、消防署、病院、自治会、といったテーマがいくつか挙げられたが、最終的に大きく取り上げられたところでは、防犯対策の強化・充実について、防犯が弱いのではないかとといったことが挙げられた。
- ・ 夜は、見回りをしてくれるといったこともあるが、高台はそれが弱いといった話もあった。また、道路事情についても、五差路が多く危ない、バリアフリーでは車椅子やベビーカーで移動するときに、苦労しているという話が出てきた。自治体活動の弱体化も挙げられ、参加も少なく、防犯隊の活動についても、基盤として必要ではないかといった話も出てきた。

【課題・解決策】

- ・ 解決策としては、みんなで守るといふところの考え方の重要さと、警察のOBや民間業者の協力を得て、朝方の防犯については、新聞、ヤクルト、宅配の配達をしている方々や、犬を飼っている人が散歩時にパトロールの腕章をつける等をして歩くなどの協力の下で対策をしていくことが挙げられた。
- ・ ハード面としては、防犯カメラを市から補助してもらい、強化していくといったことが挙げられた。みんなでそういったことを行っていけば、犯罪自体が少なくなるのではないかと考えた。また、子どもの頃からの教育ということで、小学生のころから挨拶をきちんとするようにすることが重要であると考えた。道路事情としては、車椅子やベビーカーなどに対応できる道路整備等、ハード面の強化が必要と考えた。
- ・ 自治会の活動の弱体化については、自治会の役割で、広報誌の配布や会費の調達がしきれないので、衰退していく。若い共働きの夫婦が入れないという理由は分かるが、年を取っていて、役割分担を担うことが出来ない、自治会に加入できないといったこともある、といった意見もあった。役割の見直しや組長の役割を自治会が行うのではなく、主婦や退職した人が行う、また自治会に加入することによるメリットをPRする、子供会などにもつなげる、そういったところから加入を促すといった意見があがった。



(2)まちの健康 : テーマ⑤安心安全を感じる生活について

2グループ

【強み】

- (地域のつながり)
 - ・ ごみの分別がエネルギーのためになっている
 - ・ 河川の補修工事を進めている
 - ・ 知り合いの方でドクターヘリで命を救われた方がいたので、ドクターヘリをスムーズに使えるように対策しておいてほしい
 - ・ 公園が整備されていて、いつもきれい
- (人のつながり)
 - ・ 各地区でパトロールを良くしてくれている
 - ・ 防災無線で色々な情報を教えてくれる
 - ・ 防災訓練が多く行われている
 - ・ 集団登校
 - ・ PSメールがある
 - ・ 自治会に加入し、行事など参加していくと地域の方とのコミュニケーションが取れて、安心
 - ・ 次男の行っていた大和市内の高校（大和南）は、先生とPTAの交流が良く、子どもが見えて安心の高校時代だった

【弱み】

- (地域のつながり)
 - ・ 騒音がすごい
 - ・ 航空機飛行
 - ・ 放射能の数値を知らせてほしい
 - ・ 甲状腺ガン検診をしてほしい
 - ・ 光化学スモッグ
 - ・ 病院のたらい回しで3件、大和市内を断られ、4件目、厚木の病院で救われたので、たらい回しの無いような対策を
 - ・ 救急車の来るのは早いですが、出発が遅い（病院が決まらない）
 - ・ 住宅街の中のマップが少ない
 - ・ 住宅街の中の信号が少ない。ミラーも少ない
 - ・ 住宅街に街灯が少ない
 - ・ 道路沿いの林の中にごみが多く、何か潜んでいないかと不安をかんじる
 - ・ 歩道足りない
 - ・ 学校近くでも、歩道が無く、車や自転車とぶつかりやすく危ない
 - ・ 電柱が多くて、地震の時、揺れていて不安
- (人のつながり)
 - ・ バイクの改造により、夜中迷惑している（特に夏）
 - ・ 学生の自転車縦列で走っているので危ない
 - ・ 学校など、集団生活する人達の食の安全が不安
 - ・ 防災訓練の参加者が、年々減っている。自分も行かなかつたりしてしまう。もっと声かけを
 - ・ ひとり暮らしの高齢者の孤立について心配
 - ・ 自治会に参加していない方は、安全があまり得られず、不安も多いのではないか。ひとり暮らしの方への声かけ



【課題】

(静かな暮らし)

- ・ 難しいけど、基地をなくして緑のスペースにする
- ・ 飛行場の移転
- ・ 騒音問題

(地域の取り組み)

- ・ 自治会等に参加しやすいプログラム等を考える
- ・ 世代を超えた声かけを自治会等の枠組みで進めてゆく
- ・ ひとり暮らし安心
- ・ 防災意識
- ・ パトロール中の人にはなるべく子どもたちとコミュニケーションを取ってほしい

(行政の取り組み)

- ・ 放射線情報、検査
- ・ 救急医療の安心
- ・ 情報の提供
- ・ 子どもたちの現状（心の中も）を仕事等で学校などに参加できない親御さんの方に、市の単位で情報をもらえる方法は？
- ・ 大和市の予算が少ないと聞いています。地域のつながりを整えるため、もっと予算を！！
- ・ 歩行の安全
- ・ 住宅街の整備（マップ、歩道、街灯、電柱など）
- ・ パトロールしながら、街灯、歩道、信号等、危険なところをチェックする
- ・ 高校生や大人の方々の交通ルールの徹底
- ・ 地域の何が必要なのかをデータとして拾ってゆくネットワークの強化を！！
- ・ 夜道の安心



大和市の主要課題

1. 静かな(騒音のない)暮らし
2. 地域の取り組み
3. 行政の取り組み姿勢

主要課題への対応方針・解決

1. 基地をなくす、移転
2. 世代を超えた地域でのコミュニケーション
3. 情報提供のネットワークの強化
・ 地域と行政と共に取り組む！

討議内容の発表

【強み】

- 人のつながりと地域のつながりに分けて考えた。地域のつながりとしては、ゴミの分別が数年前に始まったが、エネルギーのためになり結果的に良かった。河川の補修や工事も進めているし、公園がとても整備され、いつもきれいであり、子どもたちも遊びやすくなっている。知り合いの方にドクターヘリで命を救われた人がおり、大和市としてもスムーズに使えるよう対策をしてほしい。人のつながりとしては、パトロールを良くしてくれている。青パトも良く回っている。また防災無線でいろいろな情報も教えてくれて、皆で共有し合っている。防災訓練も集団下校も良く行われている。またPSメールも皆で共有し合っている。自治会に加入して行事に参加していると、コミュニケーションが取れて安心できる。先生とPTAがよく交流されており、子どもがよく見えていて安心な高校生活を送られていた。

【弱み】

- 航空機の騒音対策をお願いしたい。放射能の数値を知らせてもらいたい。甲状腺ガンの検診や光化学スモッグなどのデータも知りたい。救急車に乗ったがたらい回しで、4件目に厚木の病院で救われた。救急車が来るのも早いですが、病院を待っていて出発が遅くなった。住宅街のマップがほしい。住宅街の中の信号や街灯、歩道も少ない。そのため学校の近くで事故が発生する可能性が高くなるのではないかと。また地震のとき、電柱が落ちてくる不安もある。道路沿いの林の中にゴミが多く、そこに何か潜んでいるのではないかと。バイクの改造をした暴走族が夜中に騒音をたてて迷惑。学校に対する食の安全についても不安を感じる。高校生の自転車による縦列走行も、どのように対策をすればいいのか。注意したら逆に怖い目にあった人もいた。防災訓練の参加者も年々減っており、声かけが必要。自治会に参加しない人にどのように声をかけていけばいいのか。

【課題・解決策】

- 静かな暮らしをするために地域の取り組みで、参加できるプログラムを考えてもらいたい。パトロール中の人には子どもたちにもコミュニケーションを取ってほしい。世代を超えた声かけを自治会との枠組みで進めていくためにはどうしたらいいのか考えることにより防災意識も高まる。行政の取り組みとして、情報提供、子どもたちの現状把握など、市でも提供してくれると良い。放射能の情報や検診も進めてもらいたい。救急医療の安心も強めるなども検討してもらいたい。すべてを行うには、市の予算が少ないと思われるので、予算も増やしてもらいたい。
- 行政と地域の両方の取り組みとして、パトロールしながら危険なところをチェックしてもらいたい。高校生や大人の交通ルールの徹底、高校生や大人のほうがルールを違反しているのではないかと。地域に何が必要なのか、電灯を広げるネットワークの強化に取り組んでいきたい。すべてを行ったときに、夜道も歩くことが出来る。
- 主要課題としては、基地を移転してもらいたい。地域の取り組みとして、世代を超えた地域のコミュニケーションをやってほしい。行政の取り組みとしては情報提供のネットワーク強化、地域と行政と共にやっていくことが様々なキーワードとなるのではないかと考える。



(2)まちの健康 : テーマ⑥快適で利便性の高い街づくりについて

3グループ

【強み】	【弱み】
<p>(都市機能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設が駅より近い (病院、市役所、保健所等) ・ イオン etc、大型スーパーが多い ・ 街が (公園も) 整備され、近代的に見える <p>(コミバス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティバスの運用は高齢者に好評 ・ 見通しが良い (車を見やすい) ・ バス路線が多い。コミュニティバスのおかげで出かけられる方が増えた (年輩の方々) ・ コミュニティバス高齢者にやさしい <p>(道路)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路にごみが散らかっているところが少ない ・ 道路状況の確認・調査を良く行っている (溝のフタの補修) <p>(自転車)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車の貸し出しサービス (レンタル) が始まった ・ コミュニティ自転車等の取組はやりつつある <p>(公園)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模公園 (引地台、ゆとりの森) の駐車、駐輪場が良く整っている ・ 公園が多くある ・ 泉の森は大切にしたい ・ 泉の森、ゆとりの森 etc 広い公園が割と多い ・ 街角に小さな公園がある <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どものいじめ問題に熱心 ・ 市立病院の先生が増加。明るくなって良い ・ AED の設置が目につく ・ 電車の利便性は良い 	<p>(コミバス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バス路線が分かりづらい ・ コミュニティバスの本数が少なく、利用しづらい ・ コミュニティバスが混み、中で危険 <p>(自転車)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車道がない、未整備が多い、走りづらい ・ 駐輪場が少ない ・ 自転車泥棒が多い ・ 自転車のルールがない <p>(道路)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜市側との道路の連続性が良くない ・ 信号が多すぎる ・ 電柱が多い ・ 路上の消火器の配置は利用者がいない ・ 事故 etc で折れた、曲がった標識がそのままになっている ・ 朝・夕の渋滞が多い (特に踏み切り) ・ 道路が狭い <p>(公園)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公園に老人がいるのはゲートボールだけ ・ 公園が市の物置場になっている ・ 子どもの多い公園とまったくいない公園がある ・ 公園の雨よけの場所が少ない ・ 既存の公園 (古い) の整備状況が良くない (南部地域) ・ 新しい計画ばかりメインで放っておかれている場所もある <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 桜の通りが少ないのはなぜだろうか ・ 桜の木が年々少なくなってきた



【課題】

- ・ コミバスの利便性について
- ・ 自転車の利用推進整備について
- ・ 細い道路の整備
- ・ 既存公園の整備
- ・ 市民に対する自転車マナー教室



大和市の主要課題

1. コミバス運行の効率化
2. 自転車道の整備と乗車マナーの向上
3. 小規模公園の再生・整備

主要課題への対応方針・解決

1. 「のりあい」の利用を検討
2. 自転車の乗り方教室の開催など
3. 市と各自治会で話し合いを行う

討議内容の発表

【課題・解決策】

- ・ 課題としてあげられた、コミュニティバス、自転車の走行、小さな公園について検討した。コミュニティバスについては、北部は需要が減っている。
- ・ 南部については坂道が多く需要が増えているのにも関わらず、1時間に1本しか出ていないため、バスの中が混み、中で危険が生まれる。これを改善するには、お金がかかる。他地域で乗り合いという、大型乗用車を利用した、地域の方が発足した乗り合い自動車にて市民病院に行くというシステムが生まれている。市でも車やガソリン代を提供してくれる。よって市民は運転手を募ったり、駐車場を利用すれば生活が便利になることはわかったので、南部は無理であれば特に時間も増やす必要はないので、こういった情報を提供してもらい、市の方で発足し、私たちも協力して市民が使いやすい街にするというシステムを増やしていったらどうかという話にまとまった。
- ・ 自転車は利用する人が多い反面、専用道路が少ない。自転車の標識がついた道を見ることがないので、マナーが悪くなり事故を促進する悪循環となっている。小学生は自転車の乗り方講座もあるが、大人はマナーが悪い。それにはどうしたらいいのかということで、マナー教室を大人も行ってみたいかどうか。参加が恥ずかしいと思う人のために、市よりクーポン券などを出して参加を促しつつ、街の事業にも貢献するようなシステムを作ればどうか、といった話しにまとまった。
- ・ 小さな公園の整備については、ゆとりの森などはきれいになっているが、小さいところに目がいっておらず放置されている。行政はもっと下見をして、状況を把握してもらいたい。課題を地区の自治会に提供することで、地域はそれらを把握できるので、街のために喜んで動けるような活動が出来る。行政と市民がどちらも一方的にならないようにすればいいのではないか、といった話となった。
- ・ 街を良くするために、集まればこれだけの力が出るので、行政と市民が協力して良くしていこうという意識が生まれる。そうすると、市民は住みやすくなり、行政は市民を動かしやすいと思う。市民は行政に委ねるばかりではなく、行政も市民におろすだけでなく、どちらも意識を持った円が描けるような大和市になればいいと感じた。



(2)まちの健康 : テーマ⑥ 快適で利便性の高い街づくりについて

4グループ

【強み】

- ・ 横浜や都心が近い
- ・ 交通の便が良い。東京等
- ・ 市内の駅からどこへでも 20 分くらいで歩ける
- ・ コミバス
- ・ 公園が多い
- ・ 大きな公園が点在している
- ・ プロムナードが素敵
- ・ 行政の機関が市内にバランスよく配置
- ・ 大型食料品店など商業施設がバランス良くあり便利
- ・ 上下水道が市内ほとんどで整っていて快適に生活できる
- ・ 水がおいしい
- ・ 行政は全般的に良くやっていると思う。即実行する行政を続けてほしい

【弱み】

- ・ 飛行機基地
- ・ 学校上空を戦闘機が飛ぶ
- ・ バランス良く商業施設が配置されているが、核となる中心地がない
- ・ 北部ルートがわかりにくい
- ・ 空き地状態の公園多数
- ・ 都市化が進んでいるため、緑が少ない
- ・ 交通網が発達しているため、道路に面している公園が多く、子どもが安心して遊べる場所が少ない
- ・ 子どもたちがサッカーできる公園をつくってください。子どもたちがやっている公園のほとんどが禁止になって困っている
- ・ 大型公園が少ない
- ・ 老人会等が公園に花等を植えているが、公園づくりの指導者を養成してほしい
- ・ 無駄な農地がある
- ・ いつまでもプロムナードの煉瓦が壊れている
- ・ 利便性が高いため、通過してしまっている人が多い
- ・ 歩道が危ない
- ・ 交通渋滞・道路が狭い
- ・ 一方通行が多すぎる
- ・ 自転車多すぎ。放置自転車が減らない
- ・ 駐輪場が少ない
- ・ 歴史ある街並みの景観があまり保存されていなく、また新しくつくられた街道も統一感ある美しいところが少ない
- ・ 治安問題
- ・ 禁煙地区が守られていない
- ・ 市民の市民としての意識が少ない



【課題】

- ・ のろっとの利便性をあげる
- ・ 公共交通の見直し改善
- ・ バス・電車、車の導線の整備
- ・ 大きな交差点を見直す
- ・ 自転車駐輪場やのろっとの停留場など、わかりやすい標識の工夫
- ・ 駐輪場は適所に配置
- ・ 空地等、市が借り上げて広場をつくり、子どもたちのサッカーを支援していただきたい
- ・ 公園と農地の有効活用（融合の取り組みなど）
- ・ 公園等の整備
- ・ 大きな公園のみ整備するのではなく、日常使う公園をきれいに
- ・ 困ったことが多すぎ
- ・ 法令の強化・厳密化
- ・ 禁煙条例を守るべく対策を取る
- ・ 夜回り先生みたいな方が必要
- ・ 大和駅前を美しくする
- ・ 歩道の工夫（樹木やプランターなどで工夫）
- ・ 住民意識の市政への十分な反映（討議会を増やす）
- ・ NLPでもそうでなくても、抗議意見は伝えていく
- ・ 確かに不必要と思われる一方通行が多い。もう一度、警察と現場を視察して、不適切な一方通行は削除する



大和市の主要課題

1. **公園**・農地の有効活用
2. コミュニティバス(のろっと)の利便性をあげる(道路・交通)
3. 市民の意識が低い!

主要課題への対応方針・解決

1. ・ 使用されていない農地・緑地を子どもたちに開放
 - ・ 公園管理を徹底する。子どもが来ると街が変わる。
 - ・ サッカー場の整備
2. ・ 年代を問わず、使いやすさをリサーチして、対策する。
 - ・ 駐輪場を適正位置に配置・分かりやすいやすい案内地図
3. ・ 市民討議会の開催
 - ・ 意見を言える場を提供
 - ・ アピール力を上げる
 - ・ 行政が美化を意識させる

作業シート (写真)

快適で利便性の高い街づくりについて

グループ **4**

【強み】

- 緑地が交通の便を良くする
- 公園が大きな公園が点在している
- 水がおいしい
- 飛行機基地
- 学校上空を飛行機が飛ぶ
- 空の地帯が公園多量
- 自転車多量
- 放り投げた車が少なくない
- 駐輪場が少ない
- 治安問題
- 禁煙地区が中心で多い

【弱み】

- 歩道が狭い
- 交通渋滞がひどい
- 一方通行が多すぎる
- 大和郡が美しい
- 多量に緑地がある
- NLPでもやめてほしい抗議意見は伝えていく

【課題】

- のろのろの利便性をあげる
- 公共交通の見直し改善
- バス等、カーシェアを整備
- 大きな交差点をみなおす
- 公共施設の見直し改善
- 公園等の整備
- 大きな公園を整備する
- また、このことが多量に
- 法令の強化厳格化
- 禁煙令を厳格化
- 対策をとる
- 東回りなど、車の流れを改善

大和市の主要課題	主要課題への対応方針・解決策
① 公園・農地の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 使用されていない農地、緑地を子供達に開放 公園管理を徹底する。子供が来ると街が汚れる サッカー場の整備
② のろのろの利便性をあげる 道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> 0年代を問わず、使いやすくする為にリサーチする 駐輪場を適性位置に配置分ける。その対策する
③ 市民の意識が低い!	<ul style="list-style-type: none"> 討議会の開催・意見を言う場を足供 アピール力を上げる 美化を認識させる行政

討議内容の発表

【課題】

- ・ 大和市の主要課題として、公園、農地有効活用、のろっとの利便性をあげる道路・交通、市民の意識が低い、といったことが挙げられた。
- ・ 公園、農地有効活用として、公園自体の数は多いが、荒れていたり放置されていたり等、整備されておらず子どもが遊べない、といったことがあった。土地の有効活用でも子どもが遊びにくく、公園の意味がなされていない場所も多い。遊べるような場所が必要なのではないかと思った。

【強み】

- ・ のろっとの利便性をあげる、では、強みとして大和市では交通の便が多く、大きな公園がある。しかし、市内の交通に関しては、のろっとがあるが、ルートも北部と南部に限られており、ルートが分かりにくく、行き先が分かりにくい、といったことがあるため、分かりやすい運行の仕方などが必要と考えた。交通に関しては、バスではなく自転車や駐輪場の整備なども必要と考えた。

【弱み】

- ・ 市民の意識が低いのは、市民一人ひとりが行政に対して関心が低く、役所だと割り切ってしまう、自分の意見を言わない、といったことが挙げられた。

【解決策】

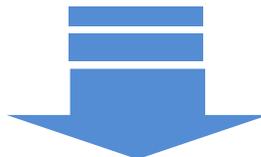
- ・ 対策としては、こういった討議会に参加する、市で行っていることの情報発信や広報やまとだけでなく、イベントの周知や市民の意識という点で活性化出来るようにする、といったことが挙げられた。
- ・ また美化という点で、駅前のプロムナードや公園の整備も合わせて行えるようにするには、美化を意識して行政に働きかけるのが良いのではないかと考えた。



(2)まちの健康 : テーマ①環境への配慮やまちの緑化について

5グループ

【強み】	【弱み】
<p>(緑)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然が残っている ・ 緑が多い ・ 小さな公園が多い ・ 公園に緑地が豊富 ・ 公園が多い(緑の保全) ・ 市民農園の確保 ・ 農園が多く利用されている ・ 畑が多い <p>(ごみ問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみは出しやすい ・ ごみの個別回収 ・ ごみの分別・リサイクルを理解してきている ・ ごみの分別がきちんとしている(細かい) ・ フリーマーケット等いらぬものを互いにシェアする活動が多い ・ 分別収集が積極的 ・ ごみの有料化で排出量の増加の抑制になっている <p>(CO2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの川がある(音・流れ) ・ コミュニティバス(のろっと)がある。車の量を減らしている ・ 市が狭いので、公共機関の公用車が多い→CO2排出量が少ない <p>(美化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 街が綺麗(ごみが少ない) ・ ごみがあまり落ちていない ・ 美化運動が地域で行われている(公園:ごみ拾い) ・ 地域住民の環境をよくする意識が高い(ごみ拾いなど) 	<p>(緑)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雑草の放置が多い ・ 手入れができていない緑地が多い ・ 農地の保全は、所有者に依存している ・ 家から道路に枝が出て、道路が狭くなっている ・ 市街化地域に開発が進み、緑が減少している ・ 天然の緑が減っている <p>(CO2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幹線道路付近の車両の騒音が酷い ・ 国道や幹線道路の交通量が多く、排気ガスが多い ・ 交通の便が良いので、車の滞留が多い ・ コミュニティバスの量が少ない(のろっとバス) ・ 道路が狭い。車の渋滞による排ガス(CO2)が多い ・ 森林が多い地帯は夜間通行が怖い ・ イベントの情報が共有できていない ・ 環境活動(イベント)に参加する人が、多くない気がする ・ ボランティア袋を受け取れる場が身近に少ない ・ 不必要なものを持ち合うイベントの場所が少ない ・ 世代の交流の場が少ない <p>(ごみ問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川が汚い ・ 道路のごみが多い ・ 住宅地を離れると、大きなごみが捨てられている ・ 家庭ごみの収集袋の色が目立つので、収集日は美観が悪い



【課題】

- ・ 農地の有効活用→所有者の高齢化→管理が大変→仲介組織がほしい→教育機関との連携、子どもの遊び場
- ・ 美化運動
路上のごみはどうする
不法投棄
↓
参加を促す周知方法
- ・ CO2 削減、市営バスの有効活用
- ・ 公園の立地→地域毎にムラ



大和市の主要課題

1. 遊休農地の有効活用
2. 美化運動の積極化
3. CO₂ の削減

主要課題への対応方針・解決

1. ・市の主導のもと、農地の管理と活用（仲介）
・民間組織への提供
2. ・視聴覚でのPR
・地域参加/住民同士の声の掛け合い
3. コミュニティバス（のろっと）の増加（台数・ルート）
・のろっとを電気自動車に

討議内容の発表

- ・ 環境への配慮やまちの緑化について討議をした。大きくテーマとしては、緑の問題、ゴミの問題、街の美化、CO2 などについて話し合った。

【強み】

- ・ ゴミの問題については、収集や分別がとても良くできており、他の地域に比べても良いといった意見が多かった。

【弱み】

- ・ 緑については、公園の多さにばらつきがあるということが意見として出てきた。

【課題・解決策】

- ・ 課題と解決方法については、3点あげた。緑の問題については、緑そのものが多いという意見は比較的多かった。ただ、緑が多くても放置されている場所も多いので、そこを有効活用していくべきではないか、といった意見が出た。民間で行っていくには大変なところもあるので、市が主導しての活動、仲介活動をして整備をしていく。ただ、市だけに任せているのではなく、民間組織も緑の保全をしていくという解決策が挙げられた。
- ・ 美化運動の積極化として、ゴミの収集についてはとても良くできているが、道ばたにゴミがポイ捨てされていたりなど、美化意識については欠けているところもある。その対策として情報の周知がされていないところがあって、イベントに参加していない人が多く、新しい情報ツールを使い、積極的な情報周知をしていくということが挙げられた。そういったイベントに参加することで、子どもから高齢者まで憩いの場になるので、子どもも街に対する美化意識が高まり、大人になっても引き継がれていく、良い循環が出来るのではないかと考えた。たくさんイベントに参加してもらい、街の美化意識を高めていければと考えた。
- ・ CO2 の削減として、この地域は交通量も多いので、CO2 が出やすい地域でもある。道が狭いので、渋滞が起きてCO2 が出ているといったこともあった。市営バスが少ないことがあるため、台数を増やして多くの人々が活用できると良いと思う。またルートも南と北のルートを一本化して、多くの人々が活用できるルートにするという考えた。市営バスを電気自動車にすることで、CO2 削減に貢献できればいいと考えた。



(2)まちの健康 : テーマ①環境への配慮やまちの緑化について

6グループ

【強み】

(自然と街の共生)

- ・ 川があるので緑がきれい
- ・ 魅力的な公園
- ・ 川の流れ
- ・ 綺麗な街なみ
- ・ 緑が多い
- ・ 泉の森の緑保全
- ・ ビオトープ

(行き届いたごみ行政)

- ・ 粗大ごみ回収早い
- ・ ごみ袋の有料化
- ・ ごみで温水プール
- ・ ソーラーパネル補助

【弱み】

(対応の不十分さ)

- ・ 場所によるが、緑の減少化
- ・ 街の中には緑が少ない
- ・ 住工混在

(河川環境の改善)

- ・ 魚にえさ
- ・ 川で遊べない
- ・ 上流部から排水
- ・ 河川水の臭気
- ・ 魚、食べれるレベル?

(ごみモラル低下)

- ・ ごみの排出
- ・ 不法ごみ
- ・ 人口増とごみ増
- ・ 新しい人の流入
- ・ ごみが分別化できていない
- ・ 外国人問題



【課題】

- ・ 共生をテーマにした街づくり
- ・ さらなる緑化
- ・ 共生教育、共生指導
- ・ ごみモラルの向上
- ・ ごみ出しモラルの向上
- ・ ごみの減量化
- ・ 川をもっときれいに！
- ・ 河川の水質向上
- ・ 環境向上への補助



大和市の主要課題

1. 自然との共生をテーマにした街づくり
2. ごみの減量化
3. 河川の水質向上

主要課題への対応方針・解決

1. グランドデザインの明確化
2. ・市内企業による過剰包装の低減化
・モラル向上・外国人への周知徹底
3. ・排水流出箇所の再考
・市独自の排水基準を設ける

作業シート (写真)

環境への配慮やまちの緑化

グループ **6**

自然と共生

- 緑化
- 緑のネットワーク
- 緑の公園
- 川の流

住工

- 住工
- 住工
- 住工
- 住工

ゴミ

- ゴミ
- ゴミ
- ゴミ
- ゴミ

【課題】

共生を
モラル
向上

さらなる
緑化

共生者
共生者

ゴミ
モラル
向上

ゴミ
モラル
向上

ゴミ
減量

河川
モラル
向上

河川
水質
向上

環境
向上
補助

大和市が抱える主要課題	主要課題への対応方針・解決策
① 共生を向上に繋ぐ	ボランティアの明確化
② ゴミの減量	市内企業による過剰包装の削減化。 モラル向上・外国人への周知徹底。
③ 河川の水質向上	排水流出箇所の再考。 市独自の排水基準を設ける。

討議内容の発表

【課題・解決策】

- ・ ポイントとして、自然とまちの共生がすごく整っていることが挙げられた。
- ・ 主要課題として、共生をテーマにしたまちづくり、ゴミの減量化、河川の水質向上が挙げられた。共生をテーマにしたまちづくりとしては、対応の不十分さがあるのでは、ということがあがっている。緑と住環境が隣り合わせになっているが、混じり合っていない。場所による緑の減少も見られる。街の中に緑が少ないということもある。住環境と混在しているところもある。対応策としては、街のデザインの明確化が必要と考えた。
- ・ ゴミの減量化については、ゴミの回収が行き届いていることが挙げられた。粗大ゴミの素早い回収、ゴミ袋の有料化などが挙げられる。しかし、ゴミ出しのモラルの低下も上げられた。ゴミが分別化されていないものもある、新しい人達が入ってきたときに、分別されていないといったことがある。外国の方がゴミの出し方を知らないといった問題もある。人口増によるゴミの増加とそれによってモラルも下がると思われる。対応策として、一つはゴミを減らすことを考える必要がある。
- ・ 大和市として出来ることがあれば、市内の企業による過剰包装の低減化をしてはどうか。モラルの向上としては外国人の周知徹底の必要性があげられた。
- ・ 河川の水質向上については、見た目には境川、引地川はすごく綺麗になっているが、においがする。これは上流から排水をしているためである。下水道処理施設で処理をした水ではあるが、川で遊べない。また魚にえさを与えすぎて川が汚れるといったこともある。それらを解決するには、排水そのものの流出箇所を考える必要がある。排水そのものの市独自の排水基準を設けることを提案する。



(2)まちの健康 : テーマ①環境への配慮やまちの緑化について

7グループ★高校生

【強み】	【弱み】
<p>(ごみ問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外にごみが散らかっていることが少ない気がする ・ 道に落ちているごみを地域の方が拾っている ・ ごみ少ない <p>(ごみ袋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ袋が指定されている ・ ごみ袋が有料化されているからこそ、市民のごみに対する意識は高い <p>(自然)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川がきれい ・ 緑が保護されている ・ 緑が多い(海老名よりは) 	<p>(ごみ問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たばこの吸い殻、やばい!! ・ 道路のごみとガムで汚い ・ 燃えないごみを分けるごみ箱が見あたらない <p>(緑)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑が思っていた以上に少ない気がする ・ 横浜より緑が少ない ・ 全体的には、保全を図っている緑地の面積が減っている <p>(リサイクル率)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクル率が低い、減っている <p>(生物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物をあまり見かけない ・ ゴキブリやネズミが出没する ・ ごみがあり汚いから、ゴキブリがよくいる <p>(騒音問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飛行機の音がうるさい



【課題】
<p>(伝え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市の決まりの伝え方 ・ 条例を市民に伝える <p>(自然)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 街をもっとかわいくする。花とか植木とか ・ 花を増やす ・ 緑を増やす ・ 緑を保護しているところは、引き続き行い、更に緑を増やす(少ない地域に) ・ 地域で管理する花壇をつくる <p>(害獣・害虫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 害獣駆除(ハエ・ゴキブリ等) <p>(ごみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみの収集の強化 ・ ごみ拾い活動 ・ ポイ捨てを厳しく取り締まる ・ ごみをどうにかして減らす ・ 市などが主催でごみ拾い運動などのイベントを開くべき

【課題の続き】

(リサイクル)

- ・ リサイクルの意識を高める
- ・ リサイクルの方法や、詳しい分別の仕方などを明確にする

(騒音)

- ・ 防音のガラスに取り替える
- ・ 飛行機を飛ばす時間を限定させてもらう。

(川)

- ・ 川のきれいさを保持する

(タバコ)

- ・ 喫煙者がポイ捨てしないよう、喫煙所などをつくり分煙する
- ・ 喫煙スペースがなぜか外にあるけど、意味ないと思うので、室内につくってください
- ・ 歩きタバコをする人を厳しく取り締まる
- ・ 喫煙スペースを増やす。禁止区域での喫煙を厳しく取り締まる



大和市の主要課題

1. ごみが多くて害虫が多い
2. 条例がきちんと市民に伝わっていないため、タバコのポイ捨てが多い
3. 緑が少ない

主要課題への対応方針・解決

1. ・ 害虫・害獣駆除
 - ・ リサイクルの意識を高める
 - ・ ごみの収集の強化
 - ・ ごみ拾い運動
 - ・ ポイ捨てを厳しく取り締まる
2. ・ 市のルールをパンフレットにして配る
 - ・ 喫煙スペースの増加。取り締まり強化
 - ・ 室内の喫煙スペースをつくる。分煙の強化
3. ・ 地域で管理する花壇をつくる
 - ・ 保護は引き続き行い、緑が少ない地域に緑を増やす

討議内容の発表

- ・ このグループは大和市に在住している人が一人もいないが、逆に他地域から見て感じたことを比較してあげていった。

【強み・弱み】

- ・ ゴミ問題では道に落ちているゴミが少ない、といった意見もある中で、吸い殻が多い、ゴミが落ちている、ゴミ箱が見あたらない、といったゴミが少ないといった地域もあれば、多いと思われる地域も多い。
- ・ ゴミ袋が指定・有料化されている、川がきれい、緑が多い、といった意見も挙げられた。
- ・ 弱みとしては、思っていた以上に緑が少ない、緑の面積が減っているといった意見も挙げられた。また害虫が多いことも挙げられた。また騒音問題も挙げられた。授業中も声が聞こえなくなるといった弱みが挙げられた。

【課題・解決策】

- ・ 課題としては、タバコのポイ捨てがあったり、喫煙スペースを増やす、といった意見が出た。道ばたでの喫煙禁止というルールを知らないという人のために、条例の伝え方について考えた方が良いという意見も出た。
- ・ ゴミ問題については、ポイ捨て防止、ゴミ収集の強化、リサイクルの意識を高めるといったことが必要と考えた。
- ・ 自然については、緑を増やす、街をもっとかわいくする、といった意見も挙げられた。
- ・ 害虫については、害虫駆除をする、といったことが挙げられた。
- ・ また、川を綺麗にする、保持する、花を植えるといったことが挙げられた。
- ・ リサイクルの意識を高める、ゴミ拾いをする、といったことをすべきと考えた。条例がきちんと市民に伝わっておらず、そのためにタバコのポイ捨てが多かったりするので、解決策として市のルールをパンフレットにして配布したり、室内の喫煙スペースをつくることが必要と考える。



[講師講評]

..... **国土舘大学政経学部教授 平石 正美 氏**

- ・ 地域力というのが基本的な力になる。コミュニティのまとまり、人のつながりの良さという視点が重要である。
- ・ 地域力は3点ある。一つは地域の連帯力、どうつながっていくのか。二つ目は地域がまとまった力をどう具体的な行動に移していくのかという行動力、三つ目は自分たちでいろんな課題があると思うが、それをどう解決していくのかという想像力。この3つが組み合わされて、地域社会はどんどん良くなっていく。
- ・ 各グループの発表を見ていながら、いくつかの共通項があると考えた。防犯、緑を守る、交通の問題を見ていくときに、自分たちの良いところ、悪いところ、課題、これらをどうみんなで共有していくのかといった重要な問題がある。自治体でつくっているハザードマップなどをみんなで作る、といったような解決方法が重要である。
- ・ 問題解決するときに、地域と行政が協力して問題を共有し、地域ごとにまちの代表者と行政の部署の担当者が一緒に歩いて、標識や反射板の付け方などを両方の視点で考える。
- ・ 子どもたちが遊ぶときも、危険な場所を双方が見ていくという仕組み、こういったコミュニティウォッチングが必要であると考え。いろんな地域の中で犯罪を抑止するということで、コミュニティと警察の活動を融合させることが重要である。外国に行くと良くあるのが、コミュニティウォッチという看板がついている。これは地域住民が警察の人達の役割も担っており、犯罪をする人を見張っているという意味である。やまとウォッチとして、一般化し見回りをしていく、タバコのポイ捨てなどを監視するといったことが、非常に重要であると考え。



講師：国土舘大学教授 平石 正美氏

- ・ タバコをここで吸っては危ない、ということを発信することで、子どもがタバコの吸い殻でケガをすることを防ぐといったことにも繋がると考える。
- ・ 利便性を高める、街の緑、景観の部分で美化といったことがあったと思うが、美化という言葉と都市が美しくなるという意味で、都市美という言葉がある。都市美という言葉がいつつくられたかという、大正時代になる。関東大震災の時に、東京が壊滅的被害を受けた。東京市長であった後藤新平がアメリカに、災害に強いまちにするために視察に行った。その結果、都市の景観が美しいというのは、道路や家並みが見た目としても美しく見えるところは災害にも強い。街を綺麗にしていくという視点、見た目の視点、これは防災だけでなく犯罪にも強いまちになっていく。
- ・ いろんな資源があるが、休耕地や使われていない農地について、関心があるのが市民農園である。子どもがいると、子どもが野菜を嫌いでも、自分のつくったトマトだと美味しい、といったように食育になる。これはぜひ協働事業で管理をしていけば、今度はもっと市民農園を広げていける仕組みが出来るのではないかと考える。都内ではほとんど空きがなく、やりたいけどその機会がないことが多い。農家の人達にしても、プラスになる。ひいては、管理できることによってCO2の削減にもなっていくのだろうという好循環になっていくと考えられる。
- ・ ぜひ、資源の有効活用をし、問題点は逆手にとって有効活用に変えていくアイデアを出し合うことをしていただきたい。

(3)社会の健康 : テーマ⑧豊かな心を育む生涯学習、文化活動について

1グループ

【強み】	【弱み】
<p>(施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の利用は改善され便利になった ・ 身近な学習施設が充実 ・ 市民活動がさかん ・ かなり自由に使える施設 ・ 学習センターが各地にある ・ 市民中心に活動が進む ・ サークルの多さ ・ 各コミセンを利用し、活動できる（住まいに近い） ・ 高齢者の学習者が多い。学習センター、スポーツセンター <p>(歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的文化財等 ・ それなりの歴史あり ・ 学ぶためのマンガあり（副読本） <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なでしこ女子サッカー→クラブ卒業生コーチにくる ・ 施設の利用者が多い。場所代が安い ・ 映画の撮影ポイントが多い ・ フィルムコミッション 	<p>(施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館が駅から遠い ・ 図書館の蔵書が少ない ・ 学習センターの所在地が分かりにくい ・ 芸術ホールが小さい ・ 大きなホールがない（1,000人程度） ・ 文化施設の不足 ・ 施設・文化財の知名度 <p>(歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土芸能が少ない ・ 郷土資料館の利用者減少はイベント性が少ないからと思う ・ 小学生に市の歴史を学ばせているのか ・ 古い街並みの保存は進んでいるのだろうか ・ 子ども達の学校から資料館への見学を進める <p>(生涯学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習をやりたい人の受け皿不足 ・ 知的要求は強いので、それに見合う講座等が必要 <p>(スポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 散歩道、サイクリングロードが分断されている ・ 芝生グラウンドの充実 ・ スポーツ施設が少ない ・ 地域で子どもたちと高齢者が共にふれあえる場所があるといい ・ スポーツ施設が北部地区に少ない ・ コミュニティセンターの場所取りが苦手。半日係る場合がある ・ 人工芝のスポーツ広場がない <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大和市の三大特徴はなんだろう ・ 芸術や文化に触れる機会を増やす ・ 市域の文化的一体感がない ・ 市民文化祭をアピールしよう



【課題】

- ・ 歴史を教える機会
- ・ 子どもへの教育
- ・ 企画性の重要さ
- ・ 図書館の内容充実
- ・ 時間延長
- ・ 文化施設
- ・ スポーツ施設の充実
- ・ 散策コース（マップあり）、ウォーキングの企画
- ・ 大和らしい伝統の掘り起こし
- ・ 行政主導
- ・ 本づくり
- ・ 地区ごと
- ・ 郷土史家を巻き込む
- ・ 高齢者を巻き込んで聴き取り
- ・ 資料館の有効活用



大和市の主要課題

1. 大和らしい伝統の掘り起こし
2. 図書館や文化施設の充実
3. スポーツ施設の充実

主要課題への対応方針・解決

1. 郷土史家、趣味のサークル等の活用
2. ・量より質の充実
 ・時間の延長
 ・新施設の建設
3. ・（スポーツ施設の）北部への進出
 ・なでしこ（女子サッカー）に特化する 他
 ・既存チームへの援助
 ・全国レベルへのサポート

作業シート (写真)

討議テーマ **豊かな心を育む生涯学習、文化活動について**

グループ **1**

強み (Strengths):

- 図書館の蔵書が豊富
- 市民の参加が盛ん
- 歴史的文化財が豊富
- スポーツ施設が充実

弱み (Weaknesses):

- 図書館の蔵書が少い
- 文化施設の不足
- 歴史的文化財の不足
- スポーツ施設の不足

施設 (Facilities):

- 図書館の蔵書
- 文化施設
- 歴史的文化財
- スポーツ施設

生涯学習 (Lifelong Learning):

- 市民の参加
- 生涯学習の推進

歴史 (History):

- 歴史的文化財
- 歴史の活用

スポーツ (Sports):

- スポーツ施設
- スポーツの推進

課題 (Issues):

- 歴史を教える機会
- 子どもの教育
- 企画性の向上
- 図書館の内容の充実
- 時間の延長
- 文化施設の充実
- スポーツ施設の充実

大和市が抱える主要課題 (Main Issues Faced by Yamato City):

- 大和らしい伝統の掘り起こし
- 図書館・文化施設の充実
- スポーツ施設の充実

主要課題への対応方針・解決策 (Response Policy/ Solutions for Main Issues):

- 郷土史家・趣味のサークル等の活用
- 量より質の充実
- 時間の延長
- 新施設の建設 (文化施設)
- 北部への進出
- なでこ特化
- 既存チームへの援助
- 全国レベルへのサポート

行政主導 (Admin-led)

市民参加 (Citizen Participation)

地区・郷土史家・高年齢者・高齢者・資料館の有効活用

討議内容の発表

【強み】

- ・ 強みとしては、図書館の利用方法を変更した。駅にポストが出来たり、利用時間が延びたりといったことが挙げられる。また学習センターがいろいろなところに点在して、それらが自由に使えることが良いのではないかと。またそのことを通して、市民活動が盛んになって生涯学習に取り組む気持ちが生まれるのではないかと。なでしこ J A P A N も強みとしてあげられる。

【弱み】

- ・ 弱みとしては、大和市は歴史があるが、みんなに知られていない、といったことが挙げられた。
- ・ 図書館の場所が遠い、蔵書は増えているが、質がいまいちである。
- ・ 学習センターは駅に近いところが少なく、住所だけだと所在が分かりにくい。コミュニティセンターはいろいろとあるが、知っている人が少ないといったことも挙げられた。

【課題・解決策】

- ・ 課題としては、大和市を知る機会が少ない。図書館をハード面、ソフト面共に充実させる。図書館と文化施設を一緒に考えて、イベントが行える場所が少ない中、何かイベントを行うときに大丈夫なのか？といったことが挙げられた。
- ・ まとめると、大和らしい伝統の掘り起こしが第一の課題である。大和を知らなければ、大和市のことを語れない。大人も勉強しなければいけないが、子どもたちも勉強した方が良いのではないかと。子どもは身近な土地の歴史を勉強するといった話を持って帰ってこない。そういったことを充実させるために、郷土史のようなものをつくってはどうか。それぞれの地区に在ろう、昔のことを研究している人達を巻き込む。また大和市は古い街なので、それぞれの地区に在る名士や地主に対して、昔の大和市について聞き取り調査を行うことが良いのではないかと考えた。そこから波及して、高齢者などに昔の話を調査し、本や郷土史をつくるといった目標を持って活動し、その活動のために行政が声をかけることが望ましいと考えた。趣味では限界があるため、行政が声かけをし、周りを巻き込んで調べて、みんなに発表することが良いのではないかと。
- ・ 図書館の印象は本屋と変わらないため、量より質を充実させた方が良い。貸出時間を延長させることも提案された。返却ポストがあったとしても、手渡しでの返却が必要とされる本であれば、働いている人がその時間までに図書館に行くことは不可能である。最終的に新しい施設をつくってはどうか、文化施設と一緒に新しくつくってみてはどうか、といった意見が挙げられた。
- ・ 第三の課題は、スポーツ施設の充実で、南部は施設が充実しているが北部は少ない。まんべんなく大和市のどこでもスポーツが出来るようになればいいと思う。そのためには、行政に努力していただきたい。なでしこ J A P A N についても、特化したものが出来てはどうかといった意見が挙げられた。例えば、サッカーチームを市が支援し、練習場の確保や、保護者ができないことを行政がサポートすべきであると考えた。全国レベルの人達に対してのアピールが不足している。
- ・ 中央林間で一輪車のクラブが優勝した事例もあったが、知らない人も多数いた。そういったことをもっとアピールすることが良いのではないかと。



(3)社会の健康 : テーマ⑧豊かな心を育む生涯学習、文化活動について

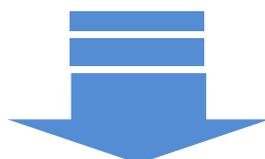
2グループ

【強み】	【弱み】
<p>(人物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 根岸さん、なでしこジャパン ・ 地域人材の活用 ・ 古老の存在 <p>(施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安い料金でスポーツできる ・ 野球場 ・ 学習センターでのイベントが多い。参加しやすい <p>(イベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝霧市 ・ 大和まつり ・ 骨董市 <p>(街)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動は比較的楽 ・ 刺激が多い ・ 若い人が多い ・ 子どもが生き生きし、育つまち 	<p>(人物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化人が少ない <p>(街)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パチンコ屋 ・ 交通事故が多い <p>(イベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大和の文化活動の内容を知らない ・ 寺子屋的教育弱い ・ スポーツセンターで年齢的に参加できないものが多い <p>(施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アクセス悪い ・ 駐車場が少ない ・ スポーツ施設が少ない ・ 大学がない ・ 学習センターの部屋が狭い ・ 文化・歴史施設は少ない ・ 学習センター古い ・ 子どもがいるとスポーツセンター利用しにくい ・ 身近な場所に野菜売り場がほしい <p>(図書館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の本の内容が分からない ・ 図書館いまいち ・ 図書が少ない ・ 図書館の場所が分からない ・ 学校にも本が少ない



【課題】

- ・ 地域人材の活用
- ・ 市民の活用
- ・ 文化人の活用
- ・ 市民寺子屋制度
- ・ 広報誌の活用
- ・ 広報やまとの改革
- ・ 自治会未入会に広報は届かない
- ・ イベント内容の告知の方法
- ・ イベント周知システム
- ・ 防災無線を使う
- ・ 広報誌が市民全員に届くように
- ・ 誰にでも開かれた施設
- ・ 託児制度の制度化
- ・ 施設の充実
- ・ 図書室ではなく図書館
- ・ 文化の薫りする街
- ・ 行きたいと思える施設
- ・ パチンコ規制



大和市の主要課題

1. 地域人材の活用
2. 施設の充実
3. イベント等の告知

主要課題への対応方針・解決

1. 地元の文化人等を活用した勉強会・講演会
2. ・市民ボランティアを活用した託児システム
・図書室のアップグレード
3. ・広報誌が市民全員に届くような制度づくり
・防災無線をイベントの告知に利用

作業シート (写真)

課題テーマ **豊かな心を育む生涯学習・文化活動**

グループ **み**

【課題】

大和市が抱える主要課題	主要課題への対応方針・解決策
① 地域人材の活用	・地域文化人等と活用促進委員会
② 施設の充実	・市民ボランティアを活用した見守りシステム ・図書館のP.A.化
③ イベント等の告知	・広報誌が市民全員に届くよう体制づくり ・防災無線もイベントの告知に利用

討議内容の発表

【強み】

- ・ 強みとしては、なでしこ JAPAN や根岸さんといった著名人がいることが挙げられた。また野球場やスポーツセンター、生涯学習センターがあり、イベントも多い。また大和まつりや骨董市、朝霧市などのイベントがある。若い人も多くなっている。

【弱み】

- ・ 弱みとしては、文化人が少ない。文化活動内容が良く分からない。図書館の場所が分かりにくく、図書が少なく欲しい本がないこともある。学校にも本が少ない。施設はあるが、アクセスが悪く駐車場もない。学習センターは座る場所が無く古く、利用しにくい。イベントはあるが、年齢制限があるなど、子連れだと行きにくい。

【課題・解決策】

- ・ 課題としては、イベント内容の告知方法があげられた。また自治会未加入だと知りにくいいため、その解決方法についてどうすべきか、ということが挙げられた。市民や文化人の活動について、そういった人達をどのように活用していくのか。施設の充実として、子連れでも行きやすいように託児制度の充実や、図書室に椅子が無く、座って本を読むことがしにくいということだったので、椅子を増やすなどして、行きたいと思う施設をつくるのが課題であるという意見が挙げられた。イベントをどのように告知していくのかということで、広報やまとや防災無線を利用して分かりやすく告知していくことが課題となった。
- ・ 主要課題としては、地域文化人の活用が挙げられた。地元の文化人など（なでしこ JAPAN や弁護士の大澤先生）を活用した勉強会や講演会の実施が挙げられた。
- ・ 二番目として、施設の充実では、市民ボランティアを活用した託児システムの開拓が挙げられた。図書室のアップグレード。外装や内容、高齢者対策として休憩室の設置をすることで、行きやすい施設環境をつくってもらいたいことが挙げられた。
- ・ 三番目として、イベントなどの告知について、広報誌が市民全員に届くような方法をつくってもらいたい。防災無線を使ってイベントを告知してもらったらいのではないかという意見が挙げられた。



(3)社会の健康 : テーマ⑨まちの活力や賑わいについて

3グループ

【強み】	【弱み】
<p>(コミセン・集いの場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習を通し、共通の楽しみの中、参加できることが多い ・ コミセン、館数が多い ・ コミュニティセンターの利用がたくさんある ・ 自治会活動が盛ん（ふれあい広場、運動会） <p>(外国・交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国の食堂など珍しい食べ物がある ・ 国際色豊か（70カ国以上） ・ 多文化交流が行われている ・ 多国籍の市民が多い <p>(観光資源・歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お寺、緑が多い <p>(イベント・交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント盛ん→骨董市、阿波踊り、よさこい ・ 地域のイベントが実施されている ・ 世代間交流が多い ・ お祭り等のイベントが多い ・ 骨董市がある <p>(観光資源)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大和駅、中央林間駅は私鉄が交差し、人との出入りが多い <p>(桜)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 桜の季節は、桜ヶ丘の川治いは花見の人でにぎやか。出店など ・ 千本桜 <p>(食：地域野菜、B級グルメ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の野菜が買える ・ B級グルメが多い <p>(なでしこ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なでしこ J A P A N <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フィルムコミッション ・ ヤマトン 	<p>(交流の広がりがない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流イベントー地域参加が少ない ・ 旧住民と新住民との交流の場があまり無い（自治会は別） ・ 多国籍文化を活かしたイベントが多ければと思う ・ 他国の方が多いが、文化交流が少ない ・ 自治会のイベントへの参加者が少ない <p>(商店街がさみしい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街が飲み屋さん街になっている ・ 商店街がない ・ 大和駅 12月のイルミネーションが貧そう <p>(地場野菜が高い、使われない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食、地場産物率が低い ・ 地元の野菜は買えるが安くない <p>(外から人を集めていない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の出入りが多いにも関わらず、人が立ち止まる施設、仕組みに欠ける ・ 観光地のような市外から人が来るイベントが少ない <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな産業がない ・ 会社が設立しにくい ・ コミセンに行きづらい（駐車場がない） ・ 施設の利用、年代高齢化 ・ コミュニティに参加したいと思う人が多いが、どうしたらいいかわからないという意見を良く聞く ・ コミュニティの希薄化 ・ 就職率が低い



【課題】

(イベント)

- ・ 全国的イベント（なでしこリーグ）
- ・ 活かす：総合的～に推進
- ・ 観光、行事にする（バス会社に日帰り旅行提案）
- ・ 幅広い年齢層が参加できる
- ・ 外国人市民とのイベントの活性化
- ・ 市民一体感。I LOVE 大和
- ・ 市内の散策、ルートの整備
- ・ 共通～なものを組合せ。イベント化

(文化交流)

- ・ 外国籍者との交流
- ・ 食文化の交流パーティをする
- ・ 外国籍の方との交流
- ・ 外国籍の子どもたちとスポーツ交流をする

(農地の有効活用)

- ・ 農家のプロに来てもらって、自治会で野菜作りの講習会をやってもらう
- ・ 空き地を畑にして、農家の方の力を借りる（新旧交流）

(PR)

- ・ 有名人、マスコミを利用した PR
- ・ メディアへの露出、PR 強化

(商業)

- ・ 活発的な商店街
- ・ 商業地域の環境整備

(その他)

- ・ ハンデキャップ（人権）、サポート体制づくり、差別化をなくす
- ・ 市に新会社の設立の相談場所を設ける
- ・ 施設の充実、拡充
- ・ コミセンへのアクセスの向上



大和市の主要課題

1. 交流の盛んな街づくり
2. 魅力ある商業が栄える街づくり
3. 地域に根付いた会社が育つ街づくり

主要課題への対応方針・解決

1. ・メディアへの露出、PRの強化
 - ・ 色々なものを組み合わせたイベント、ツアー（スポーツ、バスツアー、食のパーティ等）
 - ・ 季節に応じた装飾（統一）
2. 駅前等の商業地域の環境整備
3. ・会社設立のサポート体制の確立
 - ・ コミセン等の地域施設の活用

討議内容の発表

- ・ まちの活力とは、と考えたときに、そこに住んでいる人、仕事をしている人、そこに来る人、それらが盛んにならないといけないということで討議した。

【強み・弱み】

- ・ 交流の盛んなまちづくりとして、具体的には、大和市の弱みでいうと、交流の広がりがない、ということが意見としてあげられた。大和市は年齢層としては30~40代が一番多く居住している。生まれてからずっと大和に居住しているのではなく、他地域から入ってきた人が多い。つまり、もともと古くから住んでいる人達との交流がない。また外国籍の方々と日本人の交流がないし、イベントも聞かない。強みとしては、骨董市など様々なイベントを行っている。また、なでしこJAPNや弁護士先生など、著名人が多く、そういった人達とのイベントの起爆剤があったり、B級グルメも有名である。

【課題・解決策】

- ・ 大和市民のためのイベントも豊富であるが、大和市以外の人達が来るようなイベントを充実させる必要がある。そのためには、メディアへのPRが必要という課題が挙げられた。イベントや著名人を組み合わせた観光ツアーなども、旅行会社とタイアップして考えても良いのではないかと、といったことが挙げられた。
- ・ 魅力ある商業が栄えるまちづくりとして、一番交通機関として大きいところは大和駅、中央林間駅といった私鉄が交差するところである。しかし、人が一番流入しやすいが、通過するだけであるとも言える。人が立ち止まる手段が無く、商業施設が充実していないということが挙げられた。駅前等の整備と大和駅のプロムナードの整備が挙げられる。大和駅のイルミネーションは相当に貧相である。昭和的クリスマスを連想させる。プロムナード一面に木が並んでいるので、イルミネーションをもっと充実させる、季節に合わせた装飾を行うといったことでも、話題にはなると思う。
- ・ 最後に地域に根付いた会社が育つまちづくりについては、大和市に登録している会社は年々減少している。小さな会社を立ち上げるときに、なにをすればいいのかといったことについて、回答できる人は少ないと思われる。会社設立にあたって、サポートしてくれる人が市の職員にいればいいと考える。ただ、市役所に来るのも大変なので、コミュニティセンターに常駐するなどが挙げられた。会社の活動に対しても、コミセンを提供するといった対応方針が挙げられた。



(3)社会の健康 : テーマ⑨まちの活力や賑わいについて

4グループ

【強み】

- ・ 面白いイベントが多い
- ・ イベントが多彩
- ・ イベント、お祭りが多い
- ・ 大和市のお祭りは活力があって良い。阿波踊りなど
- ・ 大きな商業施設
- ・ 商業施設が多い
- ・ 美味しい名店がいくつもある
- ・ 多文化共生→大都市へ行かなくても外国のレストランなどが多い
- ・ 今回の市民討議会
- ・ 市民参画の事業を行うと市民から活発な意見が出る
- ・ 地域活動、ボランティアも含めて高齢者の地域活動が活発
- ・ 今回の企画で市役所の人と身近になった。
- ・ 国際色がとても豊か
- ・ 厚木基地とうまく付き合えば、国際的な都市になる
- ・ 外国の人が多いが、共生できている
- ・ 職場と住まいが近い
- ・ 安定した地形地盤で、腰を据えて事業を行える
- ・ 街の活力となるには、まず環境なので、緑の多い泉の森があるのは有名で良いと思う

【弱み】

- ・ 地元農家との連携が不十分
- ・ 地産地消が進んでいない
- ・ 住民が地元の企業に就職していない
- ・ 大和市を代表する産業が少ない
- ・ 市民が市外へ働きに（遊びに）出てしまう
- ・ 新産業が育っていない
- ・ 各商店街の衰退と酒場化
- ・ 商店街のにぎわいにかげりがある
- ・ 商店街が寂しい
- ・ 大きな会社の撤退
- ・ 国際交流への参加に壁を感じる
- ・ 外国人との交流がまだ不十分
- ・ 外国人との交流の場が少ない
- ・ 外国人の地域参加
- ・ 文化のマナー
- ・ 男女共同参画っていわれると堅苦しい。いったい何なのか
- ・ 男女共同参画。それぞれの役割
- ・ 横須賀は基地で活性化しているが、厚木基地はそうっていない
- ・ 市民一人ひとりの自治への意識
- ・ 林の中のごみに対して、もう何十年と対策をしていない（街をきれいにする意識が市民も行政も薄い！）
- ・ 若い人の地域活動参加が少ない
- ・ 健全で安全な街への転換
- ・ 座間と境は割と暗く（電灯が少ない）、犯罪が多くなる傾向



【課題】

- ・ 商店が島状になっていて、線、面になっていない
- ・ 商店街の活性化のための導線計画
- ・ 畑はあるが、農業の活性化につながっていない
- ・ 企業の出入り
- ・ 工業・農業・商業のメリハリのあるまちづくりの推進
- ・ 産業地域としての魅力が少ない
- ・ 厚木基地のある特色を生かしていない
- ・ 基地オープンの際に大和市として（他の市も）名物を出す（※食物、日本らしい）
- ・ 多国文化を積極的に売り出すまちづくり
- ・ 日米文化交流、食物等
- ・ 外国人のコミュニティの取り組み、地域の一員
- ・ 以前には大和定住センターがあったり、在日外国人が多いので、グローバルな教育の展開を市としても楽しい企画をしてほしい
- ・ 地元の若い人を先頭にしたイベントの推進
- ・ イベントは多いが、世代間で参加の温度差がある
- ・ 子どもたち、青年の不参加、高齢者を理解していけるイベント（大カラオケ大会とか）
- ・ ボランティアを募り、市の行政の人と地域の人と「林中清掃ボランティア」みたいな企画をする
- ・ 市役所や行政の人と身近に討論でき、問題提起ができる場を



大和市の主要課題

1. 市内産業の活性化

2. 厚木基地を核とした多文化共生

3. 世代間や地域と行政などの連携強化

主要課題への対応方針・解決

1. ・新分野の企業誘致（環境・農業等）
 - ・産業ツアー
 - ・企業適地であることのPR
 - ・地盤の良さ
 - ・市の産業への指針の明確化
2. ・文化交流の機会を増やす
 - ・お互いの名産品を伝え合う
 - ・厚木基地をほめる！（情報を提供する）
 - ・市民討議会へ外国人を呼ぶ
3. ・老若男女が参加できるお祭りの創出
 - ・子どもたちへ地域イベントに参加することを意識付け
 - ・市民討議会を日常的に

討議内容の発表

【強み】

- ・ お祭りやボランティアなどのイベントが活発。国際色豊か。大型商業施設が整っていて、人が集いやすくなっている。美味しいお店がたくさんあるといった意見が出た。

【弱み】

- ・ 弱みとしては、イベントがあっても世代間で参加することに温度差がある。国際交流が盛んでない。商店街が衰退している。産業面でも大企業が大和市から出ていってしまったり、事業所も減っている現状がある。仕事も遊びも市内に住んでいても、市外に出ていってしまう人が多いといった点もあげられた。

【課題・解決策】

- ・ 大和市産業の活性化としては、仕事をしている人がいれば、人も増えて大和市にいる時間が長くなるということで、産業を活性化させることが大切であると考えた。その意味として、大和市そのものが企業誘致活動をしていくことが必要であると考えた。環境や農業など新事業を育成するようなことを、訴えていくのでは良いのではないかといった意見があった。また、大和市は地盤がとてもしっかりとしており、3.11以降、事業所の分散化について考えている企業が多いので、大和市は企業誘致に対して魅力的なのではないか。産業ツアーなどを行って、地元の産業の魅力を伝える取り組みも行うことも良いのではないかと考えた。
- ・ 厚木基地を核とした多文化共生として、厚木基地は他にはないということで、大和市の強みになるのではないかと考えた。横須賀市では基地があることで活性化しているので、プラス面で活かしていくことはないかと考えた。3.11の際に復興のためのヘリコプターや飛行機が厚木基地から飛行したという話もあるので、悪いことばかりではなく、貢献しているところもあるため、そういったことをみんなで広め合っていこうといった意見も挙げられた。外国人も多いので、文化交流の機会を増やしていくことも大事である。また今日のような討論会に外国人も参加してはどうかといった意見も挙げられた。
- ・ 世代間や地域、行政などの連携強化として、イベントを活性化するためにどんな世代でも参加できるイベントが必要といった意見がある。既存のイベントだと参加する人が決まっているため、例えばカラオケ大会など新しいイベントを企画してつくっていくことが挙げられた。子どもが参加するようになると、大人になってもイベントに参加することになるので、子どもがそういった機会に触れることを促進しても良いのではないかと考えた。またこういった討論会で役所の方と接点を持ち、話すことが出来てすごく良い機会であり、役所を見る目が変わったといった意見が多数挙げられたので、こういった討論会がもっと増えると良いといった意見が挙げられた。



(3)社会の健康 : テーマ⑩大和の魅力のPRについて

5グループ

【強み】

<p>(いこい・自然の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 泉の森、ゆとりの森 ・ 公園が多い ・ 引地台公園ではバーベキューができる（機材貸し出し、ごみ回収あり） ・ 休日バーベキューなら大和市へ（ゆとりの森） ・ バーベキューができる場所をアピール ・ 引地台公園 ・ 引地川 カワセミがいる <p>(絵になる街)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富士山が見える ・ 花をきれいに飾る家が多い ・ ロケ地としての利用範囲を広げる（地区単位を貸し出せる体制づくり etc） ・ ドラマによく使われる ・ ドラマ、映画のロケ地（市立病院、学校 etc） <p>(弱みを強みに)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚木基地が近い ・ 飛行機がよく見える ・ 厚木基地（マニア向け） ・ 交通情報に良く登場（大和トンネル） ・ 大和トンネルといえば、今やほとんどの人が知っているの、その点を利用して、トンネルの道にPRになるような建物を造る ・ 飛行場があるが、米国との安保条約がある以上、無くなることはないの、逆に飛行場のある街を良い方向にPRすべきである 	<p>(遺跡文化財)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 千本桜（春の時期）※高座渋谷 ・ 緑が多く、意外と文化的である。常泉寺（春～梅雨） ・ 常泉寺（みつまた） <p>(スポーツ・イベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FMやまと（コミュニティラジオ） ・ イコーザ内のデコハチ ・ 女子スポーツ（サッカー、バレーボール） ・ マリノス大和 ・ なでしこ JAPAN のメンバー ・ いろいろなお祭り ・ ノーベル賞、根岸英一さんの再来 <p>(精神面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統に縛られておらず、新しいものを生みやすい ・ 1級ではない魅力がある ・ 庶民的で気どりがいい空気 ・ いろいろな場所（国・県）からの人々の集まりである <p>(交通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央林間駅（田園都市線のターミナルとして） ・ 交通の便が良い ・ オークシティ（イオンとヨーカ堂） ・ アクセスが良い ・ 県内、他都県における立地 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地盤が固い ・ 地震大国日本の安心な観光地
---	---

【弱み】

<p>弱みを強みに・・・</p>



【課題】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔からある釣り堀をアピール ・ 大和市外の駅にポスター・パンフレット ・ 情報誌の利用を最大限に ・ 市民向けの広報（広報やまとなど）だけでなく、全県・全国に向けた広報の努力 ・ マスコミ、特に記者との交流を密に ・ 一番良い時季の写真を多く使う ・ どうせなくなるから、うるさい基地をアピールする。珍しい飛行機が飛ぶときにマニアを集客する ・ 飛行機を好きな人達も多いので、逆に飛行機が見える街としてPRする ・ 基地をPRすることにより、問題に関心を集める ・ 千本桜と常泉寺をセットにしたPRの強化 ・ 常泉寺はかつぱも有名 ・ お寺や神社がそれなりに多いのでアピール 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各観光地で販売できる商品・グッズづくり+制度の整備 ・ 物産品をスーパーに置いてもらう ・ 名物の（食べ物・お酒）試食&試飲会 ・ お花見の時期を利用して出店 etc で集客力を上げる ・ ビーチバレーのコートをつくる（海はないけど） ・ ヤマトンとの握手会（イベント等） ・ ヤマトンの恋人募集 ・ ヤマトンの仲間 ・ 市の鳥「オナガ」のキャラクター化 ・ ヤマトンを印刷 ・ コンビニでヤマトングッズ販売
--	--



大和市の主要課題

1. ヤマトンのアピール

2. 女子サッカー

3. 厚木基地

主要課題への対応方針・解決

- ・ ヤマトンとの握手会（イベント等）
 - ・ ヤマトンの恋人募集
 - ・ ヤマトンの仲間
 - ・ 市の鳥「オナガ」のキャラクター化
 - ・ ヤマトンを印刷
 - ・ コンビニでヤマトングッズ販売
- ・ 女子がはばたく街
 - ・ 大和南高校 etc 成績を上げている中学校や高校をもっと応援！！
 - ・ なでしこメンバーと交流できるイベント
 - ・ スポーツセンターの利用でアピール（試合）
 - ・ サッカー施設の増強（プレー、観戦ともに）
- ・ 弱みを強みにしてPR材料に

作業シート (写真)

討論テーマ 大和の魅力のPRについて

グループ 5 富士山が 見える!!

【強み】

- 花をさかすのまはるのたけ
- とうまにぶく 使われる
- 原木基地が近い
- 常楽寺 (おつまた)
- 千本桜 (おつまた)
- FMやまと (コミュニティ ラジオ)
- 白鷺の内のデコイナ
- 伝統に誇りを感じて新しいものを生み出す
- 1歩口は、足跡のカタチ
- 庶民的で、若い人々の交流
- いろいろな場所 (国産)の人の集りがある

絵になる街

自然の場

交通

弱みを強みに!

精神面

交通情報

千本桜

常楽寺

FMやまと

白鷺の内のデコイナ

スポーツイベント

マリス 大和

なでしこ JAPANのXIN!

ゆるゆるなお祭り

1-11 福井茶屋

大和の魅力を伝える主要課題

- ① ヤマトンのアピール
- ② 女子サッカー
- ③ 厚木基地

女子が「おぼたく牲」

弱みを強みにして PR 材料に

大和の魅力を伝える主要課題

女子が「おぼたく牲」

弱みを強みにして PR 材料に

大和の魅力を伝える主要課題

女子が「おぼたく牲」

弱みを強みにして PR 材料に

討議内容の発表

- グループのみんなで大和市の魅力は何かについて挙げていった。大和市は地盤がしっかりしているため、災害に強い。鎌倉と違い、伝統が少ないため、伝統に縛られない柔軟な発想がしやすい街ではないか。アクセスが良い。ドラマなどのロケ地が多い。泉の森、ゆとりの森など大きな公園が多く、そこではバーベキューが出来る。多摩川は有料化されているので、そういった意味でも強みになると考える。大和市の南部には引地川の千本桜と常泉寺を桜の季節に人を呼びこむPRとできないか、といったことを考えた。

【課題・解決策】

- 結論としては、3点のPRポイントをまとめた。1つ目は大和のゆるきゃら「ヤマトン」を全国区のキャラクターとし、ヤマトンに会いに行こうというようなPRが出来ないかと考えた。2つ目は、なでしこJAPANで女子サッカーが有名になった。大和市は女子がはばたくまちとして、PRしていくことを考えた。3つ目は、厚木基地に対して、弱みを強みにしてPR材料としていけないかと考えた。
- ヤマトンについては、イベントや握手会、サッカーをやる、ヤマトンの仲間にハートンというキャラもいるので、コラボしつつイベントに参加する、市内のコンビニでグッズなどを販売することも考えてはどうかと思った。またコミュニティバスの、のろっとをヤマトンとコラボさせるといったことが挙げられた。まずは市民や他地域から来た人に、浸透させ理解してもらうことが大事だと考えた。他地域に向けては近隣の駅やマスコミに露出するなどをして、全国区になるようPRしていけばと思った。
- 2つ目の女子サッカーでは、サッカー施設の充実、サッカーをやりたい人を呼びこむといったことが挙げられた。大和南高校の女子バレーが全国大会でも活躍をしているので、女子がはばたくまちということ考えた。
- 結婚して子育てをしようと考えたとき、母親の意見が通りやすくなるため、男子が強いまち、よりは女子が強いまちのほうが人も集まりやすいと思われる。そのために、施設の充実やスポーツセンターの利用をアピールして、実際に利用し力を入れていければと思う。
- 厚木基地については、騒音問題もあるため、基本的にはなくなってほしいといった気持ちであると思われるが、すぐに対応できることでもないため、あるなら使おうと発想の転換を行った。ゆとりの森では、航空機マニアが多く来ている。マニアだけでなく、飛行機が好きな子どもが家族と一緒にゆとりの森に来て、一日を過ごしてもらい、騒音などを実際に体験することによって、基地問題についても関心等を持ってもらえればと思った。
- 大和トンネルに市のPRのためヤマトンを設置するといったことも考えた。マイナスをプラスに転じることも必要であると考えた。



(3)社会の健康 : テーマ⑩大和の魅力のPRについて

6グループ

【強み】	【弱み】
<p>(自然)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 街自体が美しく、緑が多い ・ 風景がきれい ・ 常泉寺のお花 ・ ゆとりの森、自然、緑が多い ・ 二つの河川 ・ 緑が多い(桜の名所がある) ・ 泉の森、ふれあいの森 ・ 千本桜の桜並木が綺麗 ・ 境川のサイクリングロード ・ 大和駅のプロムナード ・ 道が平坦 ・ ファミリーで使える施設が増えてきた。泉の森、引地台、ゆとりの森 <p>(イベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 祭りが多い ・ イベントの数が多い ・ 主催者がしっかりしている ・ 自治会でお祭り。ぼんおどり <p>(環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティバス、体の不自由な方、年輩の方もたくさん利用している ・ 交通の便(来場に便利) ・ 都心からの交通の便が良い ・ コミュニティセンター、駅が多い <p>(積極的な誘致)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドラマや映画の撮影場所として多く使われる ・ テレビ、映画の撮影ポイントが多くある ・ フィルムコミッションがある 	<p>(情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな公園の名称さえも知らない ・ イベントポスターがわかりにくい ・ 大和のPRパンフレットを見たことがない ・ 市のホームページがわかりにくい ・ 自分の地域以外の名所、名物を知らない、わからない ・ 地元のイベント以外はほとんど知らない ・ イベント=なんのイベント・祭り ・ 名前が分かりにくい。イベントの情報が行き渡っていない <p>(運用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの開催場所が偏ってる ・ イベント会場が複数になっている ・ 大和駅プロムナード東側ビルの出入り口無し <p>(解決策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市のHPへの積極的アピール ・ 大和人気レストランTOP ・ イベントカレンダーを作成する ・ 市民審査員参加のコンテスト(グルメ、レストラン★★★) ・ 自治会対抗ウォークラリー



【課題】

- ・ 魅力 PR の目的
- ・ お金を落としてくれる
- ・ 人が来ることで、交通が良くなる
- ・ 参加した人のきずな、つながり
- ・ 人、まち、社会の健康にとっても良い効果



大和市の主要課題

1. 情報量が少ない、
情報多様化
2. 自然、環境整備をしたい
3. 魅力的な企画

主要課題への対応方針・解決

1. ・ターゲットに合わせた情報提供
 - ・ 情報発信源の一本化
 - ・ 情報量を増やす
 - ・ FM ヨコハマ、TVK で紹介してもらおう
 - ・ マスメディアによる情報発信
2. ・住んでいる人も楽しく感じられるようにする
 - ・ レンタサイクル（ゆとりの森）
 - ・ 整備を続けられる体制づくり
 - ・ 大和駅の活性化
3. ・スタンプラリー（歩きやすいので）
 - ・ 子ども向けのイベントをうまく利用する
 - ・ 市民参加型イベント
 - ・ コミュニティ、地域の結びつきを強くする

討議内容の発表

【強み】

- ・ 強みとして、4つ挙げられた。自然については、緑が多い、泉の森、ふれあいの森、ゆとりの森がある、常泉寺と千本桜の花や桜が綺麗、大和駅のプロムナードの道が平坦である、ファミリーで使える施設が増えてきた。環境については、コミュニティバスを体の不自由な人や、年輩の人がたくさん利用している、コミュニティセンターが多い、交通の便が良いということが挙げられた。またイベントの数については、事前に資料をもらっていたが、思っていたよりも大和市内にはイベントが多いことが分かった。またドラマや映画の撮影ポイントが多いといったことも挙げられた。

【弱み】

- ・ 弱みとしては2つあり、情報発信で自分の地域以外の名所や名物を知らないし分からない。イベントのポスターがわかりにくい、自分の地元以外のイベント、市のホームページがわからない、イベントの情報が行き渡っていないことが挙げられた。運用面としては、イベントの開催場所が偏っている。これはもらった資料のイベントについて半分くらいが大和駅の近くで行われており、南部や北部に住んでいる人は参加しにくいのではないか、といった意見である。プロムナードの東側は出入り口が無く、アクセスが悪い。

【課題・解決策】

- ・ 主要課題として3つ挙げた。一つは、情報量が少ない。情報の多様化が課題ではないか。ターゲットに合わせた情報提供の必要があるということで、ホームページや携帯での閲覧、広報やまとの活用といった意見が挙げられた。FM横浜やTVKによる大和市の情報発信、タウン誌や新聞などによるマスメディアによる情報発信が必要ではないか。
- ・ 2つ目は自然や環境整備をしたいといった意見が挙げられた。住んでいる人が楽しく感じられるまちをつくるということで、ゆとりの森でレンタサイクルを行っているが、それ以外の駅でもレンタサイクルが出来ないかといったことが挙げられた。大和市といえば大和駅だが、大和駅ももっと活性化させた方が良いのではないか。
- ・ 3つ目にイベントなどの魅力的な企画を考えてはどうかといった意見が挙げられた。大和市内は坂が少なく歩きやすいので、散歩をしながらスタンプラリーをするなど、子ども向けのイベントをうまく利用していけばいいのではないかと。また市民参加型のイベント、コミュニティ、地域の結びつきを強くするイベントを考えてはどうかという意見が挙げられた。
- ・ 大和市の魅力PRの目的として、大和のイベントや大和市に来ていただいた方が、大和市にお金を落とすしてくれる。また人が来ることで交通が良くなる、お祭りやイベントに参加した人と、大和市に来た人が大和市民の絆のつながりが出てくる。人やまち、社会の健康にとって良いまちになるのではないかと。といったことが挙げられた。



(3)社会の健康 : テーマ⑩大和の魅力のPRについて**7グループ★高校生****【強み】**

- (イベント)
- ・ イベントがいっぱいある、豊富
 - ・ 阿波踊りの時、地域の人盛り上がり半端ない
- (ヤマトン：交通)
- ・ 案外、交通の便が良い
 - ・ アクセスがいいので、よそから来やすい
 - ・ ご当地キャラクターがいる
 - ・ ヤマトンのナルトへのこだわり
- (市民)
- ・ 市民の人達がやさしい（お菓子くれたり）
 - ・ やさしい人が多い
- (ロケ)
- ・ 柏木学園がドラマ「高校入試」に出た
 - ・ ロケをちゃんと受け付けている
- (その他)
- ・ 自然が豊か

【弱み】

- (ヤマトン)
- ・ 印象に残らない
 - ・ ヤマトンがかわいくない。大和に来て会いたと思わない
 - ・ ヤマトンがゆるきゃらGPの70位っていうのは、納得がいかない
 - ・ ヤマトンにいまいち個性がない
- (イベント)
- ・ イベントが知られていない
 - ・ イベントが多すぎて一つ一つに印象が残らない
 - ・ 若い人達向けのイベントが少ない
- (知名度)
- ・ 特徴のある街がない。みんな、程々に栄えている
 - ・ 特色がない
 - ・ 知名度の低さ
 - ・ 場所が知られていない
 - ・ 資料がいっぱいあるのに、一つも見たことがあるものがなかった
 - ・ パンフレットなどが普及されていない
 - ・ インパクトがない
 - ・ PRできるネタがない
 - ・ more PR
- (その他)
- ・ 地元だけで盛り上がっていて他の地域に良さが伝わっていない
 - ・ お祭りの時、自治体の人が出している店ばかりで、普通の出店がないからお祭りの楽しい空気がない

**【課題】**

- (アピール)
- ・ もっと宣伝する。
 - ・ いろんなところにパンフレットを置いてアピール
 - ・ もっと大和を宣伝する。TVなど。ロケをもっと行う
 - ・ もっとイベントを宣伝する
 - ・ 大和市以外にも、もっと多く情報発信
 - ・ お笑い芸人が来てくれるステージみたいなものをつくってほしい
- (若い子向け)
- ・ 若い人も参加したくなるようなことをする
 - ・ 若い人をターゲットにしたイベントをつくる
 - ・ イベントをいろんな地域に宣伝。地元だけで盛り上がる
 - ・ ○○ランドをつくる
 - ・ イベントを盛大に行う

【課題の続き】

<p>(ヤマトン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヤマトンのスクールグッズ ・ ヤマトンのグッズ店を出す ・ ヤマトンを他の市に売り出す ・ そもそも売っているところとかは、ほとんど知られていないと思う ・ ヤマトン以外にもっとゆるきゃらをつくる(ゆるきゃらが一番多いまち) ・ ヤマトンをもっとかわいくする ・ ヤマトンをゆるきゃらGPで1位にする ・ ツイッター ・ 若い人が身につけやすいヤマトングッズ ・ ヤマトンをもっと売り出す ・ ヤマトンをかわいくする方向でいか、ネタ方向でいか ・ まずは市民にヤマトンを知ってもらうために、各掲示板にヤマトンを貼り付ける ・ ヤマトンをCMに出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヤマトンの存在をもっと出そう ・ ヤマトンをもっと目立たせる(知名度) ・ 知名度を上げる ・ 特徴のあるまちづくり ・ 大和市でなにか1位をとって、知名度を上げる ・ 駅ビルを造る ・ 人が集まりやすいところに、色々な店などを開く <p>(まちづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すみやすさとか、土地のアピール(都心に比べて広いし安い。交通の便もそんなに悪くない) <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他県とは違うことをすべき ・ もっとご当地土産をつくるべき ・ 「大和ブーム」が起きるような何かをつくる。キャラよりお店
---	--



大和市の主要課題

1. ヤマトン

2. 市の知名度が低い

3. 若い子向けのものがない

主要課題への対応方針・解決策

- ・ もっと身につけやすいヤマトングッズをつくって、いろんなところで売る
 - ・ 横浜駅とか大きな駅にヤマトン売る
 - ・ ツイッターやフェイスブックで個性を出す
 - ・ ヤマトンに特徴を付ける
 - ・ ヤマトンをなにかとコラボさせる(例: 芸能人、なでしこ)
- ・ パンフレットやテレビなどもっと宣伝する(イベントなど)
 - ・ 芸能人をもっと呼ぶ(イベントに)
 - ・ 他の市など幅広くに宣伝!!巻き込む!!
 - ・ 毎日通っているのに、パンフレットとかどこにあるのかわからない。→たくさん置く
 - ・ パンフレットを掲示板に貼り付け、かつ配布する。(駅前で)
 - ・ 美人図鑑みたいなものをつくる
- ・ 若い子向けのお店を「大和市」でつくる
 - ・ レジャー施設をつくる
 - ・ 映画館とかをつくる

討議内容の発表

- ・ 大和の魅力のPRについて、サブタイトルに「僕らのヤマトン」というテーマで、ヤマトンを中心に高校生からの目線で話し合った。

【強み】

- ・ 強みとしては、イベントがたくさんある、イベントに対して地域の人への盛り上がりがすごい、ご当地キャラがいる、交通の便が良い、自分の学校がロケに使われた、といったことが挙げられた。

【弱み】

- ・ 弱みとしては、若い人向けのイベントがない、ヤマトンがかわいくない、大和市に来てヤマトンに会いたいと思わない、ヤマトンに個性がない、知名度が低い、イベントを開催しても、地元だけで盛り上がりすぎている、PRできるものがない、といったヤマトンをメインとした弱みが挙げられた。

【課題・解決策】

- ・ 課題としては、イベントがあるのにアピールが出来ていないので、知っている人が少ないことから、外部にもっと宣伝すべきだと考えた。またイベントでも若い人向けのイベントが少ないと思ったので、若い人向けのイベントがほしいと感じた。大和市という知名度が低いと思われるので、もっとアピールすべきと考えた。ヤマトンについては、ヤマトンのグッズがあると聞いたが、キーホルダーなどは、高校生は絶対につけないので、大きなぬいぐるみのようなキーホルダーなどをつくってはどうかと考えた。またヤマトンをツイッターでするのも良いと考えた。その際はヤマトンを毒舌キャラクターにするなど、個性を出した方が良いと考えた。
- ・ 主要課題としては、ヤマトンをもっとかわいくする、横浜駅など大きな駅にヤマトンを置いたりすれば、知名度も上がると考えた。なでしこJAPANや、今人気のある芸能人などとコラボレーションもしてみてもどうかと考えた。2つ目に大和市の知名度が低いので、芸能人を呼んでイベントを行ったり、大和市の美人を集めた美人図鑑をつくってアピールしてみてもどうかと考えた。3つ目として、若い人向けのものがないので、映画館をつくらしたりレジャー施設をつくれれば、もっと若い人が大和市に来ると考えた。



[講師講評]

..... 国士舘大学政経学部教授 平石 正美 氏

- ・ 重要なポイントがいくつかある。例えば 1 グループで大和市の郷土史を自分たちでつくってみてはどうか、といった意見があった。おそらくいろんなものに対して、皆さん方自身が自分たちでつくるという時代になってきていると思われる。自分史づくり、伝記が非常に注目を浴びている。これ自体がビジネスになりつつある。これが住民参加において、自分がつくりネット上で閲覧できるようにすれば、みんなが参加できる可能性がある。各地域ごとに参加して、みんなでつくり盛り上がる事が出来る、共有するという時代になってきていると考えられる。
- ・ 図書館についても本が少ない、といった話があったが、図書館の世界とは一番変化の激しい世界である。状況としては、ほとんど電子化される。本を手にとってみるということが段々と少なくなってくる。アイルランドのダブリン図書館では、色んなビデオや DVD の映画を自宅にいながらネットで届けるというサービスを行っている。ハードの問題ではなく、ソフトでどのように充実させるかという問題に移行している。日本は大学での図書館から電子化を進めているが、5~10 年は遅れている。
- ・ イベントがたくさんあるが中心となるようなイベントがない、といったことがあった。そうするとそこに、集中と選択といったことが出てくる。このイベントについては盛大に行う。しかし、別のイベントは地域にほとんど任せていくといったことが必要になるとと思われるし、そこには基本的な問題としてのコミュニケーション、つまり情報提供がどのように行き渡っているのか、どういう方法を使えばどれだけの人が理解できるのか、どういった方法がいいのか、住民参加の中で考えていく部分なのではないかと考えている。
- ・ 4 グループで市民討議会にて市の職員と話が出来て良かったといった意見が出た。協働=一緒に地方自治をつくっていくということは、行政と市民の協力ということではなく、行政の職員と住民の人達がコミュニケーションを深めていくことが基本的前提なのだということである。それがやがて行政と市民の交流や協力に変わっていく。行政は大きくいえば制度の中で動いている。制度は社会環境で変化するので、前の行政と今の行政は異なる。これは変化していかざるを得ない。しかし、職員の間はそれほど変化しない。一人の友達を作れば、その友達からもっと広がりが出る。協働とは人と人との繋がりであると理解していただければと思う。
- ・ 大和市の PR の一環としてヤマトンがあるが、厳しい指摘を高校生より頂いた。彼女たちの中でどのようにすればもっと元気にさせられるのか、もっと認知度が上がるのかということについて、おそらく具体的アイデアもあると思われる。いろんなキャラクターを分けてみてはどうか、といったことも具体的な意見だと思われる。意地悪なヤマトン、やさしいヤマトン、正義の味方のヤマトンがツイッターなどで面白いコメントを返すことによって、もっとコミュニケーションが広がっていくのではないかと、といった話であったと思う。そういったキャラクターを高校生達に考えてもらおうとしたらどうなるか? こういったアイデアも出てくると思う。

- 今回の市民討議会の中で色々な課題と方向性とアイデアをたくさん頂いた。地域活性化には三つの段階が確実にあると考えている。一つは問題意識や危機感を共有するということである。今回の機会で、問題があった場合、自分だけが思っているのではなく、他の人達も思っているということを知った。これを良くしていかなないと大和市もしくは自分たちが住んでいるところは良くなる。こういった危機感を持っていくことが一番目である。二番目として、どのように問題を解決するかという方法論の開発である。今までのやり方でやっていくことで、解決できていない部分はずっと残っていく。解決するためには、方法論を開発していく必要がある。例えば、今までと違ったパートナー、違った人達とコミュニケーションをし、解決策を開発していくことがないと、おそらく方法論の開発にはならない。三つ目は非常に重要と考えているが、そうした皆さんのアイデアや運動を感動に変えていくストーリーが絶対に必要だと考えている。学生に常々言っているのは、人間は感動の数だけ喜びが増えていく、豊かになっていく、と話している。深い感動を味わった人間ほど、人に対してやさしくなれる。人の動きや努力を非常に理解できるようになってくる。これは市民参加や協働においても同じである。感動に変えられる部分にまで持って行って、初めて定着し継続される。岐阜県で県民夢づくり事業というのが行われた。県民の方々から夢になるような事業の提案を依頼するという、事業制度である。ここで大切なのは、事業として成立したときに、誰の提案で成立した事業であったかということを残すことである。そうすると、記録に残り提案した人達は、愛着を持って守ってほしいという気持ちが芽生えていく。このように感動に繋げていくことは非常に重要であると考えている。
- 今回の市民討議会は、皆さんが友達やお互いに危機意識を持っている人達と語り合い、そこからアイデアを出していただいた。そういった機会をつくっていただいた大切な経験である。市役所の方々は感動のストーリーに変えていく責任、つまり具体化していく責任で、具体化したら皆さんとまた共有していく、実現が難しかったら再度集まってもらい実現できるように協力してもらおう、こういったことで本当の繋がりが出てくると思われる。
- 次の10年に向けての大和市のまちづくりに向けての提案である。
- これに対して、うまく役所の仕組みに編集し直していく責任が職員の方々の方にあると思うので、それはぜひ責任をもってお願いしたいということと、それを今度は感動のストーリーに変える努力をしていただきたい。感動するために、皆さんからまたアイデアを頂ければ、大和市は継続して良いまちづくりをしていけるのではないかと考える。



大和市イベントキャラクター「ヤマトン」

7. 講演…市民社会を確立するための制度設計の考え方

(1) 講師プロフィール

氏名	平石 正美 (ひらいし まさみ)
所属	国土舘大学 政経学部 教授
略歴	早稲田大学大学院博士課程前期 行政学 専修 東海大学大学院博士課程後期 都市政策 専修 財団法人地方自治協会 調査研究部 主任研究員 国土舘大学 政経学部 政治学科 教授 現在に至る
活動内容	専門は、現代行政学、都市政策、電子政府論など。国や自治体の研究プロジェクトや研究講師、委員会の委員などを歴任。昭島市で総合基本計画審議会の委員を務める。



(2) 講演(抜粋)

(市民討議会への参加の意義と感謝)

本日、集まって頂いた方には感謝をしたい。来たくて来たわけではない、選ばれて、参加を依頼されて来た方々である。実はこのような普通の市民が参加する討議会は世界でも先端的な試みのひとつとなる。普通の市民、普通の高校生の方々が集まって議論をするところに意義があるのです。

みんなが自分の住んでいるところを良くしたい、という気持ちをどうまとめるのか。普段、そのような機会はないと思われる。家族の中でもこういった話をするのは難しいのが実情でしょう。

身近に起きている問題をどのように解決していくか、スライドを使用しながら話していこうと思う。

(住んでいる世界はみんな異なる)

従来制度というのは、役人がつくるものであり、市民は関係ない、という考え方であった。しかし、現在その考え方は逆転し、実現に向けて研究がされている。制度や仕組みは我々の生活そのものともいえる。

私は30歳まで大学で研究した後、国の調査機関で40歳まで働いた。その後、国土舘大学にて勤務し、15年が経過した。55歳というと定年後のことも考える年齢であるが、大学ではまだ若手扱いをされる。なぜなら、私の大学の定年は70歳で、60代以上の先生が半分近く現役で働いている環境だからである。若手なので、自分の研究を通して社会に貢献することや学生指導だけでなく、学務についても仕事の負担量が増加する。われわれの役割は、自分が所属する社会において、どのような年齢層や関係性があるかで役割分担が決まっていく。したがって、それぞれが独自の特殊な環境に生きているというのが前提となる。

今、みなさんが生きている社会もすべて特殊な世界である。自分たちの家庭の中も特殊な世界といえる。したがって、人は、自分のおかれている世界(つまり特殊な世界で考えていること)が、社会のすべてであると考えてしまいがちである。しかし、社会には様々な立場で、様々な考え方を持った人達がいる。自分だけを前面に出してしまうと、すべてがおかしくなってしまう。自分は正しいことを言っているのに、なぜ衝突が起こるのか、その問題発生メカニズムが理解できなくなっていく。その問題と解決メカニズムのあり方を話していこうと思う。

(21世紀型デモクラシーの創造)

現在は、今までの民主主義やデモクラシーの考え方とは、確実に異なってきた。本来なら21世紀型のデモクラシーのあり方を考えていかなければいけないが、今の政治の中にはぜんぜん取り入れられていない。4枚目のスライドに「公共範囲の新社会契約」とあるが、これは政治学を学んでいる学生に言ってもわからない。意味としては、社会や役所、政治からどの範囲までサービスを受け、それに対しどこまで税金を支払うのか、つまり社会的な契約関係として、どのような政治や政府をつくり、どのような公共サービスを得るかを新たに再検討していく作業ということになる。

こうした新しい役割分担を、市民と行政が新たに取り決めていくという社会をつくっていかねばならない。これはどの国においても、おそらく同じように取り組んでいくものになると考えられる。こうした公共団体としての自治体とは別に「セルフガバメント」という仕組みがあるが、これは『自分たちのことは自分たちで決めるので、税金を使わない』といったようなルールや仕組みを実践する自治（政府）である。21 世紀型デモクラシーとは、このような二つの政府形態で動いていくデモクラシーであり、これからの社会で基本的な考え方になるのではないだろうか。

（新たな地方自治の可能性）

そうなれば地方自治体も当然変わる。今までほとんどのサービスは行政がやってくれたが、すべてを任せると税金をいくら払っても足りなくなる。何の統制もない社会では、それぞれ特殊な世界の要望がたくさん存在することになり、それぞれの状況に合わせて無条件に要望をみんなが出し合う。ある分野のサービスは自治体が供給していて、こちらの分野のサービスは自分たちで行っていかうとするならば、自治体の総コストが次第に安くなっていく。またこれは地域の事情や政策の蓄積によって違いが出てくる。そうすると、教育に力を入れる都市、健康に非常に力を入れる都市、しかし他の分野については、住民が自ら対応することで、税金は安くするといった特色ある都市づくりを行うことができる。そうなれば、どのような政策を持っている市長に対して我々が投票するのか、という政策投票の形になり、現状を維持しつつ市民の満足度を下げることなく、持続可能な自治を形成していくことになる。これは、いろんな研究者達が考えていることではあるが、あまり発表はされていない。

また、役所だけでサービスを提供するのではなく、いくつかのサービス形態があると考えられる。この案件であれば、NPO が行う、この分野なら医師会が行う、これらは自分たちで委託をしながら標準化していく、など様々な方法が考えられる。地域の各団体が役割意識を持ち、分担調整をネットワーク化することによって、役所の規模を小さくし、自分たちがどこに、どう税金を使うかという計画をつくりなおすことが可能になると考えられる。

そうすると、公務員の形態も変化せざるを得ない。5 枚目のスライドで言うゼネラリスト型公務員とは、従来型の将来トップまで行くことが可能な人達であり、仕事の経験を通じて成長していく日本の公務員である。しかし、諸外国の公務員は特定のポジションにスペシャリストを雇用する。広報課の係長のポストで欠員が出たときは、編集に長けた人材を採用する。日本では公務員も社会人も 4 月に入社するが、諸外国では人が異動したとき、欠員が起きたときに初めて求人を出して採用する。ハーバード大学を卒業しても、就職するまで 2 年かかる、その間に様々な社会勉強をするといったことは普通にある。日本ではすべて自分の組織で研修して様々な仕事に就ける人を集めようとする。なんでも出来る分だけ、少ない人数で行い、専門職の部分もすべて学んでいく。これはみんなの能力が高く、組織の研修コストも十分であれば問題ないが、非効率である。

(おかしくなってきた日本社会)

次に、身近な問題から日本社会で必要とされているのは何かを取り上げてみる。おかしくなってきた日本社会を良くすることができるのか、我々の生きてきた時代と今とでは何が違うのか？ 例えば新宿の歌舞伎町などは、ある一定の場所より奥に行くと危険だと判断が出来るし、そのような危険情報は自然と共有されてきた。また外国に行っても、危険な雰囲気は分かる。しかし今は、普通でまじめそうな青年に突然刺されたり、暴力をふるわれたりする。これは、今までの我々の感覚では対応が出来ない社会になってきているなということになる。見るからに普通の母親が、子どもを虐待して殺してしまう非日常の社会がすぐ隣にあるようになった。

(クレイマー化する社会)

これらの問題にどんな共通の現象があるか考えてみよう。例えば、自分勝手な自己主張などに特徴が出てくる。いいがかりを一方向的にまくし立てる、自分がどうして良いかわからなくなると周りに対して騒ぎはじめる。また、なにか問題が発生した場合、他人のせいにして騒ぎ立てる、また問題の犯人探しを執拗に行う、など一定の共通行動が現れてくる。我々はこれをクレイマーと呼んでいる。そこには、法律や社会がすべて問題を解決してくれるという誤解に立脚し、社会における義務や責任の範囲を理解せず、社会制度とは完全なものであり、無限大に社会保障されると都合良く考えているデモクラシーの幻想がある。自分に一つでも不都合なことがあると、それに対して文句を言う。自分は納税者で税金を納めているのに、なぜ出来ないのか、と相手を責めることが多くなって来る。また、問題を解決するための人と人とのつながり、頼れる相手という存在が少ないため、自分と社会との関係を相対的に把握する社会化ができていない場合が多い。

(コミュニティの活性化)

まちづくりや、犯罪者を出さない社会とはどういうことなのか、をここで改めて考えてみよう。その基本的な解決策の一つは、コミュニティをいかに再生するのかである。隣近所で声をかけあう、町内会の中で誰がいるのかを把握し、構成員間のつながりの意味を再認識する。杉並区の和泉地区では、小中学校の通学区域で痴漢が発生したとき、どの時間帯に被害があったのかを調査した。すると、意外にも朝方の登校時が多いことが分かってきたため、町内会と学校が協力しあい、登校時間に合わせて犬の散歩や朝の庭木の水やりを行うようになった。周りの人達と声をかけあうことで、小中学生も挨拶をするようになり、その結果、不審者はコミュニティに入って来られなくなった。また、近隣トラブルを抱えていた町内の人達も、挨拶をすることにより、トラブルが解消するといった相乗効果も生まれた。

コミュニティの再生をするには、ストーリーを動かす仕掛け、物事を動かす仕組みが必要で、継続していくことで再生が可能になる。

(ネットワークの構築)

その他に、地域内にさまざまなネットワークを構築するということも重要である。三鷹市では、初めて子どもが生まれたときに、子育てについて悩んでいる母親が多かったことから、市ではNPO団体に依頼をして子育て講座を開催した。何が良かったかというところ、講座を受講することによって、同じ悩みを持った人達がたくさんいることを知ることができ、また一人で抱えている悩みではないということ、知ることによって、安心感を得ることができることであった。また講座を通して友達となった母親同士、育児の悩みを相談することも出来る。今度はその母親達が受講後、自分たちが困った人達を助けていくために、子育てネットワークをつくるというプラスのネットワークができていく。

(自身の存在価値を認めてもらえることと自己実現)

現在、一人ひとりが社会の中で分断されていると感じている状況にある。社会を良くしたいと思っている人達がいくら頑張っても、多くの人たちにつながりや連帯感が希薄であれば、良くなっていかない。

大学では自分で授業やカリキュラムを選択することが出来るので、中学や高校と比べるとかなり自由である。しかし、われわれ教員が気にかける一番の問題は、入学してきた学生が友人を作れるかどうかである。友人が作れない学生は、大学に来ても楽しくない。一日休むと授業がどこまで進んだか分からなくなり、次第にサボるようになっていく。こういった学生たちが毎年少しずつ増えてきている。これは日本社会の縮図であると考えている。ある女学生に挨拶をしようとしたところ、あとずさりされたことがあった。はじめはその行動の意味がわからなかったが、のちに分かったことは、先生に褒められた経験がなく、先生に声をかけられることは叱られることだと思っていたがゆえの反応であった。

オープンキャンパスで、ゼミの学生たちが自分たちの学んだ政策分析を、高校生に分かるようにゲームで伝えようとした。子育てに関する自治体の政策や、ローンを組むときの最適なタイミングなどをデータ化し説明したところ、たくさんの高校生が集まり好評であった。その盛況ぶりをみた学長が直々に学生を褒めてくれて、ささやかな記念品ももらった。ある学生は「先生に褒められたのは初めてだ」と非常に喜んでいて、これらのことから、若い人たちは他の世代の人達と、深いつきあい方をしていないし、他の人との交流も少ないことがわかる。

また、学生たちの問題点の一つに、自分は社会にとって必要とされているという自信がない。多くの学生に聞くと、人のためになるような仕事をしていきたいという声が多かった。これは自信のなさの裏返しではないかと考えている。若者は利己的な考え方をすると批判される一方で、どういった仕事をしていけば自分が人の役に立つのか、人に必要とされるのか、を考えているのも若い世代の特徴であるといえる。

人は人の役に立つために生まれてきたという基本的なことを、教えられてこなかった、もしくは理解させられない環境で育ってきているためである。例えば大学生が僻地の農村に行った場合、老人し

かない環境では当然のことながら若い人は非常に重宝される。人間は役に立つ場所が必ずあるにも関わらず、狭い世界でしか考えず、自ら役に立つ場所を見つけるというイメージを持ってないでいる。

(市民討議会は地方自治を推進するきっかけづくり)

社会の中で重要なのは、犯罪をおかした人も虐待をした人であっても、本来は人の役に立つ場所があったのに、見つけられないために問題を起こすという疎外感を感じる社会であることだ。人の温かさを感じられずに、ネガティブかつ消極的・否定的なサイクルに入り込んでいる。

地方自治とは、誰もが社会の役に立つというポジティブなサイクルや、人の善意をつないでいく仕組みをいかにつくっていくのかである。そのため、一人ひとりがそういった仕組みづくりを考えたり、行動したりしていくきっかけづくりが重要で、このような市民討議会はそのきっかけとなる。

(地方自治には参加の機会があることが重要)

地方自治は何であるかを考えるために、基本的な論理を検討していこう。まず、最初にトックビルというフランスの政治家・学者を取り上げてみる。フランスは階級社会であり、多民族な社会で、衝突が多い国である。彼がアメリカを研究することになったきっかけは、どのように刑務所の運営をうまくやっていたかであり、その調査のためにアメリカ諸州を歩いて研究していった。そこで感銘を受けたことは、自分たちの地域の様々な問題を話し合っていて決めている草の根型の地方自治であった。フランスは、人に任せると対立が増え、まとまらなくなるために中央集権の仕組みを選択した。しかし、アメリカは人々が平等に議論し、自治がうまくいっている。それを見てトックビルは、地方自治の重要さと同時に、地域社会の中で色々な役職をたくさん設けて、一人ひとりが責任をもって分業をすることが地域社会の安定には大事だと気づいた。地域社会は一つの役所だけで成り立っているわけではない。例えば牧草地など、広域的な管理をどうするのかといった場合に、自分たちの地域のルールに則り、委員を出し合ってみんなが使いやすくなるようにルール決める。他の分野では、別な人が参加して問題を解決していく。このようにみんなが何らかの社会の役割や責任を持つことで、地域全体のことを考えていくようになる。

(モラルのある連帯感が重要)

デュルケームはフランスの社会学者であり、現代社会がなぜこのように進歩したのかを解明する社会的分業論を提唱した。現在は、様々な専門分野や専門技術が日々生まれる、高度に進化した社会である。これは、社会的分業が時代を超えてもうまく機能してきたことを証明している。彼は、分業関係を成立させるために何が必要かは、悪さをしない、相手をだまさないという信頼関係が根底にあることだとした。自分だけ儲かるために、使えないものを売っては、社会は成り立たない。そのために必要なのは、「連帯感」であるとデュルケームは言う。

売買に関する市場について言えば、基本的には市場の信頼性は高く安定的である。しかし、小さな

子どもたちにスーパーでパック詰めされた肉について聞けば、豚肉というのは分かるが、加工された肉と動物としての豚が結びつかない。つまり、生きた豚が多くの人の手を介在して食肉加工され、スーパーに並ぶというプロセスを理解できない世代が増えてきている。これは、社会の様々な職業と分業を実体として理解できない時代へとようになってきたことを意味する。そうになると人々は、寛容性や柔軟性を失い、社会はギスギスしたものとなる。デュルケームもこの問題が起こることは予想しており、その解決には「道徳的な連帯」が不可欠であると主張していた。

今の現代社会は一人ひとりが自分自身の空間の殻に閉じこもっており、役割分担や社会的な責任感、お互いの立場を理解するということがなくなってきた。これが虫も殺さないような中学生が殺人を犯してしまう、ということに繋がっていくのではないかと考えている。

（ルールを守る環境づくりが重要）

米国のノースウェスタン大学出身のアブナー・グライフは、古代のギリシャ文字、ヘブライ語による文献を調べ、中世の地中海貿易であるマグリブ貿易において、なぜ荷主と船主がトラブルを起こさずに繁栄したかを研究した。11世紀頃のマグリブ貿易はユダヤ人貿易商が行っており、荷物をフランスからエジプトやギリシャへ運搬するなどをして、利益を得ていた。船主は、沈没したと嘘をついて自分は逃げて莫大な利益を得ることも、いくらでも出来る時代背景であった。だが、みんながルールを守り、詐欺のような問題が起きなかった。モラルが低下するのは、情報の非対称性（知りうる情報に違いがあること）にあるというのが経済学の基本論理である。

彼が分析に利用したのは現代的なゲーム理論であり、どういう行動をしたら自分たちが得になるのか、といった考え方である。船を動かす人達はどうか考えるのか、もし自分が沈没したと嘘をついても、一度は儲けることが出来るが、その後は悪い評判が立ち仕事が出来ないため、利益を得ることは出来ない。一回だけの利益を求めるのか、それとも信頼関係を維持しつつ仕事を続けることで利益を得ることを求めるのか、と考えた場合に継続的に利益を得る方が良いと船主たちは考えた。ここでの教訓は、情報がきちんと伝わらない社会であっても、利己的な行動をとりやすい環境であっても、取引とインセンティブをうまく制度化すれば、安定した秩序になるということである。

現代社会はつながりがないため、みんなが自分中心にしか考えられなくなっている。しかし、利己的な人達同士であっても、協力し合うためには何かをする、といった発想や仕組み作りが非常に重要である。

（参加は学習である）

次に、サスカインドはアメリカの学者であり、学習的な参加論を提唱している。『参加』とは3つの段階を経て成長していく。別の言い方をすれば、参加とは学習であるとも言える。

パターナリズム（後見主義）は、例えば母親が子どもに何かをやらせたい場合、「～を取って」とお願いをして、子どもが初めて行動をする、という段階である。今までの参加であるならば、職員がす

べて準備をして、参加するだけでいい、といった状態である。そのため、参加者が意見を提案するところまでは行かない。わかりやすい例でいえば市民運動会である。こういったプログラムで行うので参加してほしい、行政側も参加者が多ければ盛り上がった、となる。しかし、ずっと続けていけば、若い人達は別のスポーツを希望する場合も出てくる。しかし、行政は突然言われても対応が出来ない。そこで、若い人達は行政に対して不信感が芽生え、段々と参加することが嫌になっていく。これが第2段階のコンフリクト（対立）であり、人間でいえば反抗期と一緒である。相手の立場を理解できず、自分たちが思ったことを言うが、言われた側にも事情があるため対応が難しい。お互いに事情が分からないため、ぶつかり合う。しかし、反抗期があるということは、次第に理解に繋がる可能性がある。なぜだめなのか？その「だめ」と言われた理由が徐々に分かるようになると、譲歩の気持ちが生まれ、プラスになってくる。そうなったときに初めて、第3段階のコープロダクション（協働生産主義）という、協働して物事を成し遂げていく、つまり協働することで社会的に何らかの生産をなすという段階になってくる。

（住民参加の段階的分析）

こうした視点から、日本の住民参加を見てみよう。明治期から昭和40年代まで現代的な住民参加というのはほとんどない。昭和40年代から50年代後半にかけて、各自治体でようやく独自の政策が展開できるようになってきた。つまり、財源的に余裕を持つことが出来るようになってきたため、住民の意見を聞ける可能性が出てきた。その後、昭和60年代～平成10年はバブルの崩壊と、財政難、リストラと様々なところで、事業を絞り込まなければいけない時代に入ってきた。

住民参加の形態が現れてくるのは、50年代後半から最近にかけてとなる。住民参加の初期の時代は、審議会や委員会等の住民参加など、参加させるということだけであった。参加者も社会福祉協議会等の代表者だけであった。これは住民の声を聞くといっても、形式的な段階でしかないが、住民の視点から考えなければいけないという意識が芽生えてきた。第二段階は現在であり、第三段階にはまだ入っていない。

第二段階は、住民参加の領域が拡大する。参加や協働を条例化したり、普通の市民の方々に集ってもらい、考えて行動したりする機会が増えていく。この効果としては、（行政の）多くの部、課、係が行政運営を住民視点で考えられるようになったことである。これは大きな変化をもたらすこととなった。今までは中央官庁ばかりを気にして、住民の視点で考えることが少なかった。そして、法律や予算で限度や限界があるため、工夫して考えることは出来ない、といった状況であった。しかし、現在は住民視点で必要なものと不要なものを考えるようになった。

第三段階は、セルフガバメントの進展である。これは自分たちでルールや仕組みをつくって、自分たちで動かしていく。ここまでいかないと本当の意味での市民社会や市民自治にはならない。

(世界が注目する日本)

日本は世界で一番、高齢化の進展が速く、世界一の借金大国であるから、日本の課題解決策は世界から注目されている。日本のマスコミはそれをあまり伝えないが、先進諸国のほとんどの問題が日本の中にある。日本の政策が失敗したとしても、それは大きな参考になる。そういった意味で日本は先進国病のトップランナーにいますので、世界から注目をされている。

このような環境では、国レベルというよりは、地方レベルの普通の人達がどのように課題解決の仕組みをつくっていくのかが現実的な解決策となる。そのための自治基盤として、共感できる、絆やつながりを実感できるような地域社会をつくっていく必要がある。共に汗を流し合う仕組みや運動も重要である。例えば、最近のマンションの販売主ですら、人と人とのつながりを重視している。別の場所に農地を借りて、田植えや草むしり、稲刈りの時期に住民と一緒に赴き、共同作業をすることで人の顔を覚え、共に汗を流すことで共感を覚える。顔を合わせないマンションに良さを感じていた人たちも、東日本大震災でコミュニケーションをとることのできるマンションの方が安心だと理解するようになってきた。

また、自分たちの地域の自治を知ることも重要である。日本で欠けているものの中に、小中学校の段階で自分たちの地域の良さや、住民がどう地域社会に参加するべきか、といった地方自治教育や民主主義教育というものほとんどない。例えば、スウェーデンには「10歳からはじめる民主主義レッスン」といった本がある。これは、自分たちの地域の問題の解決について、小さい頃からロールプレイングなどを用いて教育している。それにより、自分たち自身に地域の問題を解決していくという意識が小さいときから芽生えてくる。日本では事故に合うからと友達と遊ばず、家の中でゲームをしているが、これでは必要とされる社会化と真逆の状態になってしまう。ぜひこういった地方自治教育、民主主義教育を自治体などで地域の中で行っていく仕組みをつくり、地域に対するアイデンティティを養成してもらいたい。

(みんながつながる仕組みづくり)

参加等のいろんな仕組みを通して地域社会を形成していくとき、重要なのは参加したくないといった人達をいかに参加させるのか、他の人と対話をしたくないという人達に対して、どうインセンティブをつくるかということである。例えば高齢者医療が日本の財政の首を絞めるという話があるが、健康であり1年間1回も病院に行かなかった場合に、報奨金が支払われれば、みんなが病気にならないように気をつける。結果的には日本の医療費の抑制に繋がる。そういったインセンティブや工夫を制度の中に位置づけることが重要である。

また、こういった仕掛をテレビや新聞を通じて、具体化しているところを、世界に発信できるような力を持たないと変化していかない。山中教授がノーベル賞を受賞したことで良かったことは、その活躍した評価が世界から日本に戻ってきたことによって、彼らの環境がよくなったことである。日本人の特性として、自分たちの行っていることは、地元では評価されず、外の世界を通して評価される。

参加してくれたら、それがフィードバックされて評価される仕組みづくりに変えていくことが大事である。地方自治とは皆さん一人ひとりがつながっていくメカニズムをつくっていくこと、汗を流して楽しいと思えるような空間を作っていくことである。多くの世代とコミュニケーションを出来るような社会をつくっていくことが、本来の地方自治であると考えている。

以上

やまとららら

広報やまと 平成 24 年 11 月 15 日号に、市民討議会の様子を掲載しました。

第8次大和市総合計画・後期基本計画の策定に向けて

「やまと市民討議会」を開催

市民討議会とは？

サイレントマジョリティと呼ばれる、普段、市に意見を述べる機会が少ない人たちの意見を伺うため、市が企画したのが「市民討議会」です。市では、無作為に抽出した18歳以上の市民3,000人に開巻案内を送付し、応募のおった人全員に討議会に参加してもらいました。このような試みは、本市が主催する事業としては初めてのものです。

市の課題と対策について、新しい課題も展開！

10月13日と20日に開催された討議会では、応募者27人に加え、市内の中学校に通う生徒や市の若手職員も参加した少人数のグループごとに意見を交換。これからの大和市における課題とその対策をまとめ、発表しました。

討議会の内容は、後期基本計画をまとめる際に反映します。また、報告書を作成し、後日、市のホームページなどで公表する予定です。



討議会での議論を交わす参加者

☑ 市民総務課 総合計画推進担当 ☎ (260)5350 ☎ (261)4592

発行所：大和市 市民総務課 〒252-0242 大和市 大和町1-1-1 <http://www.city.yamato.lg.jp/> 編集：大和市広報課 印刷：大和市印刷局 発行所：大和市印刷局

市民社会を確立するための制度設計の考え方

国士館大学政経学部
教授 平石 正美

1. おかしくなってきた日本社会の要因を考える

- 1) 世界が注目する日本の対応
最先端の社会課題と注目性
- 2) クレイマー化する社会と背景
共通行動とその背景
- 3) 間違った前提を再考する
 - ①多くの人が公共心を持っているのか?
 - ②市民社会形成の仕組みは十分だったのか?
 - ③役割の分担ができていたのか?

2. 社会や地方自治を確立するための古典理論と展開

- 1) A.トックビルやJ.プライスの自治論
- 2) デュルケームの社会的分業論

- 3) 制度論の変化と新制度理論
A.グライフの
中世「地中海貿易」論

- 4) LEサスキンドの参加論
学習理論としての参加

- 5) R.パットナムの社会関係資本論

図1 制度とゲーム理論

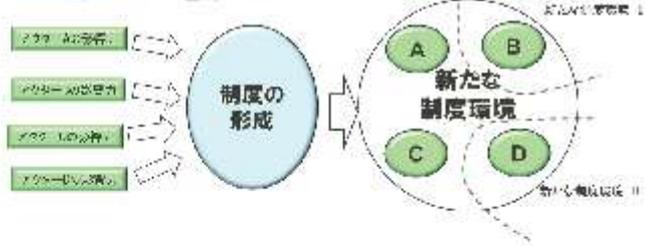


図2 サスキンドの参加論

1. パターナリズム(従属主義)
行政がさまざまなメニューを用意し、その中で参加する形態
2. コンフリクト(対抗主義)
行政の強引な主導やメニュー方式から、主体性を確保するために対抗的になる参加形態
3. コープロダクション(協働生産主義)
行政のパターナリズムやコンフリクトの段階から社会生産的な解決法としてお互いが参加協力するような関係に変化した形態

3. 地域社会を新たな視点から再構築する

1) 参加の変化と位相

- ①参加初期の住民・行政関係
- ②参加中期の住民・行政関係
- ③参加成熟期の住民・行政関係

2) 異なった市民意識と参加枠組みの再設計

- ①利己的なアクターと参加枠組み
- ②参加メカニズムの構造の理解
- ③参加のモチベーションの設定

3) 事例を通じて考える地域自立

- ①徳島県上勝町の「葉っぱビジネス」
- ②三重県四日市のコミュニティ・レストラン
- ③長野県野沢温泉村の「野沢組」や秋田観音講
- ④その他の自立促進策

4. 共感や連帯感を実感できる地域社会の形成へ向けて

図3 参加の個人的要因

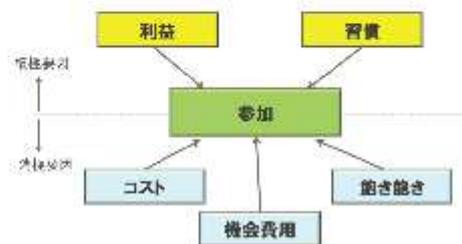
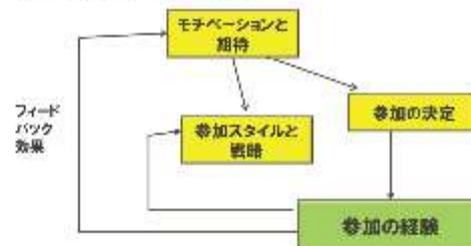


図4 参加の決定メカニズム



市民社会を確立するための制度設計の考え方

普通の市民が地域を良くしていくための制度設計と政策形成(フリーライダーを防ぐ制度設計)

国士館大学政経学部
教授 平石正美

参加してくれた方々に期待と感謝!!

- 地方自治とは多くの人たちが、実際に参加し、自分たちで解決法を学び、実行していくところにある。
- 現代社会の問題の多くは、コミュニケーションギャップにある。例えば、世代間ギャップ、上司と部下のギャップ、先生と生徒、多くのところでコミュニケーションギャップがある。
- 始めは集うこと、次に話し合うこと、理解しあうこと、希望や目標を共有しあうことである。
- 世代や環境の違う人たちが、地元「大和市」の将来を語り合い、希望や目標を共有しあうことは、大和市のみならず、日本ひいては世界においても重要な機会である。

Contents

はじめに

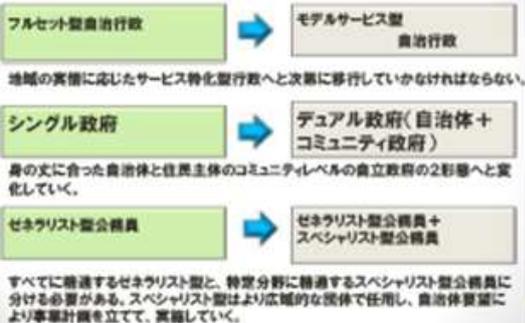
1. おかしくなってきた日本社会の要因を考える
2. 社会や地方自治を確立するための古典理論と展開
3. 地域社会を新たな視点から再構築する
4. 共感や連帯感を実感できる地域社会の形成へ向けて

21世紀型デモクラシーの創造

右肩上がりの経済成長社会と人口増加社会の論議からの脱却



本質的な地方自治改革とは何か



おかしくなってきた日本社会!!

- いじめが多発する学校と認めがらない学校・教育委員会
- クレイマー化する父兄・利用者と学校・病院
- 育児ノイローゼと児童虐待
- 突然キレル高齢者・若者
- 責任ある立場の人の盗撮や痴漢行為
- 膨大な政府借金があるにもかかわらず、サービスの充実や拡大だけを求める人たち などなど

なぜこのようなことが次々と起きてくるのか、その原因を考えてみよう!!

クレイマー化する社会と背景

クレイマー化の共通行動

- 自己主張や意見が一方的に行う
- 無決定が分からなくなると、周りに対して宗廟行動を始める
- 際迫する状態であれば、すべての責任を押し付けようとする
- ミスや原因の犯人探しを執拗に行おうとする
- 自分の責任回避をする

- コミュニケーションの弊害
- 様々なネットワークの弊害
- 多様なアクターへのアクセス性の改善

クレイマー化の背景

- 法律や規制がすべて実行してもらえないものと誤解
- 解決に至る人的ネットワークや情報ネットワークが異なる
- 一人っ子世代、核家族世代で、周りがしてくれる環境に慣れている
- 組織や代表者のコミュニケーションや運営がなくなった

A. トックビルとブライスの自治論

- トックビルは、フランス貴族の家庭に生まれ、将軍、国会議員から外務大臣まで務めた政治家。
- 将軍の時に、アメリカの開拓地制度研究で1831-32年に渡米し、アメリカの各地を旅行し、アメリカの地方自治の現場をつぶさに研究した。それが、『アメリカの民主政治』(3巻:1835, 1840年)。
- フランスの中央集権構造と階級社会に對する社会的対立に比して、自分たちで自治体や形を成する草の根民主主義に感銘を受けた。そのポイントは、**多くの住民が役割を分担し、地域社会に責任を持つところ**と述べている。
- J.ブライスは、イギリスの法学者・政治家であり、『近代民主政治』(1921)のなかで、『地方自治は、地域の政治を住民自らが高齢することにより民主主義の根柢を築き、國の民主主義を實現する基』であると説く。
- 地方自治は、**さまざまな社会実践や参加の機会を創り、経験を積むところに意義がある**とする。『民主主義の学校』という言葉でも有名。



E. デュルケームの社会分業論

- フランスの社会学者で、オーギュスト・コントによって創始された社会学を學問的に確立するために尽力。
- 『社会分業論(1893)』、『社会学的方法の規準』、『自殺論』などを執筆した。
- 社会的分業は、社会の発展とともに急速に進展し、生産性や専門性の向上に資することになった。現代社会の進歩は分業なくして成ることはできない。
- 社会的分業が成り立つためには、個人間や個人と社会との信頼関係、つまり道徳がなければならぬ。デュルケームは、道徳を「機械的的道徳」と「有機的的道徳」に分け、次第に有機的的道徳へと転換すると述べた。
- しかし、現代社会は道徳感が希薄化し、責任の追及やなすりつけ、権利の主張ばかりとなっている。デュルケームは、**道徳的要素が重要だと述べている**。



A. グライフの地中海貿易論

- A.グライフは、アメリカの著名な経済・歴史学者で、『比較歴史制度分析』(2005)で、中世の貿易をゲーム理論で説明。
- マグリブ貿易圏は、11世紀に地中海で貿易に従事していたユダヤ人貿易圏である。彼らは遠隔地間の貿易に当たり、海外の貿易中心地で代理人を雇用し、貨物が安全に運ばれ、だまされないが危惧している。
- 理解しやすいのは、誰したら犯罪でできる制度や法がればよい。しかし、多国籍の貿易であり、現場に行くことは難しい。
- マグリブ貿易圏は、グループを形成し、そこから代理人を選んで雇用した。そこでは、もし貿易商を騙せば、他の貿易商全員が雇用しないことがゲームのルールとなり、代理人の誠実な行動が導かれる。
- 制度が最初に必要なということではなく、**各アクターが誠実にルールを守る環境を維持することが重要だ**ということになる。



制度とは何か

- ◆ 社会的に定められている仕組みやきまり(正解)
- ◆ 制度とは、比較的継続性のある規則や組織的慣習の集合である(マーチン・オルセン)。しかし、その制度には、個々人の嗜好や期待そして可変的な外部環境に**弾力性を持つ目的や資源の構造**が織り込まれている。
- ◆ 社会における「ゲームのルール」である(ティ・イーガー)



変える可能性はないのか?

静態的制度論から新制度論へ

- 政治学においても、どう制度を創れば民主的になるかが課題であった。
- 次第に、制度と権力、制度を運用する文化・心理などに着目
- 80年代後半からは、新制度論が展開されてきた。

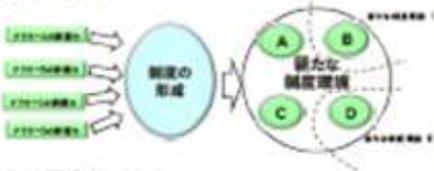


新制度論の特徴

1. 合理的個人主義 (利己的な人間を基本としている)
2. アクターの行動が相互依存 (相手の行動を予想しながら選択する)
3. 制度とアクターの行動が相互依存

制度とゲーム理論

社会的制度は、アクターと制度との相互依存関係の下で形成されてくる。



- 制度とは可変的である。
- 制度を作り、維持することは、制度環境における関係性をどのように形成していくかである。
- 制度を維持するインセンティブ形成が重要。

L.E. サスキンドの参加論



- サスキンドは、「参加がいくつかの段階を経て成長していく」という考え方を確立した。
- お互いの立場を理解し、お互いの資源や努力を出し合うことで、両者が共同(協業)生産することができるという考え方を提示した。
- 基本となるのは、**参加は半自治行為であること、経験を共有することで相互協力が可能となる。**
- サスキンドは、その後公共的な紛争解決法の研究へと移行していく。

1. パートナリズム(協業主義)
行政がさまざまなメニューを提示し、その中で参加する対象

2. コンプラウト(対抗主義)
行政の便宜主義やメニュー方式から、主体性を主張するために対抗的に参加

3. コープロケーション(協働主義)
行政の(パナリズムやコンプラウト)の段階から社会制度的な解決法としてお互いが参加協力するよう関係性が発展した結果

バトナムの社会関係資本論



- R.バトナムは、ハーバート大学の教授で、アメリカ政治学会を代表する学者の一人。
- 多くの著書を出しているが、『繁栄する民主主義 (Building Democracy Work)』(1993)と『孤独なホーリング』(2000)で社会関係資本(Social Capital)という社会的な絆が、民主主義やコミュニティを良くすると主張し、世界的なベストセラーになった。
- 社会関係の多くは、社会からの疎外感や孤独感にさいなまれ、社会的な道徳感を喪失するところから始まる。
- バトナムは、社会資本を築く指標として、地域結核や団体の活動の頻度、投票率、ボランティア活動、友人や知人とのつながり、社会への信頼度をあげている。
- 『ソーシャルキャピタルが豊かな地域は、政治参加の拡大、子供の教育成果の向上や、近隣の治安の向上、地域経済の発展、地域住民の健康状態の向上など、現代社会において何もしない効果をもたらしている」と提言。

社会の課題と解決の方向性

- 多くの人が社会性や公共心をもっていると考えて制度が作成されてきた。
→フリーライダー、レントシーカー
- 市民形成の社会の仕組みが欠けていた。
→市民の教育、市民教育の欠陥(国が市民教育を奨励、費用を考へて行動するものではない)
- 政治は、高度政治活動へと後進し、個人や組織の利己的利己の反社会的傾向となった。
→大衆選挙制度、票買制度
- 参加も民主主義の権威システムであったが、経済社会の急速な発展の中で権威化を反映できなくなった。
→投票システムと参加目的の不適合、投票制度の内部参加の不適合
- 公共的課題から合理的(利己的)動機への変化と質的変容
→利己的な動機もいかに参加を促すかというメカニズムやインセンティブの設計が重要



参加の変化と位相

《時代区分と組織》

- 明治期～昭和40年代前半
-近代化の制度設計
-いかに西欧に倣いつくか
- 昭和40年代後半～50年代後半
-都市自治体の革新的政策
-自治体政策に倣い
- 昭和60年代～平成10年代
-バブル経済と新政策
-住民参加の導入と定着
- 平成20年代～

《参加の位相》

- 住民参加の初期
-委員会や委員会に住民参加
-委員会や団体代表
-住民への報告の専断
- 住民参加の中期
-住民参加領域の拡大
-参加や協働の制度化や条例化
-多くの部署が住民視点で考える
- 住民参加の成熟期
-市民によるセルフガバナンスまで行くか?

今までの参加の反省点と改善の方向

《行政側の反省点》

- 参加の誘導は、分野別の成熟度により違いがある(同じ方法をとっても通ってこない)。
- 参加や参加の習熟度によっても、効果は違う。
- 参加の人数において、同じ人を選びやすい。
- 住民参加を協力とらえたり、ボランティアと捉える都道府県自治体もあった。

《住民側の課題》

- すべての住民が十分な情報をもち、正しい判断ができるわけではない。
- 行政に不信感を持っている人ほど、参加機会に応募しやすい。
- 行政の財政制や政策自由度の制限を乗り越えられない。
- 一貫性や強固が不足している方が声が大きくなる



参加の 個人的インセンティブ

個人的な価値観を克服するインセンティブが重要となる。タダなら人は動かないが、多少の利益や報酬などを設ける必要がある。

参加の 集合的インセンティブ

目標や価値が、大きすぎると諦めていく人たにも、わかりやすい目標設定やインセンティブを設定することで参加や協力が継続していく。

参加の 決定メカニズム

モチベーションやインセンティブを高める工夫を組み入れた参加メカニズムを設計する。個人的なレベル、集団やコミュニティレベル、継続性を考慮した仕組みを考案することが重要。

徳島県上勝町の葉っぱビジネス

- 山に生えていたり、自家栽培をしている葉っぱを料理や製菓の料理の飾りやツマとして売ること。
- 年収が1千万を越すおばあちゃん達が地域活性化。当然、活性化仕掛け人である農家の横田さんのカンパリは大事ですが、住民の変わり種がポイント。
- それまでは、みかんの売り上げも下がり、さらに冷害で壊滅的になり、おじいさんは朝から酒を飲んで「国が悪い」現場が痛くてくたを巻く。おばあさんは朝から壁の窓口に言い合い、不満を言っただけで自分の健康までも壊していた。
- 大きく変わったのは、町民のこころ。生きがいを見いだしたため、病気になる暇なんてない。健康で働いて子供達や孫達が帰ってこられる地域へと変えていきたいと変わった。壁の窓口に言っていたおばあさんが、子ども達夫婦や孫達が帰ってこられるように、食いたいと元気で頑張る、医療費も低下している。

長野県の野沢組

- 野沢組は、江戸時代藩政より続く、伝統ある野沢温泉村の村人(温泉)の自治組織(地域団体法人)で、村人の共有財産である山林や水産、温泉を守り、村人の生活を救済を支援している。
- 野沢組は、川の掃除、公民館の運営、山林の下草刈りの歴史を「野沢組」に託して行なっている。また、温泉手帳を持っており、料金の管理においても一定額を積んでいる(約80%・野沢組10%・野沢会10%の積立)。
- 現在の野沢組代表・西方誠さん(64歳)は、本業は温泉の主人で、野沢の仕事は9時から5時までの常勤。幹事以上の空席で集まる協議会が、1ヶ月に1回ある。
- 野沢組の構成
 - 正務代 1名
 - 副務代 2名
 - 監事 20名
 - 役員(役員報酬)12名
 - 役員(5〜20歳の常勤)92名
 - 声納(組の構成母体)751戸

→定額を1年安値にすることで、責任と負担を分かち合う。

秋田感恩講

- アメリカから逆輸入されたNPOの存在。NPO研究の第一人者であるサラモン教授が、日本初の民営による貧民・孤児救済機関「感恩講」を紹介。
- 1827年、奉行所に年末の挨拶に出かけた郷土衛生は、町奉行から、因作と節子により、困窮する町民が増加していたため、「地主が貧民救済の義務があるが、運用資金調達方法を検討して欲しい」と相談される。
- 献金を募りその金額で知行地(農地)を買入れ、そこから上回る年間収入で、半年は貧民を救済し、因作の年には節子に苦しむ人たを助け、毎年の収入の半分は救済に使い、残りの半分は貯蓄するというもの。秋田感恩講が救済した人員は、明治42年の時点で、延べ403万人にも及んだ。現在は、感恩講保育園として存続している。

→日本の伝統的NPOとしての魂、意、善など、互助の土壌は十分ある。

コミュニティレストラン

1. コミュニティレストラン「こははる」(出雲県松江市)

アンディ・シェフ(一日料理人)方式によって、料理を趣味とする市民が日替わりのレストランを経営し、地域の新たな交流拠点を整備



- 調理師約15名の地域で7名のシェフを委ねて運営をスタート
- レストラン運営を体験できる機会が多いため、若い世代も定着する傾向などが特徴
- コミュニケーションスポットとなる惣菜店を併設し、運営に多様な人々を巻き込むことで、食に関心を持つ人たちのテーマ別コミュニティを構築

2. 三島県立南町高校食物調理科調理クラブで運営する「この店」



3. 長野県松本市の商店街と高校生の協力で「3月9日青春食堂」を運営

○ 商店街活性化を目的として、商店街と高校生の連携した食堂で、時季限定、高校生のアイデアを行動力で、この食堂を通じて、商店街を盛り上げていくことが目標。

その他の支援方策

- ◆ 次世代を創る世代への環境整備と教育
 - ドイツの環境政策が先進的なのは小学校で行う環境教育が大きく寄与している。
- ◆ 企業と住民との連携を促進する
 - 企業の社会責任投資(SRI)、企業によるコミュニティ貢献(防災)、商店街の株式会社化(足立区東和商店街)
- ◆ 住民の協働を促進する
 - 高齢者世帯との同居の促進(イタリア)、地域課題のビジネス化(コミュニティ・ビジネス)
- ◆ NPOやインターメディアリーの連携と支援
 - 市民と行政をつなぐNPO、地域課題を研究するNPOなど



共感や連帯感を実感できる地域社会の形成に向けて

- ◆ 地域社会の構成員が、ともに汗を流しあう仕組みや運動を盛り上げていく。今までのような地域団体の役員や代表ではなく、普通の市民の人たちが中心となっていく仕組みが必要。
- ◆ 繋がらない地域社会から、お互いを尊重できるような連帯感を醸成する地域づくりを進める。
- ◆ 自分たちの地域の良さを知り、参加意欲がわくような地方自治教育や民主主義教育を小学校高学年や中学の授業に組み入れてみよう。そこでは、地域の人たちが教師や講師となって参加できる。
- ◆ 行政においては、自立性を支援できるような環境形成やインセンティブを工夫する必要がある。そして、このような普通の市民の方々が参加する市民討論会の効果や調査を具体化させていくことが、次の信頼関係を作り、次の参加や協働を生んでいく。
- ◆ 大和市を日本国中に発信できるように地域おこし、活性化、コミュニティなどを企画し、実行していく。

8. 市民討議会参加者数等

○市民参加者の男女構成等（両日共通）

区域	20歳台		30歳台		40歳台		50歳台		60歳台		70歳台		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
北部	0	0	0	2	0	2	1	2	1	1	3	0	5	7	12
中部	1	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	2	4	4	8
南部	0	0	1	2	0	1	0	0	1	2	0	0	2	5	7
計	1	0	3	4	0	4	1	2	2	4	4	2	11	16	27
合計	1		7		4		3		6		6		27		

○高校生参加者

13日：大和西高等学校 2人（1年生男子1人、1年生女子1人）
 柏木学園高等学校 2人（2年生女子2人）
 大和東高等学校 6人（2年生男子5人、2年生女子1人）

20日：大和西高等学校 2人（1年生男子1人、1年生女子1人）
 柏木学園高等学校 3人（2年生女子3人）
 聖セリヤ女子高等学校 2人（1年生女子2人）

○若手職員参加者 * そのほか運営補助従事者あり

13日： 6人（人の健康 : 6人）

20日：10人（まちの健康：4人、社会の健康：4人、両方：2人）



大和市マスコットキャラクター「やまとふえありー」

9. 市民討議会アンケート

市民討議会に参加していただいた方にアンケートをお願いし、そのうち 34 人の方から回答を頂きました。主な回答結果は以下のとおりです。今回、頂いたご意見は第 8 次総合計画・後期基本計画や、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。

I. これまでに次のような活動等に参加したことはありますか（複数回答）					
No	選択項目	回答数	No	選択項目	回答数
1	自治会活動	21	6	市長への手紙や一言提案	1
2	NPO、ボランティア活動	10	7	やまと e-モニター	3
3	地域、近隣での話し合い	12	8	市議会や審議会等の傍聴	3
4	パブリックコメント	0	9	その他	3
5	審議会等の公募委員への応募	0	10	未回答	3

9 その他回答

- 防災協力員、ボーイスカウト、カブ隊デンマザー、大和市クリーンキャンペーン

活動項目	割合
自治会活動	61.8%
地域、近隣での話し合い	35.3%
NPO、ボランティア活動	29.4%
やまとe-モニター	8.8%
市議会や審議会等の傍聴	8.8%
市長への手紙や一言提案	2.9%
パブリックコメント	0.0%
審議会等の公募委員への応募	0.0%
その他	8.8%
未回答	8.8%

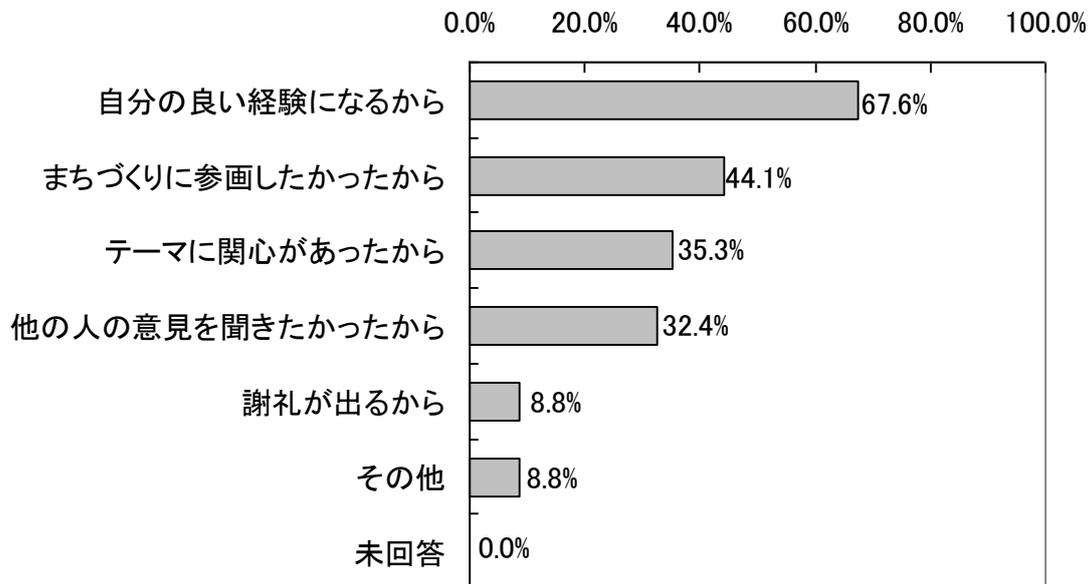
II. 討議会について

II(1)「やまと市民討議会」に参加しようと思った理由はなんですか（選択は2つまで）

No	選択項目	回答数	No	選択項目	回答数
1	まちづくりに参画したかったから	15	5	謝礼が出るから	3
2	自分の良い経験になるから	23	6	その他	3
3	テーマに関心があったから	12	7	未回答	0
4	他の人の意見を聞きたかったから	11			

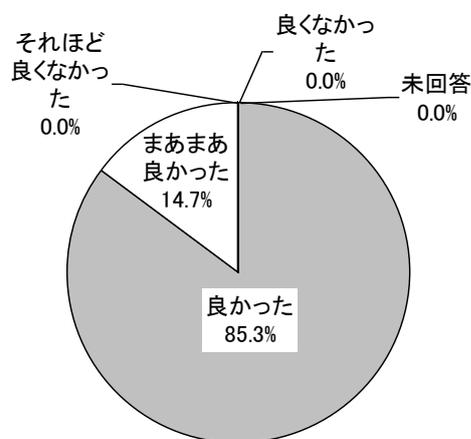
6 その他回答

- ・ 市の行政の活動について知りたかったので。きっと少ない年代だと思ったから（30歳代）。
- ・ 誘われたので。



II(2) 今回の市民討議会に参加してみて、どんな感想をお持ちになりましたか？

No	選択項目	回答数
1	良かった	29
2	まあまあ良かった	5
3	それほど良くなかった	0
4	良くなかった	0
5	未回答	0



II(2)それは、どのような理由ですか？

- ・ 市内各地域のいろいろな年代の方々と話すことが出来て楽しかった。
- ・ さまざまな意見を聞くことができた。講義も興味深くためになった。
- ・ 大和市のことがより多く知ることが出来た。市政に関心のある人達がこんなにも多くの人達がおられることは、本当に嬉しく思い、将来が明るく大和市に対して希望を持たせていただきました。
- ・ まずは市役所の方々への見方が変わりました。身近に同じ市民なんだ！と改めて思いました。みな、真剣に市のこと人のこと（他人のこと）を思っていることに感動いたしました。平石先生の講演は素晴らしかったです。これからの指針と相重なり、共感できました。
- ・ 大和市に対しての見方が大きく変わりました。自分では良いと考えていたことが、他の人では違う見方でびっくりです。高校生の若い人の発表はとくに興味があり大変良かったです。
- ・ 他人の意見を聞いたのと、自分も意見を言えたこと。
- ・ 皆さんがこんなに真剣に考えていることに驚きました。暮らしよい大和市になれると思いました。
- ・ 大和市民というつながりで、多くのことを語り合えることを実感しました。まさに市民力を感じて、こうした場を通じて意見交換をすることで、より良い市にしてゆけると思いました。
- ・ 他の人の意見が聞けたから。
- ・ 皆様が大和市の市政についてまじめに考えていることが分かった。
- ・ いろいろな世代の方の意見が聞いて良かった。けっこう、まじめに考えている方が多く、嬉しかった。職員の方達に親しみが持てるようになった。これからもこのような機会が多くなることを望みます。
- ・ 地域力がこれから必要なことだと実感できたのが、自分にとって大きなこととなりました。また、今回参加した討議会をきっかけに「気軽に何かに参加してみよう！」という気持ちが芽生えてきました。私たちの意見が住んでいる街に反映でき、魅力ある街づくりに参加できるから。
- ・ 色んな年代の方、市役所の方との討議をすることで、たくさんの意見に行くことができ、大和市の良いところ、悪いところ、知らなかったことを知ることが出来た。
- ・ 行政内容が少し分かったような気がするし、いろいろな方がいろいろな意見を持っているんだなあ、と思った。
- ・ いろいろな年齢の方の様々な意見が聞けたので良かった。

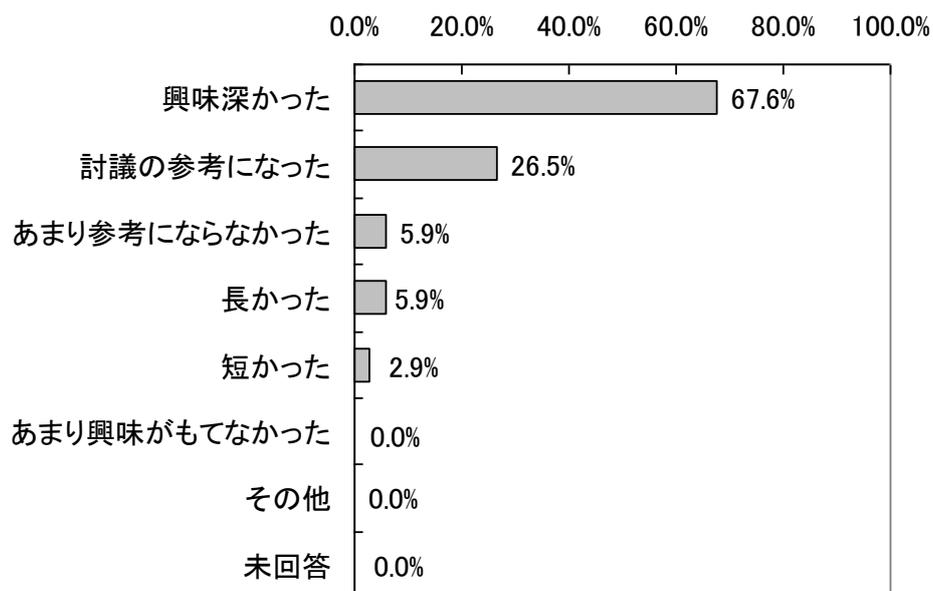
II(2)それは、どのような理由ですか？（続き）

- ・ 他の地域の情報が一部でも取れた。
- ・ さまざまな方と知り合えた。若い人がたくさんおられて、パワーを頂きました。
- ・ 正直、面倒くさいと思いましたが、様々な年代の方とコミュニケーションを取りながら話を進めていくうちに、大和市について興味・関心を持ったから。これからも自分が住んでいく大和市をより良くできるよう、今回の討議会を無駄にせず活用していきたいと思います。
- ・ 異なる年齢の方と一つのテーマを話し合うことにより、自分だけでは出てこない考えを聞くことができた。
- ・ 他の人の考えが直接聞けた点。
- ・ 世代間の価値観を知ることができた。
- ・ 大和市の良さが理解できた。
- ・ 役所の事業内容を知ることが出来た。
- ・ 自分の考えを話すことが出来て良かった。
- ・ 大和のイベントが多く行われていることが理解できた。
- ・ 市の街づくりの基本が良く分かった。
- ・ 他の人民の意見や考え方が聞いて参考になった。自治会活動で活かしていきたい。
- ・ 市政に対して、様々な立場や年齢の人の話や、意見を聞くことができ、自分たちと違った考えや見識を広めることが出来たから。大和市が行っているサービス等を新たに知ることが出来たから。
- ・ 毎回違う人達との交流があり、また地域も様々な中で、大和の知らないこともたくさんあり、また見方が違うと面白い！と思い、いろいろと勉強になりました。コーディネーターの方に入っただき、さまざまな意見を、同じ括りをつくりながら課題を見つけ、そこに解決策を見いだしていく、一つの話し合いの持って行き方を勉強させていただきました。
- ・ 大和についてたくさん知れた。良くしていきたいと思った。他の学校の子との交流が出来た。色々な意見が聞けた。市としては、市民の声が聞いて良かったのではないかと思います。
- ・ 大和市民ではないけれど、毎日通う大和についていろいろ話せたから。たくさんの人から、たくさんの意見を聞いて面白かった。
- ・ 初めて会った人達と仲良くなれたし、大和の街づくりに参加しているというのがすごく嬉しい。
- ・ なかなかこのような市のこれからについて話す機会はないから。また自分とは違う他の人の意見を聞いて、充実していたため。
- ・ 大和市について良く知ることが出来た。
- ・ 知らない人達と話すのは楽しかったです。
- ・ 普段から大和に来ているのに、あまり大和について知らなかったので、とても勉強になりました。

9. 市民討議会アンケート

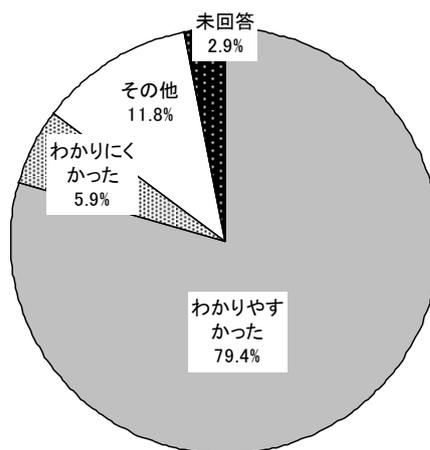
II(3)講演の内容はいかがでしたか？（複数回答）

No	選択項目	回答数	No	選択項目	回答数
1	興味深かった	23	5	長かった	2
2	あまり興味がもてなかった	0	6	短かった	1
3	討議の参考になった	9	7	その他	3
4	あまり参考にならなかった	2			



II(4)討議テーマはいかがでしたか？

No	選択項目	回答数
1	わかりやすかった	27
2	わかりにくかった	2
3	その他	4
4	未回答	1

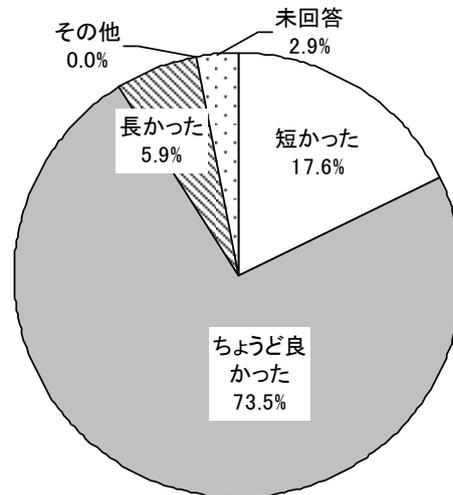


3 その他回答

- ・ テーマによる。
- ・ 意見が出しづらいテーマもあった。
- ・ テーマにあいまいな部分があった。但し、最初からもう少しテーマの絞り込みがあっても良い。

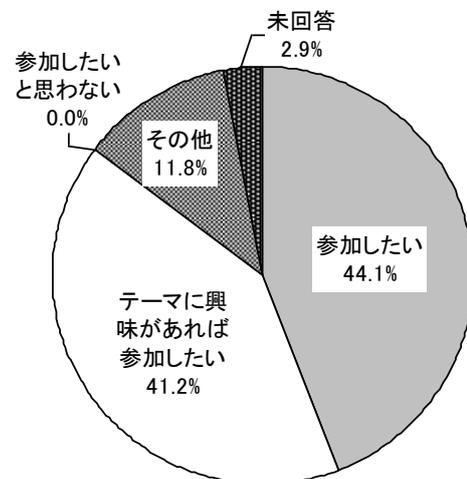
II(5)テーマごとの討議時間はいかがでしたか？

No	選択項目	回答数
1	短かった	6
2	ちょうど良かった	25
3	長かった	2
4	その他	0
5	未回答	1



II(6)今後、このような討議会が企画されたら、参加したいと思いますか？

No	選択項目	回答数
1	参加したい	15
2	テーマに興味があれば参加したい	14
3	参加したいと思わない	0
4	その他	4
5	未回答	1



4 その他

- ・ 日程が合えば参加したい。
- ・ ボランティアだったらやります。

II(7)自由意見

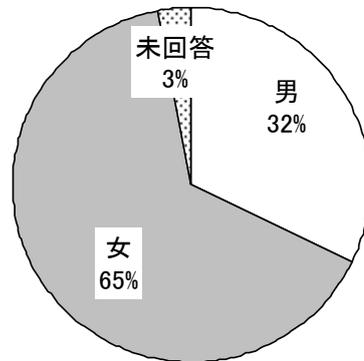
- ・ KJ 法、初めてだったがとても良かった。大和市が好きになった。
- ・ 事後説明会があれば、更に関心が深まります。
- ・ 市側の市民への要望を若手職員から聞ければ。
- ・ 大和市の県内の他都市と比較したときの長短。
- ・ 大和市の将来構想を口頭でお聞きしたかった。
- ・ ワークショップ形式は、楽しい会話の中からヒントが出てくるのが良い点。その中の意見をまとめるコーディネーターが外部の方だったことが良かった。※いろいろ配布された資料（グラフ）などを精査することはないのですか。グラフの読みとり方が全く納得できませんでした。
- ・ 高校生の方もグループ内に入られると良いのではと思いました。参加できましたことを感謝しています。
- ・ この討議会を第一歩として、必ず意味のある「行政と地域と共に!!!」の大きな一歩としてください!!!
- ・ 参加者全員が発言されて良かった。他人の意見が新鮮でありました。
- ・ これで終わりではなく、市民参加の討議会を続けてほしい。
- ・ 色々な人の意見が聞けて良かったです。
- ・ 今回参加した人達と、また会える機会があると嬉しいです。(任意で名簿をつくって渡すとか)
- ・ 皆様の意見が聞けて大変良かったと思います。
- ・ まずこういう市民参加の場をつくってもらったことを評価します。まとめへの誘導については、出来るだけ時間がかかっても、市民参加者に委ねて欲しいと思います。
- ・ KJ 法をよりよく円滑に進めるためにも、慣れるまでは進行役、あるいは進行の仕方を教えながら進めていったらより良いかも。今回出たすべてを撮影してあることでしょうか。名前を伏せて HP に掲載しませんでしょうか。お茶くらいなら自分で用意してきますよ。
- ・ 高校生を参加させたことは大変良いと思いますが、固まらせず各グループに分散させた方が、若い層の本音が市民も聞けて良いと思います。1 回目と 2 回目の会場は変えない方がよかったです。このような機会に参加させていただき、誠にありがとうございました。
- ・ 小学生、中学生も参加して、子ども目線からの意見を聞いても良いものではないでしょうか。大和市民だけでなく、仕事で大和市に来ている人にも参加してもらい、自分が住んでいるところとの違いなどを聞いてみるのも良いと思います。
- ・ 今回はこのような企画に参加させていただきまして、ありがとうございました。今後も、KJ 法を利用した方法で、意見交換が出来たらいいと思いました。(自由に意見が出しやすい)
- ・ 進行役、発表役などを決める際は、抽選やじゃんけんにしてほしい。

II(7)自由意見の続き

- ・ 参加者は発言の希望があり、参加していると思われる。事務局の説明、講師の話が長く、参加者の発言時間が少ない。市の組織が大きく、取りまとめは、政策部が前面に出て、積極的に行うべき。
- ・ 行政を身近に感じました。定期的に討議会を行ってください。コーディネーターのサポートが良かった。
- ・ 初めての試みということで、今回の件が次回に繋がったら良いと思います。次回に向けて、今回の討議を行っている様子により、プラスになるよう考慮してくれたら嬉しいです。ありがとうございました。
- ・ 討論に入っていくまでに、どうしても時間がかかってしまうので（気持的に）、事前にテーマを渡しておく方が良いのでは。またメンバーとの顔合わせについても同様。
- ・ いろいろな世代の人との考え方、見方が出来て参考になった。
- ・ 事前の情報提供（情報、統計データが少ない）
- ・ 討議のテーマが事前にわかれば（自分が担当するテーマ）もっと良い意見が出ると思った。
- ・ 今回の討議会では、あらかじめある程度のテーマが決められていたり、希望外のテーマに割り振られたりしたので、そうした制限をなくして、より多方面から自由な意見・アイデアをだせるようなやり方が出来たらいいのではないかと思います。
- ・ 一日目「学校教育について」のテーマでしたが、皆、子どもたちが卒業し大きくなった人達ばかりなので、現役のお母さん（子どもが小、中、高校に通っている）が一人でも入っていると、現状が良く分かると思いました。また、二日目の高校生も大和出身の方が一人もいない、ということで外からの目線も良いのですが、半分くらいは大和出身の方がいたほうが良い等、人選を考えた方が良いと思いました。
- ・ 疲れたけど、色んな人の意見が聞けて良かったです。大和についてちょっとわかった。
- ・ 楽しかったです。

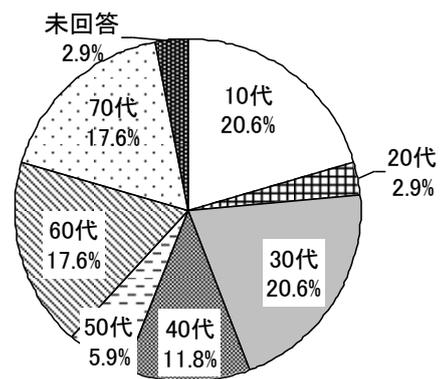
Ⅲ. 性別はどちらですか？

No	項目	回答数
1	男	11
2	女	22
3	未回答	1



Ⅳ. 年代を教えてください。

No	項目	回答数
1	10代	7
2	20代	1
3	30代	7
4	40代	4
5	50代	2
6	60代	6
7	70代	6
8	未回答	1



皆さん、
お忙しい中、ご参加いただき、
ありがとうございました。

これからも、
よろしくお願いします。

大和市イベントキャラクター「ヤマトン」



やまと市民討議会 開催結果



大和市イベントキャラクター「ヤマト」

問合せ先
大和市 政策部 総合政策課 総合計画担当
電話：046-260-5350（直通）

～～～ 当日のプログラム ～～～

「第8次総合計画・後期基本計画」の策定に向けて 『やまと市民討議会』を開催しました！

大和市の将来都市像「健康創造都市 やまと」を実現するための後期基本計画（平成 26～30 年度）策定に向け、平成 24 年 10 月 13 日（土）、20 日（土）の 2 日間にわたって、『やまと市民討議会』を開催しました。これは、サイレントマジョリティと呼ばれる、市に意見を述べる機会の少ない人たちの意見を伺うために、市が企画したものです。



無作為に抽出した 18 歳以上の市民 3,000 人に参加案内を送付し、その中から応募のあった 27 人に参加していただきました。また、市内の高等学校のうち 4 校から 13 人の生徒も参加。若者ならではの発想で意見を述べってもらうことにより、一般の方々も良い刺激を受け、討議会全体が活性化されました。さらに、本市の若手職員 16 人も、行政のプロとしての能力アップのため参加しました。

【1日目】10月13日（土） 会場：市地域医療センター 2階講習室

時間	内容	時間	内容
9:30～10:00	受付	13:00～13:05	市長あいさつ
10:00～10:05	開会、主催者あいさつ	13:05～13:40	テーマ：人の健康 情報提供、役割分担の決定
10:05～10:10	討議会開催の趣旨説明	13:40～15:30	討議
10:10～11:00	討議の進め方、市の概要、総合計画について	15:30～15:35	（休憩）
11:00～12:00	講演：国士舘大学 平石正美教授 テーマ：市民社会を確立するための 制度設計の考え方	15:35～16:15	発表（各班 5 分）
		16:15～16:25	平石教授による講評
		16:25～16:30	事務連絡、解散
12:00～13:00	（昼食）		

【2日目】10月20日（土） 会場：市勤労福祉会館 3階ホール

時間	内容	時間	内容
8:30～9:00	受付	13:20～13:55	テーマ：社会の健康 情報提供、役割分担の決定
9:00～9:05	あいさつ、日程の確認	13:55～15:35	討議
9:05～9:40	テーマ：まちの健康 情報提供、役割分担の決定	15:35～15:40	（休憩）
9:40～11:20	討議	15:40～16:25	発表（各班 5 分）
11:20～11:25	（休憩）	16:25～16:35	平石教授による講評
11:25～12:10	発表（各班 5 分）	16:35～16:40	主催者あいさつ
12:10～12:20	平石教授による講評	16:40～16:45	事務連絡、閉会
12:20～13:20	（昼食）		

～～～ 講演 市民社会を確立するための制度設計の考え方 ～～～

国士舘大学政経学部
教授 平石 正美氏に
講演していただき
ました。



日本人の社会性が変わって
きた要因は…？？

【重要な視点】

- ① 今までとは異なる新たな視点からのコミュニティの活性化、ネットワークの再構築
- ② 市民参加の枠組みの再設計
- ③ 共感や連帯感を実現できる社会の形成

これからの地方自治
のあり方とは…？？

《市民討議会に参加して…（参加者のうち 34 人の方からの回答）》

- ・市内各地域のいろいろな年代の方々と話すことができ楽しかった。（50 代女性）
 - ・これで終わりではなく、市民参加の討議会を続けてほしい。（60 代女性）
 - ・「地域力」が、今後は必要なのだと実感できた。この討議会をきっかけに「気軽に何かに参加してみよう！」という気持ちが芽生えた。（30 代男性）
など多数の感想が寄せられました。
- また、参加して「良かった（29 人）」「まあまあ良かった（5 人）」と大変肯定的な感想をいただきました。

● 今後の取り組み ●

この市民討議会で頂いた内容は、市民参画で得た貴重な意見としてとりまとめ、後期基本計画を検討・作成するための重要資料として取り扱います。



3つの「健康」をテーマに各グループで話し合っていました！！

人の健康

主要課題

対応方針・解決策

①心身の健康について

1グループ

- ・緊急医療体制の向上
- ・検診への参加
- ・地域の活性化や環境の美化

- ・医師の増員、夜間対応の拡充
- ・楽しみをもって参加できるように 他
- ・自治会への参加や緑を増 他

2グループ
★高校生

- ・医療サービスの宣伝
- ・病気について相談しやすい環境づくり
- ・人との交流（声かけ）

- ・掲示板、回覧板等で周知
- ・他人との壁をなくし、親近感を醸成する 他
- ・交流の場を増やす

②高齢者、障がい者などへの支援について

3グループ

- ・誰もが暮らしやすい環境づくり
- ・助けあいの地域づくり
- ・弱い立場の方の視点に立ったサービスづくり

- ・緑の保全・活用、施設の利便性の向上
- ・ネットワークづくり 他
- ・弱い立場の方に配慮できるよう職員等の質を向上する

4グループ

- ・福祉情報の入手方法
- ・高齢者の生きがい活動の活発化
- ・民生委員・介護施設の不足

- ・相談窓口の一本化、情報提供の多様化
- ・若い世代の自治会入会を促進 他
- ・不足補充のための予算化

③子育て支援について

5グループ

- ・行政が子を預けたい親のニーズに対応できていない
- ・施設やサービスはあるが利用されていない
- ・安心して子どもを外で遊ばせられない

- ・保育施設、行政とボランティアの連携
- ・サービス提供の方法を工夫する 他
- ・昔からの公園や広場を点検整備する

6グループ

- ・地域で子育てを助ける仕組み
- ・世代を超えたコミュニケーションの機会づくり
- ・子育てにはお金が必要

- ・子どもあずかり隊をつくる 他
- ・自然教室での多世代間コミュニケーション
- ・予防接種の助成金を増やす

④学校教育について

7グループ

- ・人づくり
- ・いじめ問題

- ・声かけ運動、スポーツ教育 他
- ・教育現場の体制、地域活動による教育

8グループ
★高校生

- ・先生がいじめの実態を把握できていない
- ・通学路で交通ルールが守られていない
- ・図書館の見た目が入りづらい

- ・生徒が気軽に相談できる場所を増やす 他
- ・定期的に交通安全教室を実施する 他
- ・図書館をもっとおしゃれにする 他

まちの健康

主要課題

対応方針・解決策

⑤安心安全を感じる生活について

1グループ

- ・防犯対策の強化・充実、朝方の防犯対策
- ・道路事情
- ・自治会活動の弱体化

- ・地域みんなで防犯 他
- ・車と人との共存 他
- ・主婦、退職世代の参加 他

2グループ

- ・静かな(騒音のない)暮らし
- ・地域の取り組み
- ・行政の取り組み姿勢

- ・基地をなくす、移転
- ・世代を超えた地域でのコミュニケーション
- ・地域・行政共に取り組む 他

⑥快適で利便性の高い街づくりについて

3グループ

- ・ゴミバス運行の効率化
- ・自転車道の整備と乗車マナーの向上
- ・小規模公園の再生・整備

- ・「のりあい」の利用を検討
- ・自転車の乗り方教室の開催など
- ・市と各自治会で話し合いを行う

4グループ

- ・公園・農地の有効活用
- ・コミュニティバス(のろっと)の利便性をあげる(道路・交通)
- ・市民の意識が低い

- ・使用されていない農地・緑地を子どもたちに開放 他
- ・使いやすさをリサーチする 他
- ・市民討議会の開催 他

⑦環境への配慮やまちの緑化について

5グループ

- ・遊休農地の有効活用
- ・美化運動の積極化
- ・CO₂の削減

- ・民間組織への提供 他
- ・住民同士の声の掛け合い 他
- ・コミュニティバス(のろっと)の増加(台数・ルート) 他

6グループ

- ・自然との共生をテーマにした街づくり
- ・ごみの減量化
- ・河川の水質向上

- ・ランドデザインの明確化
- ・市内企業による過剰包装の低減化 他
- ・市独自の排水基準を設定 他

7グループ
★高校生

- ・ごみが多くて害虫が多い
- ・タバコのポイ捨てが多い
- ・緑が少ない

- ・害虫・害獣駆除 他
- ・市のルールをパンフレットにして配る 他
- ・地域で管理する花壇をつくる 他



社会の健康

主要課題

対応方針・解決策

⑧豊かな心を育む生涯学習、文化活動について

1グループ

- ・大和らしい伝統の掘り起こし
- ・図書館や文化施設の充実
- ・スポーツ施設の充実

- ・郷土史家、趣味のサークル等の活用
- ・量より質の充実 他
- ・なでしこ(女子サッカー)に特化する 他

2グループ

- ・地域人材の活用
- ・施設の充実
- ・イベント等の告知

- ・地元の文化人等による勉強会・講演会
- ・図書室のアップグレード 他
- ・広報誌が市民全員に届くような制度づくり 他

⑨まちの活力や賑わいについて

3グループ

- ・交流の盛んなまちづくり
- ・魅力ある商業が栄えるまちづくり
- ・地域に根付いた会社が育つまちづくり

- ・メディアへの露出、PRの強化 他
- ・駅前等の商業地域の環境整備
- ・会社設立のサポート体制の確立 他

4グループ

- ・市内産業の活性化
- ・厚木基地を核とした多文化共生
- ・世代間や地域と行政などの連携強化

- ・産業ツアー 他
- ・お互いの名産品を伝え合う 他
- ・老若男女が参加できるお祭りの創出 他

⑩大和の魅力のPRについて

5グループ

- ・ヤマトンのアピール
- ・女子サッカー
- ・厚木基地

- ・ヤマトンの恋人募集 他
- ・なでしこメンバーと交流できるイベント 他
- ・弱みを強みにしてPR材料に

6グループ

- ・情報量が少ない、情報多様化
- ・自然環境整備
- ・魅力的な企画

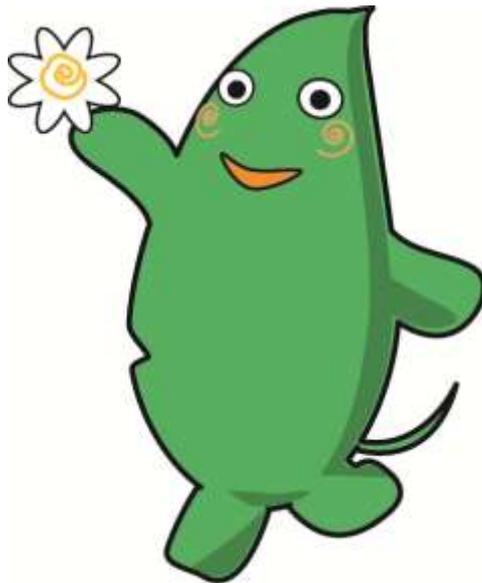
- ・情報発信源の一本化 他
- ・整備を続けられる体制づくり 他
- ・市民参加型イベント 他

7グループ
★高校生

- ・ヤマトン
- ・市の知名度が低い
- ・若い子向けのものがない

- ・ヤマトンに特徴を付ける 他
- ・芸能人をイベントに呼ぶ 他
- ・レジャー施設をつくる 他





大和市イベントキャラクター「ヤマトン」



やまと市民討議会 報告書

大和市政策部総合政策課

〒242-8601 大和市下鶴間1-1-1

TEL 046-260-5350

<http://www.city.yamato.lg.jp/>